



プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備 考
 <p>北海道 その先の、道へ。北海道 Hokkaido. Expanding Horizons.</p> <p>北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】 【令和3年度(2021年度)～令和<u>9</u>年度(2027年度)】</p> <p>[素案（案）]</p> <p>令和 <u> </u> 年(<u> </u> 年) <u> </u> 月</p> <p>北海道 道立病院局</p>	 <p>北海道 その先の、道へ。北海道 Hokkaido. Expanding Horizons.</p> <p>北海道病院事業改革推進プラン 【令和3年度(2021年度)～令和<u>7</u>年度(2025年度)】</p> <p>令和<u>3</u>年(<u>2021</u>年)<u>3</u>月</p> <p>北海道 道立病院局</p>	

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】(素案)	現行プラン	備 考
<h3 style="text-align: center;">はじめに</h3> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 20px; margin: 20px auto; width: 80%;">「原案時」(令和5年2月予定)に提示</p> <p>令和 年 (年) 月</p> <p style="text-align: right;">北海道病院事業管理者 鈴木 信寛</p>	<h3 style="text-align: center;">はじめに</h3> <p>道では、道立病院が地域に必要な医療を安定的に提供していけるよう、平成29年(2017年)3月に「北海道病院事業改革推進プラン」を策定するとともに、同年4月には地方公営企業法の全部適用への移行、さらには、平成30年(2018年)4月に北見病院に指定管理者制度を導入するなど、道立病院の効果的、効率的な病院運営に向けて、様々な取組を推進してきました。</p> <p>少子高齢化や人口減少をはじめ、「病院完結型」の医療から「地域完結型」の医療へのニーズの変化、さらには、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行など、医療を取り巻く環境は急速に変化しており、病院運営はこれまで以上に厳しい状況にあります。</p> <p>また、いわゆる団塊の世代が75歳を迎える令和7年(2025年)以降も少子高齢化の進行や生産年齢人口の減少が加速化することから、国では、令和22年(2040年)の医療提供体制を見据えて、「地域医療構想の実現に向けた取組」、「医療従事者の働き方改革」、「医師偏在対策」を推進してこととしており、道立病院においても、こうした課題に的確に対応するとともに、公立病院としての公共性を確保しながら、地域における役割を果たすべく、これまで以上に効果的、効率的に病院運営を行っていく必要があります。</p> <p>こうした状況を踏まえながら、道立病院6病院の今後の方向性などについて、北海道病院事業推進委員会に新たに設置した改革推進プラン検討部会にて検討を行い、本プランの策定に至ったところです。</p> <p>本プランを着実に実行し、道立病院の存在意義を高め、持続可能な病院経営となるよう、様々な取組を進めてまいりますので、道民の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>本プランの策定に当たり、多大なご尽力をいただきました北海道病院事業推進委員会の小熊委員長、同改革推進プラン検討部会の佐古部会長をはじめ、委員各位、そして、貴重なご意見をいただいた皆様に心から感謝を申し上げます。</p> <p>令和3年(2021年)3月</p> <p style="text-align: right;">北海道病院事業管理者 鈴木 信寛</p>	<p>○新たに掲載予定</p>

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
目次	目次	
I 基本的事項 <ul style="list-style-type: none"> 1 策定の趣旨 2 プランの位置づけ 3 プランの期間 4 プランの策定・推進体制 	I 基本的事項 <ul style="list-style-type: none"> 1 策定の趣旨 2 プランの位置づけ 3 プランの期間 4 プランの策定・推進体制 	
II 道立病院の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> 1 道立病院の現況 2 経営形態の移行及び経営状況 3 病院経営上の課題 	II 道立病院の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> 1 道立病院の現況 2 経営形態の移行及び経営状況 3 病院経営上の課題 	
III 道立病院が果たすべき役割・機能 <ul style="list-style-type: none"> 1 江差病院 2 羽幌病院 3 緑ヶ丘病院 4 向陽ヶ丘病院 5 子ども総合医療・療育センター（コドモックル） 6 北見病院 	III 道立病院が果たすべき役割・機能 <ul style="list-style-type: none"> 1 江差病院 2 羽幌病院 3 緑ヶ丘病院 4 向陽ヶ丘病院 5 子ども総合医療・療育センター（コドモックル） 6 北見病院 	
IV 医療従事者等の確保対策 <ul style="list-style-type: none"> 1 現状 2 課題 3 今後の取組 	IV 医療従事者等の確保対策 <ul style="list-style-type: none"> 1 現状 2 課題 3 今後の取組 	
V 機能分化・連携強化 <ul style="list-style-type: none"> 1 現状 2 課題 3 今後の取組 	V 再編・ネットワーク化 <ul style="list-style-type: none"> 1 現状 2 課題 3 今後の取組 	○国ガイドラインに合わせた修正
VI 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組 <ul style="list-style-type: none"> 1 現状 2 課題 3 今後の取組 		○国ガイドラインに合わせた修正
VII 経営の効率化 <ul style="list-style-type: none"> 1 現状 2 課題 3 設定する指標及び数値目標 4 経営改善に向けた取組 5 経営形態の移行 	VI 経営の効率化 <ul style="list-style-type: none"> 1 現状 2 課題 3 設定する指標及び数値目標 4 経営改善に向けた取組 5 経営形態の移行 	
VIII 一般会計負担金の算定の考え方	VII 一般会計負担金の算定の考え方	
IX 収支計画及び数値目標	VIII 収支計画及び数値目標	

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備 考
<p>X プランの点検・評価、公表等……………●</p> <p>1 北海道病院事業推進委員会の設置……………●</p> <p>2 委員会点検・評価の公表……………●</p> <p>巻末資料……………●</p>	<p>IX プランの点検・評価、公表等……………48</p> <p>1 北海道病院事業推進委員会の設置……………48</p> <p>2 委員会点検・評価の公表……………48</p> <p>巻末資料……………49</p>	

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】(素案)	現行プラン	備考
<p>I 基本的事項</p> <p>1 策定の趣旨</p> <p>道では、道立病院が地域に必要な医療を継続して提供していくことができるよう、平成 29 年(2017 年)3 月に策定した「北海道病院事業改革推進プラン」に基づき、経営改善に向けた病院運営の見直しを進めてきたところ。人口減少や少子高齢化の進行など、本道の病院経営を取り巻く環境が厳しさを増していく中で、道立病院が今後とも、地域で必要とされる医療を提供していくため、公立病院としての公共性を確保するとともに、効果的、効率的な医療の提供や経済性の追求など、経営改革を着実に進めていく必要があります。</p> <p>また、道立病院が引き続き周辺医療機関との連携や役割・機能分担を進めるとともに、道民の皆様が医療や介護サービスが必要となっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療と介護の連携も十分考慮しながら、地域のニーズに適切に応えていく必要もあります。</p> <p>こうした状況を踏まえながら、直面する課題に的確に対応するため、令和 3 年度(2021 年度)に新たなプランを策定し、経営改革に向けた取組を推進してきたところですが、令和 4 年(2022 年)3 月に国から「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」が示されたことから、より一層経営強化を図るため、本プランを改訂するものです。</p> <p>2 プランの位置づけ</p> <p>○ 本プランは、「北海道総合計画」が示す政策の基本的な方向に沿って策定、推進する特定分野別計画であり、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に資するものです。</p> <div data-bbox="172 1146 1163 1369" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)</p> <p>2015 年 9 月に国連サミットで採択された、2030 年を期限とする先進国を含む国際社会全体の開発目標であり、17 のゴール (目標) と、それぞれの下により具体的な 169 のターゲットがある。全ての関係者 (先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等) の役割を重視し、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に統合的に取り組むもの。</p> </div> <p>3 プランの期間</p> <p>令和 3 年度(2021 年度)から令和 9 年度(2027 年度)までの 7 年間とします。</p> <p>4 プランの策定・推進体制</p> <p>○ 本プランの策定に当たっては、医師会や医育大学、専門領域の医師、自治体病院からの外部委員で構成する「北海道病院事業推進委員会改革推進プラン検討部会」において必要な協議を行うとともに、パブリックコメントを実施し、広く道民や医師会をはじめ関係団体からも意見を伺いながら本プランを取りまとめました。</p> <p>○ 本プランについては、「北海道病院事業推進委員会」で点検・評価をいただきながら推進していきます。</p>	<p>I 基本的事項</p> <p>1 策定の趣旨</p> <p>道では、道立病院が地域に必要な医療を継続して提供していくことができるよう、平成 29 年(2017 年)3 月に策定した「北海道病院事業改革推進プラン」に基づき、経営改善に向けた病院運営の見直しを進めてきたところ。人口減少や少子高齢化の進行など、本道の病院経営を取り巻く環境が厳しさを増していく中で、道立病院が今後とも、地域で必要とされる医療を提供していくため、公立病院としての公共性を確保するとともに、効果的、効率的な医療の提供や経済性の追求など、経営改革を着実に進めていく必要があります。</p> <p>また、道立病院が引き続き周辺医療機関との連携や役割・機能分担を進めるとともに、道民の皆様が医療や介護サービスが必要となっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療と介護の連携も十分考慮しながら、地域のニーズに適切に応えていく必要もあります。</p> <p>こうした状況を踏まえながら、直面する課題に的確に対応するとともに、<u>経営改革に向けた取組を一層推進するため、令和 3 年度(2021 年度)を始期とする新たなプランを策定する</u>ものです。</p> <p>2 プランの位置づけ</p> <p>○ 本プランは、「北海道総合計画」が示す政策の基本的な方向に沿って策定、推進する特定分野別計画であり、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に資するものです。</p> <div data-bbox="1282 1146 2273 1369" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)</p> <p>2015 年 9 月に国連サミットで採択された、2030 年を期限とする先進国を含む国際社会全体の開発目標であり、17 のゴール (目標) と、それぞれの下により具体的な 169 のターゲットがある。全ての関係者 (先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等) の役割を重視し、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に統合的に取り組むもの。</p> </div> <p>3 プランの期間</p> <p>令和 3 年度(2021 年度)から令和 7 年度(2025 年度)までの 5 年間とします。</p> <p>4 プランの策定・推進体制</p> <p>○ 本プランの策定に当たっては、医師会や医育大学、専門領域の医師、自治体病院からの外部委員で構成する「北海道病院事業推進委員会改革推進プラン検討部会」において必要な協議を行うとともに、パブリックコメントを実施し、広く道民や医師会をはじめ関係団体からも意見を伺いながら本プランを取りまとめました。</p> <p>○ 本プランについては、「北海道病院事業推進委員会」で点検・評価をいただきながら推進していきます。</p>	<p>・国のガイドラインが示されたことによる時点修正</p> <p>・新ガイドラインの対象期間と整合を図るための修正</p>

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
--------------	-------	----

II 道立病院の現状と課題

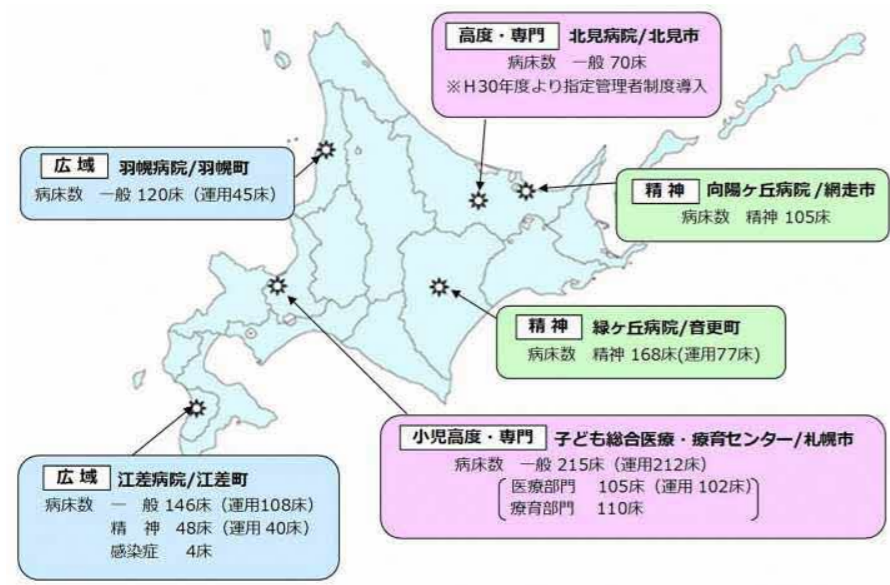
1 道立病院の現況

道立病院は、公立病院としての公共性の確保や公営企業としての経済性の追求に努めながら、民間医療機関が参入しにくい地域での広域的な医療や精神医療、高度・専門医療など、地域に必要な医療を提供しており、現在6つの病院を運営しています。

広域医療	精神医療	高度・専門医療
江差病院 羽幌病院	緑ヶ丘病院 向陽ヶ丘病院	北見病院 子ども総合医療・療育センター
○民間の医療機関が参入しにくい地域において、地域センター病院として地域の医療の確保を図っています。	○精神保健福祉法に基づき、都道府県に設置義務のある精神科病院であり、圏域における救急や急性期医療を担うとともに、児童・思春期精神医療、向陽ヶ丘病院においては、認知症専門医療を提供しています。	○北見病院は第三次医療圏における循環器・呼吸器疾患、子ども総合医療・療育センターは全道域を対象とした小児疾患に対し、それぞれ高度で専門的な技術・設備を活用して専門性の高い医療を提供しています。

※精神保健福祉法：正式名称「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」

【全道図】所在地等一覧



II 道立病院の現状と課題

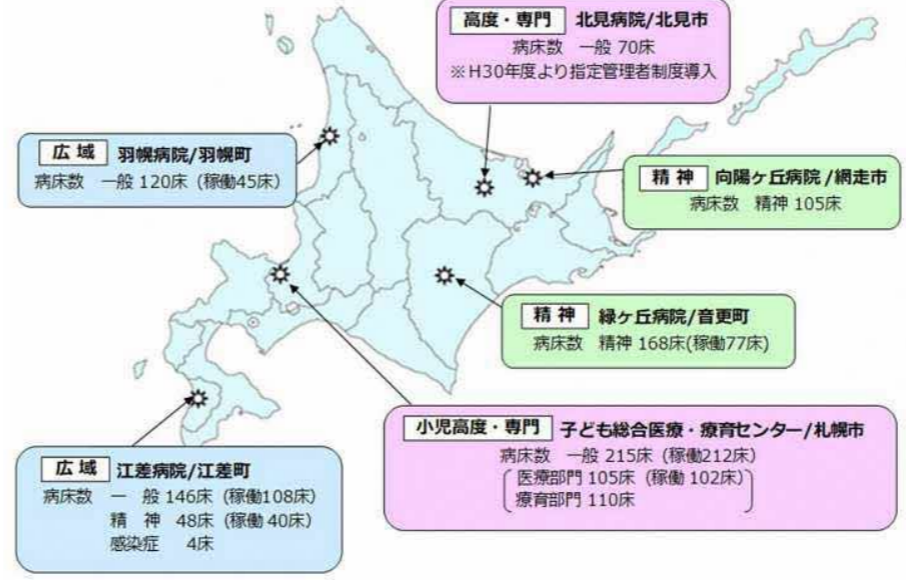
1 道立病院の現況

道立病院は、公立病院としての公共性の確保や公営企業としての経済性の追求に努めながら、民間医療機関が参入しにくい地域での広域的な医療や精神医療、高度・専門医療など、地域に必要な医療を提供しており、現在6つの病院を運営しています。

広域医療	精神医療	高度・専門医療
江差病院 羽幌病院	緑ヶ丘病院 向陽ヶ丘病院	北見病院 子ども総合医療・療育センター
○民間の医療機関が参入しにくい地域において、地域センター病院として地域の医療の確保を図っています。	○精神保健福祉法に基づき、都道府県に設置義務のある精神科病院であり、圏域における救急や急性期医療を担うとともに、児童・思春期精神医療、向陽ヶ丘病院においては、認知症専門医療を提供しています。	○北見病院は第三次医療圏における循環器・呼吸器疾患、子ども総合医療・療育センターは全道域を対象とした小児疾患に対し、それぞれ高度で専門的な技術・設備を活用して専門性の高い医療を提供しています。

※精神保健福祉法：正式名称「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」

【全道図】所在地等一覧



「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

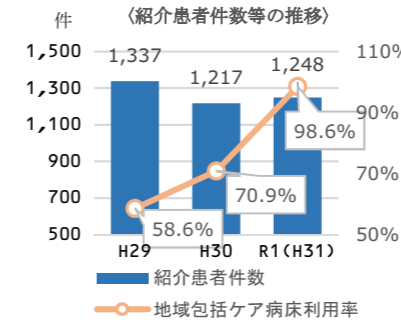
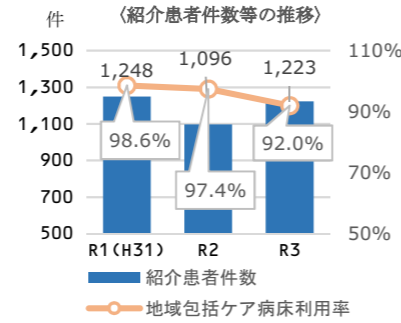
プラン【改訂版】(素案)	現行プラン	備考																																																																																																		
<p>2 経営形態の移行及び経営状況</p> <p>道立病院局では、平成 29 年度(2017 年度)から国の「新公立病院改革ガイドライン」に基づく「北海道病院事業改革推進プラン」をスタートさせると同時に、病院事業の経営形態を地方公営企業法の全部適用に移行し、新たに設置した病院事業管理者の下、医療従事者確保対策の充実や経営の効率化を図るとともに、各病院の地域連携部門を強化するなど、プランに掲げる目標の達成に向けて取り組んできました。</p> <p>しかしながら、人口減少や新型コロナウイルス感染症による受診控えなどにより、入院患者数・外来患者数は減少傾向となっている一方で、新型コロナウイルス感染症関連補助金により収支差は改善しています。また、他会計負担金は 60 億円前後で推移しています。</p> <p>〈病院事業経営状況(収益的収支)の推移〉</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>収益</th><th>費用</th><th>他会計負担金</th></tr> <tr><td>R1年度</td><td>8,686</td><td>15,645</td><td>6,444</td></tr> <tr><td>R2年度</td><td>9,186</td><td>15,866</td><td>6,529</td></tr> <tr><td>R3年度</td><td>9,797</td><td>15,805</td><td>5,800</td></tr> </table> <p>〈患者数及び病床利用率の推移〉</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>入院患者数</th><th>外来患者数</th><th>病床利用率</th></tr> <tr><td>R1(H31)</td><td>368.7</td><td>964.3</td><td>53.9%</td></tr> <tr><td>R2</td><td>329</td><td>879.9</td><td>50.1%</td></tr> <tr><td>R3</td><td>324.3</td><td>911.3</td><td>49.4%</td></tr> </table>	年度	収益	費用	他会計負担金	R1年度	8,686	15,645	6,444	R2年度	9,186	15,866	6,529	R3年度	9,797	15,805	5,800	年度	入院患者数	外来患者数	病床利用率	R1(H31)	368.7	964.3	53.9%	R2	329	879.9	50.1%	R3	324.3	911.3	49.4%	<p>2 経営形態の移行及び経営状況</p> <p>道立病院局では、平成 29 年度(2017 年度)から国の「新公立病院改革ガイドライン」に基づく「北海道病院事業改革推進プラン」をスタートさせると同時に、病院事業の経営形態を地方公営企業法の全部適用に移行し、新たに設置した病院事業管理者の下、医療従事者確保対策の充実や経営の効率化を図るとともに、各病院の地域連携部門を強化するなど、プランに掲げる目標の達成に向けて取り組んできました。</p> <p>しかしながら、人口減少や精神医療における「入院医療中心から地域生活中心へ」という国の方針に基づく地域移行の推進などにより、入院患者数・外来患者数が減少するとともに、収支差が拡大しており、他会計負担金は 60 億円台で推移しています。</p> <p>〈病院事業経営状況(収益的収支)の推移〉</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>収益</th><th>費用</th><th>他会計負担金</th></tr> <tr><td>H29年度</td><td>10,045</td><td>16,645</td><td>6,147</td></tr> <tr><td>H30年度</td><td>8,777</td><td>15,696</td><td>6,366</td></tr> <tr><td>R元年度</td><td>8,686</td><td>15,645</td><td>6,444</td></tr> </table> <p>〈患者数及び病床利用率の推移〉</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>入院患者数</th><th>外来患者数</th><th>病床利用率</th></tr> <tr><td>H29年度</td><td>398.7</td><td>977.2</td><td>55.8%</td></tr> <tr><td>H30年度</td><td>375.3</td><td>973.4</td><td>52.6%</td></tr> <tr><td>R元年度</td><td>368.7</td><td>964.3</td><td>53.9%</td></tr> </table>	年度	収益	費用	他会計負担金	H29年度	10,045	16,645	6,147	H30年度	8,777	15,696	6,366	R元年度	8,686	15,645	6,444	年度	入院患者数	外来患者数	病床利用率	H29年度	398.7	977.2	55.8%	H30年度	375.3	973.4	52.6%	R元年度	368.7	964.3	53.9%	<p>※グラフ中の令和 3 年度数値は、決算見込</p> <p>・直近の経営状況を踏まえた時点修正</p>																																		
年度	収益	費用	他会計負担金																																																																																																	
R1年度	8,686	15,645	6,444																																																																																																	
R2年度	9,186	15,866	6,529																																																																																																	
R3年度	9,797	15,805	5,800																																																																																																	
年度	入院患者数	外来患者数	病床利用率																																																																																																	
R1(H31)	368.7	964.3	53.9%																																																																																																	
R2	329	879.9	50.1%																																																																																																	
R3	324.3	911.3	49.4%																																																																																																	
年度	収益	費用	他会計負担金																																																																																																	
H29年度	10,045	16,645	6,147																																																																																																	
H30年度	8,777	15,696	6,366																																																																																																	
R元年度	8,686	15,645	6,444																																																																																																	
年度	入院患者数	外来患者数	病床利用率																																																																																																	
H29年度	398.7	977.2	55.8%																																																																																																	
H30年度	375.3	973.4	52.6%																																																																																																	
R元年度	368.7	964.3	53.9%																																																																																																	
<p>3 病院経営上の課題</p> <p>(1) 病院経営を巡る環境変化への対応</p> <p>全国を上回るスピードで人口減少が進行する本道において、特に一般病床を有する道立病院が所在する地域では、その傾向が著しく、近年の患者数の推移からも患者数の増加を前提とした経営改善は困難であることから、周辺医療機関との連携や役割分担・機能分担を進め、効果的、効率的に医療を提供していくことが求められます。</p> <p>精神医療については、国の方針等によって、入院患者数が減少傾向にあることから、今後の患者動向等を見据えながら、精神科医療を取り巻く環境変化にも適切に対応していく必要があります。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症を含む新興感染症への対応にあたっては、各道立病院の機能に応じて、感染症対策を講じた上で、対応していく必要があります。</p> <p>〈北海道における年齢 3 区分別人口の推移〉</p> <table border="1"> <tr><th>年</th><th>年少人口</th><th>生産年齢人口</th><th>高齢者人口</th><th>年少人口割合</th><th>生産年齢人口割合</th><th>高齢者人口割合</th></tr> <tr><td>2015年</td><td>1,565</td><td>3,207</td><td>5,382</td><td>11.3%</td><td>29.1%</td><td>59.6%</td></tr> <tr><td>2020年</td><td>1,696</td><td>2,959</td><td>5,217</td><td>10.8%</td><td>27.8%</td><td>56.7%</td></tr> <tr><td>2025年</td><td>1,724</td><td>2,781</td><td>5,017</td><td>10.2%</td><td>25.9%</td><td>55.4%</td></tr> <tr><td>2030年</td><td>1,732</td><td>2,595</td><td>4,792</td><td>9.7%</td><td>23.9%</td><td>54.2%</td></tr> <tr><td>2035年</td><td>1,729</td><td>2,394</td><td>4,546</td><td>9.3%</td><td>21.4%</td><td>52.7%</td></tr> <tr><td>2040年</td><td>1,749</td><td>2,141</td><td>4,280</td><td>9.1%</td><td>19.1%</td><td>50.0%</td></tr> </table>	年	年少人口	生産年齢人口	高齢者人口	年少人口割合	生産年齢人口割合	高齢者人口割合	2015年	1,565	3,207	5,382	11.3%	29.1%	59.6%	2020年	1,696	2,959	5,217	10.8%	27.8%	56.7%	2025年	1,724	2,781	5,017	10.2%	25.9%	55.4%	2030年	1,732	2,595	4,792	9.7%	23.9%	54.2%	2035年	1,729	2,394	4,546	9.3%	21.4%	52.7%	2040年	1,749	2,141	4,280	9.1%	19.1%	50.0%	<p>3 病院経営上の課題</p> <p>(1) 病院経営を巡る環境変化への対応</p> <p>全国を上回るスピードで人口減少が進行する本道において、特に一般病床を有する道立病院が所在する地域では、その傾向が著しく、近年の患者数の推移からも患者数の増加を前提とした経営改善は困難であることから、周辺医療機関との連携や役割分担・機能分担を進め、効果的、効率的に医療を提供していくことが求められます。</p> <p>精神医療については、国の方針等によって、入院患者数が減少傾向にあることから、今後の患者動向等を見据えながら、精神科医療を取り巻く環境変化にも適切に対応していく必要があります。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行を受け、道立病院においても各病院の機能に応じて、新型コロナウイルスなどの感染症対策を講じる必要があります。</p> <p>〈北海道における年齢 3 区分別人口の推移〉</p> <table border="1"> <tr><th>年</th><th>年少人口</th><th>生産年齢人口</th><th>高齢者人口</th><th>年少人口割合</th><th>生産年齢人口割合</th><th>高齢者人口割合</th></tr> <tr><td>2015年</td><td>1,565</td><td>3,207</td><td>5,382</td><td>11.3%</td><td>29.1%</td><td>59.6%</td></tr> <tr><td>2020年</td><td>1,696</td><td>2,959</td><td>5,217</td><td>10.8%</td><td>27.8%</td><td>56.7%</td></tr> <tr><td>2025年</td><td>1,724</td><td>2,781</td><td>5,017</td><td>10.2%</td><td>25.9%</td><td>55.4%</td></tr> <tr><td>2030年</td><td>1,732</td><td>2,595</td><td>4,792</td><td>9.7%</td><td>23.9%</td><td>54.2%</td></tr> <tr><td>2035年</td><td>1,729</td><td>2,394</td><td>4,546</td><td>9.3%</td><td>21.4%</td><td>52.7%</td></tr> <tr><td>2040年</td><td>1,749</td><td>2,141</td><td>4,280</td><td>9.1%</td><td>19.1%</td><td>50.0%</td></tr> </table>	年	年少人口	生産年齢人口	高齢者人口	年少人口割合	生産年齢人口割合	高齢者人口割合	2015年	1,565	3,207	5,382	11.3%	29.1%	59.6%	2020年	1,696	2,959	5,217	10.8%	27.8%	56.7%	2025年	1,724	2,781	5,017	10.2%	25.9%	55.4%	2030年	1,732	2,595	4,792	9.7%	23.9%	54.2%	2035年	1,729	2,394	4,546	9.3%	21.4%	52.7%	2040年	1,749	2,141	4,280	9.1%	19.1%	50.0%	<p>・国ガイドラインを踏まえた修正</p>
年	年少人口	生産年齢人口	高齢者人口	年少人口割合	生産年齢人口割合	高齢者人口割合																																																																																														
2015年	1,565	3,207	5,382	11.3%	29.1%	59.6%																																																																																														
2020年	1,696	2,959	5,217	10.8%	27.8%	56.7%																																																																																														
2025年	1,724	2,781	5,017	10.2%	25.9%	55.4%																																																																																														
2030年	1,732	2,595	4,792	9.7%	23.9%	54.2%																																																																																														
2035年	1,729	2,394	4,546	9.3%	21.4%	52.7%																																																																																														
2040年	1,749	2,141	4,280	9.1%	19.1%	50.0%																																																																																														
年	年少人口	生産年齢人口	高齢者人口	年少人口割合	生産年齢人口割合	高齢者人口割合																																																																																														
2015年	1,565	3,207	5,382	11.3%	29.1%	59.6%																																																																																														
2020年	1,696	2,959	5,217	10.8%	27.8%	56.7%																																																																																														
2025年	1,724	2,781	5,017	10.2%	25.9%	55.4%																																																																																														
2030年	1,732	2,595	4,792	9.7%	23.9%	54.2%																																																																																														
2035年	1,729	2,394	4,546	9.3%	21.4%	52.7%																																																																																														
2040年	1,749	2,141	4,280	9.1%	19.1%	50.0%																																																																																														

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>（２）医療従事者の確保</p> <p>道立病院が安定的な医療を継続して提供するためには、医療従事者の確保が最も重要です。</p> <p>特に医師の確保については、医育大学への医師派遣要請を中心とし、全国自治体病院協議会への斡旋依頼を行うほか、専門研修プログラムを整備・運用し、新専門医制度に対応するとともに、医師事務作業補助者の配置等による勤務負担の軽減にも取り組んでいますが、必要な医師の充足には至らず、一部、診療体制にも影響が生じています。</p> <p>また、令和6年(2024年)には医師の働き方改革の一環である時間外労働の上限規制が施行されることから、医師等の医療従事者がより働きやすい環境で勤務できるよう、勤務環境の整備を進める必要があります。</p> <p>看護師については、都市部での需要が高まっているほか、介護分野での需要が拡大し、地域によっては確保が厳しい状況が継続しており、薬剤師についても、調剤薬局などでの継続的な需要の高まりに伴い、病院に勤務する薬剤師の確保が難しくなっています。</p> <p>このため、医師ばかりでなく、道立病院を支える医療従事者について、人材確保策の実効性を高めていくことが必要です。</p> <p>（３）経営改革に向けた取組の充実強化</p> <p>地域の医療需要が減少していく中で、必要な収益を確保していくためには、質の高い医療の提供とともに、診療報酬上、より高い施設基準や加算措置等を積極的に取得し、診療単価の増加を図っていく必要があります。</p> <p>また、令和4年度(2022年度)の診療報酬改定では、医療従事者の負担軽減をはじめ、医師等の働き方改革の推進や新型コロナウイルス感染症等にも対応できる医療提供体制の構築のための取組などが高く評価されており、こうした診療報酬制度の改正に迅速に対応していく必要があります。</p> <p>Ⅲ 道立病院が果たすべき役割・機能</p> <p>道立病院は、昭和23年(1948年)に日本医療団北海道支部から7病院2診療所の移管を受け発足し、現在に至るまで25病院を運営し、道民医療の確保に努めてきましたが、結核患者の減少や民間病院の開設により地域における医療提供体制が整備されてきたことなどから、これまで8病院を市町村などに移管するとともに、11病院を廃止し、北海道医療計画や地域の医療実情などを踏まえつつ、現在6病院を運営しています。</p> <p>こうした中、道立病院事業については、平成29年(2017年)4月から地方公営企業法の全部適用へ移行するとともに、平成30年(2018年)4月には北見病院に指定管理者制度を導入するなど、道立病院の効果的、効率的な運営に取り組んできたところです。</p> <p>一方、地域の人口減少や高齢化の進行に伴い、医療需要が大きく変化する中で、患者数の減少や医師、看護師等の医療従事者の確保が困難な状況にあるなど、本道の病院経営を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。道立病院においては、引き続き民間医療機関が参入しにくい地域での広域的な医療をはじめ、精神医療といった不採算医療や高度・専門医療などを提供する役割を担っていく必要があります。</p>	<p>（２）医療従事者の確保</p> <p>道立病院が安定的な医療を継続して提供するためには、医療従事者の確保が最も重要です。</p> <p>特に医師の確保については、医育大学への医師派遣要請を中心とし、全国自治体病院協議会への斡旋依頼を行うほか、専門研修プログラムを整備・運用し、新専門医制度に対応するとともに、医師事務作業補助者の配置等による勤務負担の軽減にも取り組んでいますが、必要な医師の充足には至らず、一部、診療体制にも影響が生じています。</p> <p>また、令和6年(2024年)には医師の働き方改革の一環である時間外労働の上限規制が施行されることから、医師等の医療従事者がより働きやすい環境で勤務できるよう、勤務環境の整備を進める必要があります。</p> <p>看護師については、都市部での需要が高まっているほか、介護分野での需要が拡大し、地域によっては確保が厳しい状況が継続しており、薬剤師についても、調剤薬局などでの継続的な需要の高まりに伴い、病院に勤務する薬剤師の確保が難しくなっています。</p> <p>このため、医師ばかりでなく、道立病院を支える医療従事者について、人材確保策の実効性を高めていくことが必要です。</p> <p>（３）経営改革に向けた取組の充実強化</p> <p>地域の医療需要が減少していく中で、必要な収益を確保していくためには、質の高い医療の提供とともに、診療報酬上、より高い施設基準や加算措置等を積極的に取得し、診療単価の増加を図っていく必要があります。</p> <p>また、令和2年度(2020年度)の診療報酬改定では、医療従事者の負担軽減をはじめ、医師等の働き方改革の推進や医療機能の分化・強化、連携、地域包括ケアシステムの推進のための取組などが高く評価されており、こうした診療報酬制度の改正に迅速に対応していく必要があります。</p> <p>Ⅲ 道立病院が果たすべき役割・機能</p> <p>道立病院は、昭和23年(1948年)に日本医療団北海道支部から7病院2診療所の移管を受け発足し、現在に至るまで25病院を運営し、道民医療の確保に努めてきましたが、結核患者の減少や民間病院の開設により地域における医療提供体制が整備されてきたことなどから、これまで8病院を市町村などに移管するとともに、11病院を廃止し、北海道医療計画や地域の医療実情などを踏まえつつ、現在6病院を運営しています。</p> <p>こうした中、道立病院事業については、平成29年(2017年)4月から地方公営企業法の全部適用へ移行するとともに、平成30年(2018年)4月には北見病院に指定管理者制度を導入するなど、道立病院の効果的、効率的な運営に取り組んできたところです。</p> <p>一方、地域の人口減少や高齢化の進行に伴い、医療需要が大きく変化する中で、患者数の減少や医師、看護師等の医療従事者の確保が困難な状況にあるなど、本道の病院経営を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。道立病院においては、引き続き民間医療機関が参入しにくい地域での広域的な医療をはじめ、精神医療といった不採算医療や高度・専門医療などを提供する役割を担っていく必要があります。</p>	<p>・診療報酬改定の内容に基づく時点修正</p>

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】(素案)	現行プラン	備考																				
<p>1 江差病院 【概要】 (令和●年(●年)●月●日現在)</p> <table border="1" data-bbox="172 331 1163 877"> <tr> <td>■所在地</td> <td>檜山郡江差町字伏木戸町 484 番地</td> </tr> <tr> <td>■病床数</td> <td>許可：一般 150 床(感染症病床 4 床含む)、精神 48 床 計 198 床 運用：一般 112 床(感染症病床 4 床含む)、精神 40 床 計 152 床 人工透析：18 床</td> </tr> <tr> <td>■職員数</td> <td>計●名 (医師●名、看護師●名、その他●名)</td> </tr> <tr> <td>■診療科目</td> <td>内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、精神科、リハビリテーション科、腎臓内科、放射線科</td> </tr> <tr> <td>■指定医療機関等</td> <td>地域センター病院、第二種感染症指定医療機関 災害拠点病院(地域災害拠点病院)、DMAT 指定医療機関、へき地医療拠点病院、地域周産期母子医療センター、救急告示医療機関</td> </tr> </table> <p>(1) 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 南檜山圏域における唯一の地域センター病院・第二種感染症指定医療機関として医療の提供に努めています。 ○ 圏域で唯一、精神医療の提供及び人工透析を実施しています。 ○ 第二次救急医療機関として、病院群輪番制に参画しています。 ○ 災害点病院の指定を受け、災害発生時には DMAT (災害派遣医療チーム) を派遣できる体制を整備しています。 ○ 令和元年(2019年)5月に地域包括ケア病床を8床増床し、計16床としました。また、病床利用率は9割以上を維持しており、令和3年度(2021年度)には92.0%と高い利用率となっています。 ○ 平成30年度(2018年度)から総合診療医(内科・常勤)を確保しています。 ○ 令和2年度(2020年度)から産婦人科医(常勤)が不在となり、南檜山圏域内での分娩が一時休止しています。 ○ 第二種感染症指定医療機関として、検査・診療センターにおける発熱外来や、令和2年11月に整備した新型コロナ専用病棟による陽性患者の受入を行っています。 ○ 地域の医療機関や医歯大学から研修医や医学生を受け入れ、地域医療を担う医師の養成に努めています。 ○ 地域医療連携推進法人南檜山メディカルネットワークにおける取組を通じて、南檜山圏域の医療機関間の機能分化や連携強化を進めるとともに、持続可能な医療提供体制の構築を推進しています。 <p>(2) 収支状況等</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響や手術件数の減に伴い医業収益は減少しましたが、新型コロナウイルス感染症関連補助金により、収支差は改善しています。</p>	■所在地	檜山郡江差町字伏木戸町 484 番地	■病床数	許可：一般 150 床(感染症病床 4 床含む)、精神 48 床 計 198 床 運用：一般 112 床(感染症病床 4 床含む)、精神 40 床 計 152 床 人工透析：18 床	■職員数	計●名 (医師●名、看護師●名、その他●名)	■診療科目	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、精神科、リハビリテーション科、腎臓内科、放射線科	■指定医療機関等	地域センター病院、第二種感染症指定医療機関 災害拠点病院(地域災害拠点病院)、DMAT 指定医療機関、へき地医療拠点病院、地域周産期母子医療センター、救急告示医療機関	<p>1 江差病院 【概要】 (令和3年(2021年)2月1日現在)</p> <table border="1" data-bbox="1270 331 2261 877"> <tr> <td>■所在地</td> <td>檜山郡江差町字伏木戸町 484 番地</td> </tr> <tr> <td>■病床数</td> <td>許可：一般 150 床(感染症病床 4 床含む)、精神 48 床 計 198 床 稼働：一般 112 床(感染症病床 4 床含む)、精神 40 床 計 152 床 人工透析：17 床</td> </tr> <tr> <td>■職員数</td> <td>計 124 名 (医師 9 名、看護師 78 名、その他 37 名)</td> </tr> <tr> <td>■診療科目</td> <td>内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、精神科、リハビリテーション科、腎臓内科、放射線科</td> </tr> <tr> <td>■指定医療機関等</td> <td>地域センター病院、第二種感染症指定医療機関 災害拠点病院(地域災害拠点病院)、DMAT 指定医療機関、へき地医療拠点病院、地域周産期母子医療センター、救急告示医療機関</td> </tr> </table> <p>(1) 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 南檜山圏域における唯一の地域センター病院・第二種感染症指定医療機関として医療の提供に努めています。 ○ 圏域で唯一、精神医療の提供及び人工透析を実施しています。 ○ 第二次救急医療機関として、病院群輪番制に参画しています。 ○ 災害点病院の指定を受け、災害発生時には DMAT (災害派遣医療チーム) を派遣できる体制を整備しています。 ○ 令和元年(2019年)5月に地域包括ケア病床を8床増床し、計16床としました。また、病床利用率は増加傾向にあり、令和元年度(2019年度)には98.6%と高い利用率となっています。 ○ 平成30年度(2018年度)から総合診療医(内科・常勤)を確保しています。 ○ 令和2年度(2020年度)より産婦人科医(常勤)が不在となり、南檜山圏域内での分娩が一時休止しています。 <p>(2) 収支状況等</p> <p>一部の診療科に必要な常勤医師を確保できなかったことなどから、入院・外来とも患者数が減少傾向にありますが、診療単価の増などの収益確保に努め、収支差は</p>	■所在地	檜山郡江差町字伏木戸町 484 番地	■病床数	許可：一般 150 床(感染症病床 4 床含む)、精神 48 床 計 198 床 稼働：一般 112 床(感染症病床 4 床含む)、精神 40 床 計 152 床 人工透析：17 床	■職員数	計 124 名 (医師 9 名、看護師 78 名、その他 37 名)	■診療科目	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、精神科、リハビリテーション科、腎臓内科、放射線科	■指定医療機関等	地域センター病院、第二種感染症指定医療機関 災害拠点病院(地域災害拠点病院)、DMAT 指定医療機関、へき地医療拠点病院、地域周産期母子医療センター、救急告示医療機関	<p>・直近の数値を入力予定</p> <p>・現状の対応状況を踏まえた時点修正</p> <p>・文言修正</p> <p>・直近の状況による修正</p>
■所在地	檜山郡江差町字伏木戸町 484 番地																					
■病床数	許可：一般 150 床(感染症病床 4 床含む)、精神 48 床 計 198 床 運用：一般 112 床(感染症病床 4 床含む)、精神 40 床 計 152 床 人工透析：18 床																					
■職員数	計●名 (医師●名、看護師●名、その他●名)																					
■診療科目	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、精神科、リハビリテーション科、腎臓内科、放射線科																					
■指定医療機関等	地域センター病院、第二種感染症指定医療機関 災害拠点病院(地域災害拠点病院)、DMAT 指定医療機関、へき地医療拠点病院、地域周産期母子医療センター、救急告示医療機関																					
■所在地	檜山郡江差町字伏木戸町 484 番地																					
■病床数	許可：一般 150 床(感染症病床 4 床含む)、精神 48 床 計 198 床 稼働：一般 112 床(感染症病床 4 床含む)、精神 40 床 計 152 床 人工透析：17 床																					
■職員数	計 124 名 (医師 9 名、看護師 78 名、その他 37 名)																					
■診療科目	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、精神科、リハビリテーション科、腎臓内科、放射線科																					
■指定医療機関等	地域センター病院、第二種感染症指定医療機関 災害拠点病院(地域災害拠点病院)、DMAT 指定医療機関、へき地医療拠点病院、地域周産期母子医療センター、救急告示医療機関																					



「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】(素案)	現行プラン	備考
--------------	-------	----

区分	(単位)	H31(R1)		R2		R3	
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績見込
収益的収支							
収益 A	(百万円)	2,082	1,746	2,071	2,284	2,134	2,961
費用 B	(百万円)	3,009	3,009	3,024	2,961	3,181	2,908
収支差 C=A-B	(百万円)	▲ 927	▲ 1,263	▲ 953	▲ 677	▲ 1,047	53
経営指標							
病床利用率	(%)	68.2	37.0	68.2	27.2	34.0	26.8
一般	(%)	70.4	43.9	70.4	32.1	41.7	32.6
精神	(%)	62.5	17.7	62.5	13.6	13.2	11.0
医薬収支比率	(%)	65.4	53.6	64.6	47.1	50.3	47.8
医薬材料費対医薬収益比率	(%)	22.1	24.3	22.0	25.5	26.0	21.5
後発医薬品使用割合	(%)	80.0	88.3	82.0	87.2	85.0	94.3
紹介患者件数	(件)	1,440	1,248	1,440	1,096	1,344	1,223
地域包括ケア病床利用率	(%)	70.0	98.6	70.0	97.4	90.0	92.0
入院患者							
1日平均患者数	(人)	101.0	56.3	101.0	40.7	50.3	39.6
患者1人1日当たり収益	(円)	28,534	35,789	28,534	40,007	38,318	36,772
外来患者							
1日平均患者数	(人)	324.5	284.4	324.5	252.4	285.7	265.4
患者1人1日当たり収益	(円)	9,674	11,003	9,674	11,224	11,340	11,210

ほぼ横ばいで推移しています。

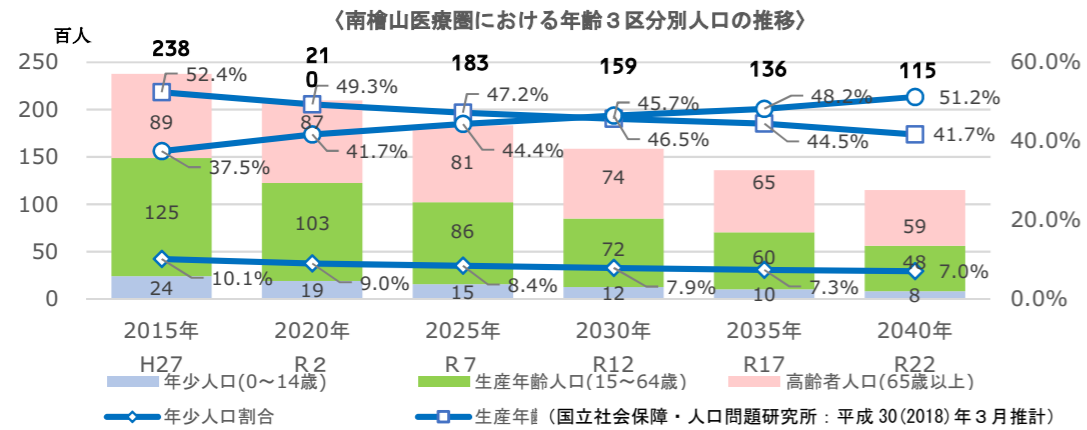
区分	(単位)	H29		H30		R1(H31)	
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績
収益的収支							
収益 A	(百万円)	1,987	1,613	2,080	1,736	2,082	1,746
費用 B	(百万円)	2,992	2,875	3,039	2,984	3,009	3,009
収支差 C=A-B	(百万円)	▲ 1,005	▲ 1,262	▲ 959	▲ 1,248	▲ 927	▲ 1,263
経営指標							
病床利用率	(%)	65.9	40.7	68.2	41.2	68.2	37.0
一般	(%)	67.1	38.6	70.4	46.8	70.4	43.9
精神	(%)	62.5	46.4	62.5	26.2	62.5	17.7
医薬収支比率	(%)	62.5	49.4	64.7	53.4	65.4	53.6
医薬材料費対医薬収益比率	(%)	22.2	21.1	22.2	24.2	22.1	24.3
後発医薬品使用割合	(%)	76.0	81.8	78.0	87.8	80.0	88.3
紹介患者件数	(件)	1,420	1,337	1,440	1,217	1,440	1,248
地域包括ケア病床利用率	(%)	70.0	58.6	70.0	70.9	70.0	98.6
入院患者							
1日平均患者数	(人)	97.5	60.3	101.0	61.0	101.0	56.3
患者1人1日当たり収益	(円)	26,925	27,578	28,567	33,748	28,534	35,789
外来患者							
1日平均患者数	(人)	324.5	295.2	324.5	289.0	324.5	284.4
患者1人1日当たり収益	(円)	9,630	9,482	9,651	10,107	9,674	11,003

(3) 南檜山圏域における医療需要等

① 人口推計

南檜山圏域における人口は、令和2年(2020年)に約210百人、令和7年(2025年)には約183百人、令和22年(2040年)には約115百人まで減少することが推計されており、令和2年(2020年)から令和22年(2040年)の20年間でおよそ45%の人口減が見込まれます。

年齢構成については、年少人口の割合が減少を続ける一方で、高齢者人口の割合は増加を続け、令和22年(2040年)には圏域内人口の約5割、2人に1人が65歳以上の高齢者となり、人口減少と高齢化が極めて進行した圏域になることが推測されています。

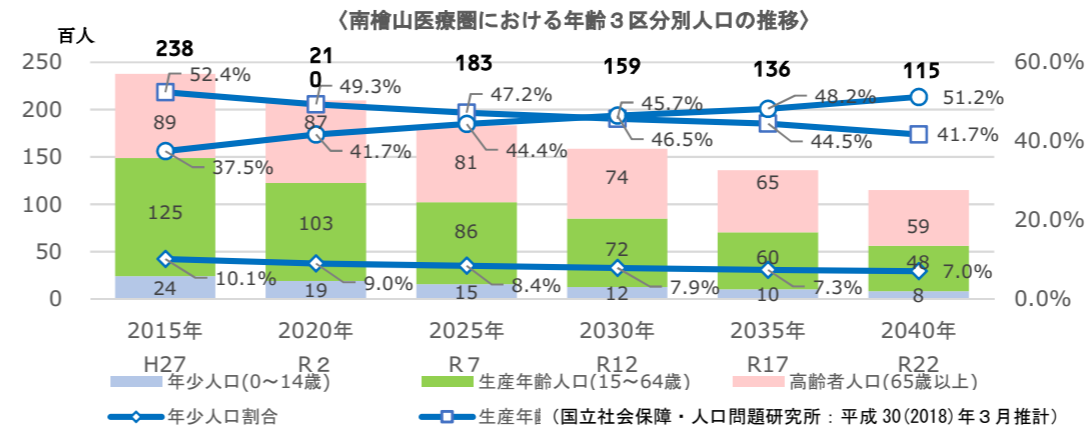


(3) 南檜山圏域における医療需要等


① 人口推計

南檜山圏域における人口は、令和2年(2020年)に約210百人、令和7年(2025年)には約183百人、令和22年(2040年)には約115百人まで減少することが推計されており、令和2年(2020年)から令和22年(2040年)の20年間でおよそ45%の人口減が見込まれます。

年齢構成については、年少人口の割合が減少を続ける一方で、高齢者人口の割合は増加を続け、令和22年(2040年)には圏域内人口の約5割、2人に1人が65歳以上の高齢者となり、人口減少と高齢化が極めて進行した圏域になることが推測されています。



「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考																																																																																																		
<p>② 地域医療構想における 2025 年の病床必要量</p> <p style="text-align: right;">(単位：床)</p> <table border="1" data-bbox="181 260 1210 558"> <thead> <tr> <th colspan="7">南檜山圏域</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>病床計</th> <th>高度急性期</th> <th>急性期</th> <th>回復期</th> <th>慢性期</th> <th>休棟等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院</td> <td>391</td> <td>0</td> <td>175</td> <td>0</td> <td>168</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td> うち江差病院</td> <td>146</td> <td>0</td> <td>146</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>42</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>19</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>433</td> <td>0</td> <td>179</td> <td>0</td> <td>187</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>必要病床数(2025年)</td> <td>245</td> <td>0</td> <td>56</td> <td>119</td> <td>70</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(令和 2 年度病床機能報告による)</p> <p>【区域内の現況、取組の方向性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総体的には過剰となっており、一部回復期の不足が見込まれる。回復期医療を受けられない患者が多数生じている状況ではないことから、各病棟の診療の実態に即した適切な医療機能の把握に努める。 ・ 病棟再編に伴う過剰病床への転換を予定している医療機関については、地域医療構想専門部会等において状況を確認する。 <p style="text-align: right;">(令和元年度地域医療構想推進シートより抜粋)</p> <p>(4) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一部診療科において、常勤医師の確保に至っていないことから、医師をはじめとした診療体制の確保が必要です。 ○ 精神科の病床利用率、平均入院患者数が減少傾向にあることから、地域のニーズに合わせた診療体制の検討が必要です。 <p>(5) 今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 南檜山圏域の地域センター病院として、急性期医療、人工透析等、重要な役割を担っており、今後も必要な診療体制や回復期機能を確保します。 ○ 総合診療医の養成・確保に向けて、札幌医科大学が設置した「地域医療研究教育センター」に引き続き医学・研究フィールドを提供するとともに、札幌医科大学と連携を密にしながら、初期臨床研修医や医学生への研修受入を推進します。 ○ 地域医療構想の実現に向けて、地域医療連携推進法人南檜山メディカルネットワークにおける取組を通じて、医療機関間の機能分担、業務連携を推進します。 ○ 入院医療を含めた精神科診療体制については、地域のニーズを把握した上で、今後の方向性について検討します。  <p style="text-align: center;">〈江差病院外観〉</p>	南檜山圏域							区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	病院	391	0	175	0	168	48	うち江差病院	146	0	146	0	0	0	診療所	42	0	4	0	19	19	合計	433	0	179	0	187	67	必要病床数(2025年)	245	0	56	119	70	—	<p>② 地域医療構想における 2025 年の病床必要量</p> <p style="text-align: right;">(単位：床)</p> <table border="1" data-bbox="1279 260 2309 558"> <thead> <tr> <th colspan="7">南檜山圏域</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>病床計</th> <th>高度急性期</th> <th>急性期</th> <th>回復期</th> <th>慢性期</th> <th>休棟等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院</td> <td>391</td> <td>0</td> <td>175</td> <td>0</td> <td>168</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td> うち江差病院</td> <td>146</td> <td>0</td> <td>146</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>42</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>19</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>433</td> <td>0</td> <td>179</td> <td>0</td> <td>187</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>必要病床数(2025年)</td> <td>245</td> <td>0</td> <td>56</td> <td>119</td> <td>70</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(平成 30 年度病床機能報告による)</p> <p>【区域内の現況、取組の方向性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総体的には過剰となっており、一部回復期の不足が見込まれる。回復期医療を受けられない患者が多数生じている状況ではないことから、各病棟の診療の実態に即した適切な医療機能の把握に努める。 ・ 病棟再編に伴う過剰病床への転換を予定している医療機関については、地域医療構想専門部会等において状況を確認する。 <p style="text-align: right;">(平成 30 年度地域医療構想推進シートより抜粋)</p> <p>(4) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 消化器内科や産婦人科など、一部の診療科の常勤医師の確保に至っていないことから、医師をはじめとした診療体制の確保が必要です。 ○ 精神科の病床利用率、平均入院患者数が減少傾向にあることから、地域のニーズに合わせた診療体制の確保が必要です。 <p>(5) 今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 南檜山圏域の地域センター病院として、急性期医療、人工透析等、重要な役割を担っており、今後も必要な診療体制や回復期機能を確保します。 ○ 総合診療医の養成・確保に向けて、札幌医科大学が設置予定の「地域医療研究教育センター」に医学・研究フィールドを提供するとともに、札幌医科大学と連携を密にしながら、初期臨床研修医や医学生の研修体制の整備を進めます。 ○ 地域医療構想の実現に向けて、「地域医療連携推進法人」制度も活用しながら、医療機関間の機能分担、業務連携を推進します。 ○ 入院医療を含めた精神科診療体制については、地域のニーズを把握した上で、今後の方向性について検討します。 ○ <u>新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関との連携の上、感染症病床での患者の受入れなど、第二種感染症指定医療機関として、地域の感染症対策の中心的な役割を担います。</u>  <p style="text-align: center;">〈江差病院外観〉</p>	南檜山圏域							区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	病院	391	0	175	0	168	48	うち江差病院	146	0	146	0	0	0	診療所	42	0	4	0	19	19	合計	433	0	179	0	187	67	必要病床数(2025年)	245	0	56	119	70	—	<p>・ 直近の状況による修正</p> <p>・ 直近の状況による修正</p> <p>・ 現状の対応状況を踏まえた時点修正</p> <p>・ 現状の対応状況を踏まえた時点修正</p> <p>・ 現行の下線部分は「VI 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」に移行</p>
南檜山圏域																																																																																																				
区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等																																																																																														
病院	391	0	175	0	168	48																																																																																														
うち江差病院	146	0	146	0	0	0																																																																																														
診療所	42	0	4	0	19	19																																																																																														
合計	433	0	179	0	187	67																																																																																														
必要病床数(2025年)	245	0	56	119	70	—																																																																																														
南檜山圏域																																																																																																				
区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等																																																																																														
病院	391	0	175	0	168	48																																																																																														
うち江差病院	146	0	146	0	0	0																																																																																														
診療所	42	0	4	0	19	19																																																																																														
合計	433	0	179	0	187	67																																																																																														
必要病床数(2025年)	245	0	56	119	70	—																																																																																														

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】(素案)	現行プラン	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																
<p>2 羽幌病院 【概要】 (令和●年(●年)●月●日現在)</p> <table border="1"> <tr><td>■所在地</td><td>苫前郡羽幌町栄町 110 番地</td></tr> <tr><td>■病床数</td><td>許可：一般 120 床 運用：一般 45 床 人工透析：13 床</td></tr> <tr><td>■職員数</td><td>計●名(医師●名、看護師●名、その他●名)</td></tr> <tr><td>■診療科目</td><td>内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科、リハビリテーション科</td></tr> <tr><td>■指定医療機関等</td><td>地域センター病院、へき地医療拠点病院、救急告示医療機関</td></tr> </table> <p>(1) 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同一圏域の地域センター病院である留萌市立病院や地域の医療機関と連携を図りながら診療体制の確保に努めています。 ○ 平成 29 年度(2017 年度)より総合診療科としての診察を開始しました。 ○ 総合診療専門研修プログラムを整備し、令和元年度(2019 年度)1 名、令和 2 年度(2020 年度)及び令和 3 年度(2021 年度)に 3 名の専攻医を確保していますが、令和 4 年度(2022 年度)は 1 名(上半期)となっています。 ○ 平成 30 年(2018 年)7 月に地域包括ケア病床を 3 床増床し、計 15 床としました。また、令和 3 年の病床利用率は、56%程度となっています。 ○ 許可病床数(120 床)と運用病床数(45 床)に乖離が生じています。 ○ 人工透析や離島の医療支援を実施しています。 ○ 新型コロナウイルス感染症への対応について、発熱者等の電話相談や診療のほか、受入病床を確保しています。 <p>(2) 収支状況等</p> <p>患者 1 人 1 日当たり収益は増加傾向にありますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、患者数が減少していることで、収支差はほぼ横ばいで推移しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">(単位)</th> <th colspan="2">H31(R1)</th> <th colspan="2">R2</th> <th colspan="2">R3</th> </tr> <tr> <th>プラン</th> <th>実績</th> <th>プラン</th> <th>実績</th> <th>プラン</th> <th>実績見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>収益的収支</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>収 益 A</td><td>(百万円)</td><td>1,143</td><td>1,095</td><td>1,141</td><td>1,132</td><td>928</td><td>1,112</td></tr> <tr><td>費 用 B</td><td>(百万円)</td><td>1,851</td><td>1,721</td><td>1,745</td><td>1,708</td><td>1,802</td><td>1,718</td></tr> <tr><td>収 支 差 C=A-B</td><td>(百万円)</td><td>▲ 708</td><td>▲ 626</td><td>▲ 604</td><td>▲ 576</td><td>▲ 874</td><td>▲ 606</td></tr> <tr><td>経 営 指 標</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>病床利用率</td><td>(%)</td><td>70.2</td><td>72.5</td><td>70.2</td><td>55.5</td><td>51.8</td><td>60.5</td></tr> <tr><td>医療収支比率</td><td>(%)</td><td>56.3</td><td>55.9</td><td>59.5</td><td>50.3</td><td>46.8</td><td>54.0</td></tr> <tr><td>医薬材料費対医療収益比率</td><td>(%)</td><td>25.6</td><td>22.0</td><td>25.4</td><td>23.1</td><td>22.9</td><td>21.7</td></tr> <tr><td>後発医薬品使用割合</td><td>(%)</td><td>82.0</td><td>91.6</td><td>84.0</td><td>92.1</td><td>85.0</td><td>90.6</td></tr> <tr><td>紹介患者件数</td><td>(件)</td><td>660</td><td>711</td><td>660</td><td>717</td><td>660</td><td>819</td></tr> <tr><td>地域包括ケア病床利用率</td><td>(%)</td><td>70.0</td><td>67.7</td><td>70.0</td><td>56.7</td><td>70.0</td><td>56.0</td></tr> <tr><td>入 1 日平均患者数</td><td>(人)</td><td>31.6</td><td>32.6</td><td>31.6</td><td>25.0</td><td>23.3</td><td>27.2</td></tr> <tr><td>院 患者1人1日当たり収益</td><td>(円)</td><td>31,078</td><td>32,447</td><td>31,078</td><td>33,706</td><td>35,520</td><td>34,161</td></tr> <tr><td>外 1 日平均患者数</td><td>(人)</td><td>210.0</td><td>176.3</td><td>210.0</td><td>159.1</td><td>161.5</td><td>161.6</td></tr> <tr><td>来 患者1人1日当たり収益</td><td>(円)</td><td>11,522</td><td>11,510</td><td>11,522</td><td>12,106</td><td>11,844</td><td>12,270</td></tr> </tbody> </table>	■所在地	苫前郡羽幌町栄町 110 番地	■病床数	許可：一般 120 床 運用：一般 45 床 人工透析：13 床	■職員数	計●名(医師●名、看護師●名、その他●名)	■診療科目	内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科、リハビリテーション科	■指定医療機関等	地域センター病院、へき地医療拠点病院、救急告示医療機関	区分	(単位)	H31(R1)		R2		R3		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績見込	収益的収支								収 益 A	(百万円)	1,143	1,095	1,141	1,132	928	1,112	費 用 B	(百万円)	1,851	1,721	1,745	1,708	1,802	1,718	収 支 差 C=A-B	(百万円)	▲ 708	▲ 626	▲ 604	▲ 576	▲ 874	▲ 606	経 営 指 標								病床利用率	(%)	70.2	72.5	70.2	55.5	51.8	60.5	医療収支比率	(%)	56.3	55.9	59.5	50.3	46.8	54.0	医薬材料費対医療収益比率	(%)	25.6	22.0	25.4	23.1	22.9	21.7	後発医薬品使用割合	(%)	82.0	91.6	84.0	92.1	85.0	90.6	紹介患者件数	(件)	660	711	660	717	660	819	地域包括ケア病床利用率	(%)	70.0	67.7	70.0	56.7	70.0	56.0	入 1 日平均患者数	(人)	31.6	32.6	31.6	25.0	23.3	27.2	院 患者1人1日当たり収益	(円)	31,078	32,447	31,078	33,706	35,520	34,161	外 1 日平均患者数	(人)	210.0	176.3	210.0	159.1	161.5	161.6	来 患者1人1日当たり収益	(円)	11,522	11,510	11,522	12,106	11,844	12,270	<p>2 羽幌病院 【概要】 (令和 3 年(2021 年) 2 月 1 日現在)</p> <table border="1"> <tr><td>■所在地</td><td>苫前郡羽幌町栄町 110 番地</td></tr> <tr><td>■病床数</td><td>許可：一般 120 床 稼働：一般 45 床 人工透析：13 床</td></tr> <tr><td>■職員数</td><td>計 71 名(医師 9 名、看護師 36 名、その他 26 名)</td></tr> <tr><td>■診療科目</td><td>内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科、リハビリテーション科</td></tr> <tr><td>■指定医療機関等</td><td>地域センター病院、へき地医療拠点病院、救急告示医療機関</td></tr> </table> <p>(1) 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同一圏域の地域センター病院である留萌市立病院や地域の医療機関と連携を図りながら診療体制の確保に努めています。 ○ 平成 29 年度(2017 年度)より総合診療科としての診察を開始しました。 ○ 総合診療専門研修プログラムを整備し、令和元年度(2019 年度)1 名、令和 2 年度(2020 年度)に 3 名の専攻医を確保しています。 ○ 平成 30 年(2018 年)7 月に地域包括ケア病床を 3 床増床し、計 15 床としました。また、病床利用率は、70%程度となっています。 ○ 許可病床数(120 床)と稼働病床数(45 床)に乖離が生じています。 ○ 人工透析や離島の医療支援を実施しています。 <p>(2) 収支状況等</p> <p>病床利用率をはじめ、1 日平均患者数(入院)、患者 1 人 1 日当たり収益(入院・外来)など、多くの項目で増加傾向にあり、収支差も改善傾向にあります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">(単位)</th> <th colspan="2">H29</th> <th colspan="2">H30</th> <th colspan="2">R1(H31)</th> </tr> <tr> <th>プラン</th> <th>実績</th> <th>プラン</th> <th>実績</th> <th>プラン</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>収益的収支</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>収 益 A</td><td>(百万円)</td><td>1,058</td><td>952</td><td>1,135</td><td>994</td><td>1,143</td><td>1,095</td></tr> <tr><td>費 用 B</td><td>(百万円)</td><td>1,808</td><td>1,644</td><td>1,837</td><td>1,724</td><td>1,851</td><td>1,721</td></tr> <tr><td>収 支 差 C=A-B</td><td>(百万円)</td><td>▲ 750</td><td>▲ 692</td><td>▲ 702</td><td>▲ 730</td><td>▲ 708</td><td>▲ 626</td></tr> <tr><td>経 営 指 標</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>病床利用率</td><td>(%)</td><td>60.9</td><td>55.8</td><td>69.3</td><td>59.5</td><td>70.2</td><td>72.5</td></tr> <tr><td>医療収支比率</td><td>(%)</td><td>52.9</td><td>50.1</td><td>56.4</td><td>49.7</td><td>56.3</td><td>55.9</td></tr> <tr><td>医薬材料費対医療収益比率</td><td>(%)</td><td>25.5</td><td>24.6</td><td>25.6</td><td>22.3</td><td>25.6</td><td>22.0</td></tr> <tr><td>後発医薬品使用割合</td><td>(%)</td><td>78.0</td><td>82.1</td><td>80.0</td><td>86.7</td><td>82.0</td><td>91.6</td></tr> <tr><td>紹介患者件数</td><td>(件)</td><td>610</td><td>620</td><td>650</td><td>761</td><td>660</td><td>711</td></tr> <tr><td>地域包括ケア病床利用率</td><td>(%)</td><td>70.0</td><td>54.0</td><td>70.0</td><td>71.8</td><td>70.0</td><td>67.7</td></tr> <tr><td>入 1 日平均患者数</td><td>(人)</td><td>27.4</td><td>25.1</td><td>31.2</td><td>26.8</td><td>31.6</td><td>32.6</td></tr> <tr><td>院 患者1人1日当たり収益</td><td>(円)</td><td>30,827</td><td>31,119</td><td>31,075</td><td>31,222</td><td>31,078</td><td>32,447</td></tr> <tr><td>外 1 日平均患者数</td><td>(人)</td><td>200.0</td><td>169.3</td><td>210.0</td><td>170.2</td><td>210.0</td><td>176.3</td></tr> <tr><td>来 患者1人1日当たり収益</td><td>(円)</td><td>11,444</td><td>10,830</td><td>11,522</td><td>11,236</td><td>11,522</td><td>11,510</td></tr> </tbody> </table>	■所在地	苫前郡羽幌町栄町 110 番地	■病床数	許可：一般 120 床 稼働：一般 45 床 人工透析：13 床	■職員数	計 71 名(医師 9 名、看護師 36 名、その他 26 名)	■診療科目	内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科、リハビリテーション科	■指定医療機関等	地域センター病院、へき地医療拠点病院、救急告示医療機関	区分	(単位)	H29		H30		R1(H31)		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績	収益的収支								収 益 A	(百万円)	1,058	952	1,135	994	1,143	1,095	費 用 B	(百万円)	1,808	1,644	1,837	1,724	1,851	1,721	収 支 差 C=A-B	(百万円)	▲ 750	▲ 692	▲ 702	▲ 730	▲ 708	▲ 626	経 営 指 標								病床利用率	(%)	60.9	55.8	69.3	59.5	70.2	72.5	医療収支比率	(%)	52.9	50.1	56.4	49.7	56.3	55.9	医薬材料費対医療収益比率	(%)	25.5	24.6	25.6	22.3	25.6	22.0	後発医薬品使用割合	(%)	78.0	82.1	80.0	86.7	82.0	91.6	紹介患者件数	(件)	610	620	650	761	660	711	地域包括ケア病床利用率	(%)	70.0	54.0	70.0	71.8	70.0	67.7	入 1 日平均患者数	(人)	27.4	25.1	31.2	26.8	31.6	32.6	院 患者1人1日当たり収益	(円)	30,827	31,119	31,075	31,222	31,078	32,447	外 1 日平均患者数	(人)	200.0	169.3	210.0	170.2	210.0	176.3	来 患者1人1日当たり収益	(円)	11,444	10,830	11,522	11,236	11,522	11,510	<p>・直近の数値を入力予定</p> <p>・現状の対応状況を踏まえた時点修正</p> <p>・直近の状況による修正</p>
■所在地	苫前郡羽幌町栄町 110 番地																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
■病床数	許可：一般 120 床 運用：一般 45 床 人工透析：13 床																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
■職員数	計●名(医師●名、看護師●名、その他●名)																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
■診療科目	内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科、リハビリテーション科																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
■指定医療機関等	地域センター病院、へき地医療拠点病院、救急告示医療機関																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
区分	(単位)	H31(R1)		R2		R3																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績見込																																																																																																																																																																																																																																																																																											
収益的収支																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
収 益 A	(百万円)	1,143	1,095	1,141	1,132	928	1,112																																																																																																																																																																																																																																																																																											
費 用 B	(百万円)	1,851	1,721	1,745	1,708	1,802	1,718																																																																																																																																																																																																																																																																																											
収 支 差 C=A-B	(百万円)	▲ 708	▲ 626	▲ 604	▲ 576	▲ 874	▲ 606																																																																																																																																																																																																																																																																																											
経 営 指 標																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
病床利用率	(%)	70.2	72.5	70.2	55.5	51.8	60.5																																																																																																																																																																																																																																																																																											
医療収支比率	(%)	56.3	55.9	59.5	50.3	46.8	54.0																																																																																																																																																																																																																																																																																											
医薬材料費対医療収益比率	(%)	25.6	22.0	25.4	23.1	22.9	21.7																																																																																																																																																																																																																																																																																											
後発医薬品使用割合	(%)	82.0	91.6	84.0	92.1	85.0	90.6																																																																																																																																																																																																																																																																																											
紹介患者件数	(件)	660	711	660	717	660	819																																																																																																																																																																																																																																																																																											
地域包括ケア病床利用率	(%)	70.0	67.7	70.0	56.7	70.0	56.0																																																																																																																																																																																																																																																																																											
入 1 日平均患者数	(人)	31.6	32.6	31.6	25.0	23.3	27.2																																																																																																																																																																																																																																																																																											
院 患者1人1日当たり収益	(円)	31,078	32,447	31,078	33,706	35,520	34,161																																																																																																																																																																																																																																																																																											
外 1 日平均患者数	(人)	210.0	176.3	210.0	159.1	161.5	161.6																																																																																																																																																																																																																																																																																											
来 患者1人1日当たり収益	(円)	11,522	11,510	11,522	12,106	11,844	12,270																																																																																																																																																																																																																																																																																											
■所在地	苫前郡羽幌町栄町 110 番地																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
■病床数	許可：一般 120 床 稼働：一般 45 床 人工透析：13 床																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
■職員数	計 71 名(医師 9 名、看護師 36 名、その他 26 名)																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
■診療科目	内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科、リハビリテーション科																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
■指定医療機関等	地域センター病院、へき地医療拠点病院、救急告示医療機関																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
区分	(単位)	H29		H30		R1(H31)																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績																																																																																																																																																																																																																																																																																											
収益的収支																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
収 益 A	(百万円)	1,058	952	1,135	994	1,143	1,095																																																																																																																																																																																																																																																																																											
費 用 B	(百万円)	1,808	1,644	1,837	1,724	1,851	1,721																																																																																																																																																																																																																																																																																											
収 支 差 C=A-B	(百万円)	▲ 750	▲ 692	▲ 702	▲ 730	▲ 708	▲ 626																																																																																																																																																																																																																																																																																											
経 営 指 標																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
病床利用率	(%)	60.9	55.8	69.3	59.5	70.2	72.5																																																																																																																																																																																																																																																																																											
医療収支比率	(%)	52.9	50.1	56.4	49.7	56.3	55.9																																																																																																																																																																																																																																																																																											
医薬材料費対医療収益比率	(%)	25.5	24.6	25.6	22.3	25.6	22.0																																																																																																																																																																																																																																																																																											
後発医薬品使用割合	(%)	78.0	82.1	80.0	86.7	82.0	91.6																																																																																																																																																																																																																																																																																											
紹介患者件数	(件)	610	620	650	761	660	711																																																																																																																																																																																																																																																																																											
地域包括ケア病床利用率	(%)	70.0	54.0	70.0	71.8	70.0	67.7																																																																																																																																																																																																																																																																																											
入 1 日平均患者数	(人)	27.4	25.1	31.2	26.8	31.6	32.6																																																																																																																																																																																																																																																																																											
院 患者1人1日当たり収益	(円)	30,827	31,119	31,075	31,222	31,078	32,447																																																																																																																																																																																																																																																																																											
外 1 日平均患者数	(人)	200.0	169.3	210.0	170.2	210.0	176.3																																																																																																																																																																																																																																																																																											
来 患者1人1日当たり収益	(円)	11,444	10,830	11,522	11,236	11,522	11,510																																																																																																																																																																																																																																																																																											

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】(素案) 現行プラン 備考

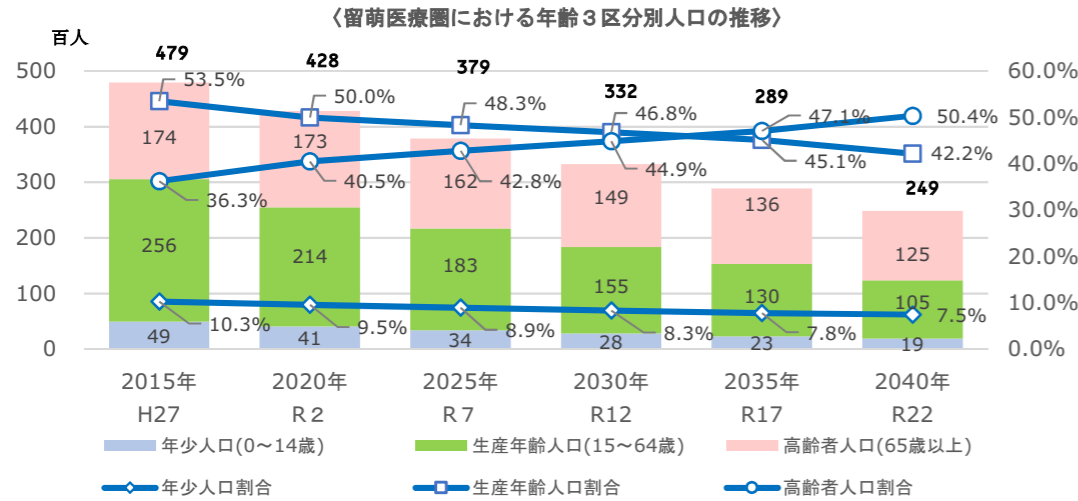
(3) 留萌圏域における医療需要等

① 人口推計

留萌圏域における人口は、令和2年(2020年)に約428百人、令和7年(2025年)には約379百人、令和22年(2040年)には約249百人まで減少することが推計されており、令和2年(2020年)から令和22年(2040年)の20年間でおよそ42%の人口減が見込まれます。

年齢構成については、年少人口割合が減少を続ける一方で、高齢者の人口割合は増加を続け、令和22年(2040年)には圏域内の約5割、2人に1人が65歳以上の高齢者となり、人口減少と高齢化が極めて進行した地域になることが推測されています。

〈留萌圏域位置図〉



(国立社会保障・人口問題研究所：平成30(2018)年3月推計)

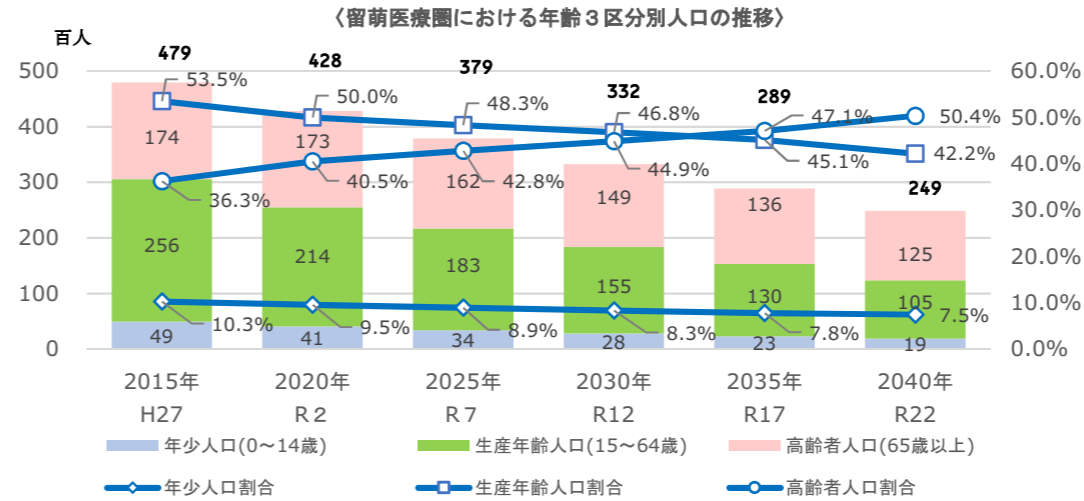
(3) 留萌圏域における医療需要等

① 人口推計

留萌圏域における人口は、令和2年(2020年)に約428百人、令和7年(2025年)には約379百人、令和22年(2040年)には約249百人まで減少することが推計されており、令和2年(2020年)から令和22年(2040年)の20年間でおよそ42%の人口減が見込まれます。

年齢構成については、年少人口割合が減少を続ける一方で、高齢者の人口割合は増加を続け、令和22年(2040年)には圏域内の約5割、2人に1人が65歳以上の高齢者となり、人口減少と高齢化が極めて進行した地域になることが推測されています。

〈留萌圏域位置図〉



(国立社会保障・人口問題研究所：平成30(2018)年3月推計)

② 地域医療構想における2025年の病床必要量

留萌圏域

(単位：床)

区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
病院	652	0	262	74	188	128
うち羽幌病院	120	0	60	0	0	60
診療所	57	0	38	0	19	0
合計	709	0	300	74	207	128
必要病床数(2025年)	563	35	142	191	195	-

(令和2年度病床機能報告による)

【区域内の現況、取組の方向性等】

- 将来的に急性期が過剰となり、回復期の不足が見込まれる。

(令和2年度地域医療構想推進シートより抜粋)

② 地域医療構想における2025年の病床必要量

留萌圏域

(単位：床)

区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
病院	652	0	306	30	188	128
うち羽幌病院	120	0	60	0	0	60
診療所	57	0	38	0	19	0
合計	709	0	344	30	207	128
必要病床数(2025年)	563	35	142	191	195	-

(平成30年度病床機能報告による)

【区域内の現況、取組の方向性等】



- 将来的に急性期が過剰となり、回復期の不足が見込まれる。

(平成30年度地域医療構想推進シートより抜粋)

・直近の状況による修正

・直近の状況による修正

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>(4) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 許可病床数（120床）と運用病床数（45床）に乖離が生じており、病床規模の適正化や休床部分の有効活用について検討する必要があります。 ○ <u>専攻医の安定的な確保が必要です。</u> <p>(5) 今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合診療専門研修プログラムの基幹病院として、<u>専門研修プログラムの更なる広報、道内外勤務医師への募集活動及び視察の受け入れ等により、専攻医の確保に努めるとともに総合診療医や地域医療を志す医師の人材育成及びフォローアップ機能を担っていきます。</u> ○ 地域のニーズを踏まえながら、引き続き地域包括ケア病床の必要数を確保するとともに、地域連携室を中心とした周辺医療機関等との連携により患者の確保を図ります。 ○ 地域医療構想調整会議等での議論を踏まえながら、病床規模の適正化や休床部分の有効活用について検討します。 ○ へき地医療や離島診療支援が求められることから、ICTも活用しながら離島等の医療支援に努めます。  <p style="text-align: center;">〈羽幌病院外観〉</p>	<p>(4) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 許可病床数（120床）と稼働病床数（45床）に乖離が生じており、病床規模の適正化や休床部分の有効活用について検討する必要があります。 <p>(5) 今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合診療専門研修プログラムの基幹病院として、総合診療医や地域医療を志す医師の人材育成及びフォローアップ機能を担っていきます。 ○ 地域のニーズを踏まえながら、引き続き地域包括ケア病床の必要数を確保するとともに、地域連携室を中心とした周辺医療機関等との連携により患者の確保を図ります。 ○ 地域医療構想調整会議等での議論を踏まえながら、病床規模の適正化や休床部分の有効活用について検討します。 ○ へき地医療や離島診療支援が求められることから、ICTも活用しながら離島等の医療支援に努めます。 ○ <u>新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関との連携の上、入院医療に対応するなど、必要な診療体制の構築に努めます。</u>  <p style="text-align: center;">〈羽幌病院外観〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文言修正及び現状の対応状況を踏まえた時点修正 ・現状の対応状況を踏まえた時点修正 ・現行の下線部分は「VI 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」に移行

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】(素案)		現行プラン		備考																																																																																																																																										
3 緑ヶ丘病院 【概要】 (令和●年(●年)●月●日現在)		3 緑ヶ丘病院 【概要】 (令和3年(2021年)2月1日現在)		・直近の数値を入力予定 ・現状の対応状況を踏まえた時点修正 ・文言修正 ・現状の対応状況を踏まえた時点修正 ・直近の状況による修正																																																																																																																																										
<table border="1"> <tr><td>■所在地</td><td>河東郡音更町緑が丘1番地</td></tr> <tr><td>■病床数</td><td>許可：精神168床 運用：精神77床</td></tr> <tr><td>■職員数</td><td>計●名(医師●名、看護師●名、その他●名)</td></tr> <tr><td>■診療科目</td><td>精神科、児童・思春期精神科</td></tr> <tr><td>■指定医療機関等</td><td>精神科応急入院指定病院、精神科救急医療システム指定病院、依存症専門医療機関(アルコール)</td></tr> </table>		■所在地	河東郡音更町緑が丘1番地		■病床数	許可：精神168床 運用：精神77床	■職員数	計●名(医師●名、看護師●名、その他●名)	■診療科目	精神科、児童・思春期精神科	■指定医療機関等	精神科応急入院指定病院、精神科救急医療システム指定病院、依存症専門医療機関(アルコール)	<table border="1"> <tr><td>■所在地</td><td>河東郡音更町緑が丘1番地</td></tr> <tr><td>■病床数</td><td>許可：精神168床 稼働：精神77床</td></tr> <tr><td>■職員数</td><td>計108名(医師7名、看護師67名、その他34名)</td></tr> <tr><td>■診療科目</td><td>精神科、児童・思春期精神科</td></tr> <tr><td>■指定医療機関等</td><td>精神科応急入院指定病院、精神科救急医療システム指定病院、依存症専門医療機関(アルコール)</td></tr> </table>		■所在地	河東郡音更町緑が丘1番地	■病床数	許可：精神168床 稼働：精神77床	■職員数	計108名(医師7名、看護師67名、その他34名)	■診療科目	精神科、児童・思春期精神科	■指定医療機関等	精神科応急入院指定病院、精神科救急医療システム指定病院、依存症専門医療機関(アルコール)																																																																																																																						
■所在地	河東郡音更町緑が丘1番地																																																																																																																																													
■病床数	許可：精神168床 運用：精神77床																																																																																																																																													
■職員数	計●名(医師●名、看護師●名、その他●名)																																																																																																																																													
■診療科目	精神科、児童・思春期精神科																																																																																																																																													
■指定医療機関等	精神科応急入院指定病院、精神科救急医療システム指定病院、依存症専門医療機関(アルコール)																																																																																																																																													
■所在地	河東郡音更町緑が丘1番地																																																																																																																																													
■病床数	許可：精神168床 稼働：精神77床																																																																																																																																													
■職員数	計108名(医師7名、看護師67名、その他34名)																																																																																																																																													
■診療科目	精神科、児童・思春期精神科																																																																																																																																													
■指定医療機関等	精神科応急入院指定病院、精神科救急医療システム指定病院、依存症専門医療機関(アルコール)																																																																																																																																													
(1) 現状 ○ 精神科救急医療の輪番制に参加するとともに、精神科救急入院料(スーパー救急)病棟を中心として、十勝第三次医療圏における精神科救急・急性期医療の中心的役割を担っています。 ○ 精神科救急入院料(スーパー救急)病棟の利用率は概ね80%で推移しています。 ○ 「入院医療中心から地域生活中心へ」という国の方針に沿って、患者の地域移行を進めるとともに、急性期治療後の在宅患者支援のため、精神科デイケア、訪問看護を実施しています。 ○ 児童・思春期精神科医療については、十勝圏域や道東地域で唯一となる専門外来や専門病床を有し、圏域における中心的医療を提供しています。 ○ 病床数の適正化を図るため、令和元年(2019年)10月から運用病床数を77床としました。 ○ 年々、常勤医師の確保が難しくなっており、 <u>応援医師を確保して体制を維持しています。</u>		<p>《精神科救急入院料病棟病床利用率の推移》</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>利用率</th></tr> <tr><td>R1(H31)</td><td>86.4%</td></tr> <tr><td>R2</td><td>81.7%</td></tr> <tr><td>R3</td><td>77.1%</td></tr> </table> <p>《訪問看護件数等の推移》</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>訪問看護件数</th><th>デイケア件数</th></tr> <tr><td>R1(H31)</td><td>3,191</td><td>7,901</td></tr> <tr><td>R2</td><td>2,502</td><td>6,287</td></tr> <tr><td>R3</td><td>2,564</td><td>5,503</td></tr> </table>		年度	利用率	R1(H31)	86.4%	R2	81.7%	R3	77.1%	年度	訪問看護件数	デイケア件数	R1(H31)	3,191	7,901	R2	2,502	6,287	R3	2,564	5,503	(2) 収支状況等 患者の地域移行の推進による入院患者数の減により収益が減少しましたが、給与費など費用の減少もあり、収支差はほぼ横ばいで推移しています。																																																																																																																						
年度	利用率																																																																																																																																													
R1(H31)	86.4%																																																																																																																																													
R2	81.7%																																																																																																																																													
R3	77.1%																																																																																																																																													
年度	訪問看護件数	デイケア件数																																																																																																																																												
R1(H31)	3,191	7,901																																																																																																																																												
R2	2,502	6,287																																																																																																																																												
R3	2,564	5,503																																																																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">(単位)</th> <th colspan="2">H31(R1)</th> <th colspan="2">R2</th> <th colspan="2">R3</th> </tr> <tr> <th>プラン</th> <th>実績</th> <th>プラン</th> <th>実績</th> <th>プラン</th> <th>実績見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>収益的収支</td><td>収益 A</td><td>(百万円) 1,277</td><td>979</td><td>1,272</td><td>909</td><td>935</td><td>831</td></tr> <tr><td></td><td>費用 B</td><td>(百万円) 1,964</td><td>1,825</td><td>1,968</td><td>1,854</td><td>1,948</td><td>1,753</td></tr> <tr><td></td><td>収支差 C=A-B</td><td>(百万円) ▲687</td><td>▲846</td><td>▲696</td><td>▲945</td><td>▲1,013</td><td>▲922</td></tr> <tr><td rowspan="10">経営指標</td><td>病床利用率</td><td>(%) 73.1</td><td>53.9</td><td>73.1</td><td>70.1</td><td>72.7</td><td>62.0</td></tr> <tr><td>医療収支比率</td><td>(%) 61.9</td><td>49.7</td><td>61.5</td><td>43.6</td><td>43.1</td><td>41.7</td></tr> <tr><td>医薬材料費対医療収益比率</td><td>(%) 6.4</td><td>8.5</td><td>6.4</td><td>8.2</td><td>8.0</td><td>8.9</td></tr> <tr><td>後発医薬品使用割合</td><td>(%) 74.0</td><td>81.4</td><td>76.0</td><td>81.4</td><td>80.0</td><td>83.8</td></tr> <tr><td>精神科救急入院料病棟病床利用率</td><td>(%) 94.0</td><td>86.4</td><td>94.0</td><td>81.7</td><td>87.6</td><td>77.1</td></tr> <tr><td>訪問看護件数</td><td>(件) 8,150</td><td>7,901</td><td>8,150</td><td>6,287</td><td>6,556</td><td>5,503</td></tr> <tr><td>デイケア件数</td><td>(件) 2,850</td><td>3,191</td><td>2,850</td><td>2,502</td><td>2,940</td><td>2,564</td></tr> <tr><td>入院患者1日平均患者数</td><td>(人) 100.2</td><td>57.7</td><td>100.2</td><td>54.0</td><td>56.0</td><td>47.7</td></tr> <tr><td>院外患者1人1日当たり収益</td><td>(円) 22,085</td><td>26,092</td><td>22,085</td><td>25,178</td><td>25,455</td><td>23,879</td></tr> <tr><td>外来患者1日平均患者数</td><td>(人) 170.0</td><td>157.2</td><td>170.0</td><td>142.5</td><td>139.1</td><td>150.5</td></tr> <tr><td>外来患者1人1日当たり収益</td><td>(円) 8,665</td><td>8,361</td><td>8,665</td><td>8,087</td><td>8,390</td><td>7,677</td></tr> </tbody> </table>		区分	(単位)	H31(R1)		R2		R3		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績見込	収益的収支	収益 A	(百万円) 1,277	979	1,272	909	935	831		費用 B	(百万円) 1,964	1,825	1,968	1,854	1,948	1,753		収支差 C=A-B	(百万円) ▲687	▲846	▲696	▲945	▲1,013	▲922	経営指標	病床利用率	(%) 73.1	53.9	73.1	70.1	72.7	62.0	医療収支比率	(%) 61.9	49.7	61.5	43.6	43.1	41.7	医薬材料費対医療収益比率	(%) 6.4	8.5	6.4	8.2	8.0	8.9	後発医薬品使用割合	(%) 74.0	81.4	76.0	81.4	80.0	83.8	精神科救急入院料病棟病床利用率	(%) 94.0	86.4	94.0	81.7	87.6	77.1	訪問看護件数	(件) 8,150	7,901	8,150	6,287	6,556	5,503	デイケア件数	(件) 2,850	3,191	2,850	2,502	2,940	2,564	入院患者1日平均患者数	(人) 100.2	57.7	100.2	54.0	56.0	47.7	院外患者1人1日当たり収益	(円) 22,085	26,092	22,085	25,178	25,455	23,879	外来患者1日平均患者数	(人) 170.0	157.2	170.0	142.5	139.1	150.5	外来患者1人1日当たり収益	(円) 8,665	8,361	8,665	8,087	8,390	7,677	(1) 現状 ○ 精神科救急医療の輪番制に参加するとともに、精神科救急入院料(スーパー救急)病棟を中心として、十勝第三次医療圏における精神科救急・急性期医療の中心的役割を担っています。 ○ 精神科救急入院料(スーパー救急)病棟の利用率は概ね90%で推移しています。 ○ 「入院医療中心から地域生活中心へ」という国の方針に沿って、患者の地域移行を進めるとともに、急性期治療後の在宅患者支援のため、精神科デイケア、訪問看護を実施しています。 ○ 児童・思春期精神科医療については、十勝圏域や道東地域で唯一となる専門外来や専門病床を有し、圏域における中心的医療を提供しています。 ○ 病床数の適正化を図るため、令和元年(2019年)10月から稼働病床数を77床としました。		<p>《精神科救急入院料病棟病床利用率の推移》</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>利用率</th></tr> <tr><td>H29</td><td>93.4%</td></tr> <tr><td>H30</td><td>88.6%</td></tr> <tr><td>R1(H31)</td><td>86.4%</td></tr> </table> <p>《訪問看護件数等の推移》</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>訪問看護件数</th><th>デイケア件数</th></tr> <tr><td>H29</td><td>3,588</td><td>9,171</td></tr> <tr><td>H30</td><td>3,422</td><td>9,181</td></tr> <tr><td>R1(H31)</td><td>3,191</td><td>7,901</td></tr> </table>		年度	利用率	H29	93.4%	H30	88.6%	R1(H31)	86.4%	年度	訪問看護件数	デイケア件数	H29	3,588	9,171	H30	3,422	9,181	R1(H31)	3,191	7,901	(2) 収支状況等 患者の地域移行の推進による入院患者数の減により収益が減少するなどし、 <u>収支差が拡大している状況にあります。</u>
区分	(単位)			H31(R1)		R2		R3																																																																																																																																						
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績見込																																																																																																																																							
収益的収支	収益 A	(百万円) 1,277	979	1,272	909	935	831																																																																																																																																							
	費用 B	(百万円) 1,964	1,825	1,968	1,854	1,948	1,753																																																																																																																																							
	収支差 C=A-B	(百万円) ▲687	▲846	▲696	▲945	▲1,013	▲922																																																																																																																																							
経営指標	病床利用率	(%) 73.1	53.9	73.1	70.1	72.7	62.0																																																																																																																																							
	医療収支比率	(%) 61.9	49.7	61.5	43.6	43.1	41.7																																																																																																																																							
	医薬材料費対医療収益比率	(%) 6.4	8.5	6.4	8.2	8.0	8.9																																																																																																																																							
	後発医薬品使用割合	(%) 74.0	81.4	76.0	81.4	80.0	83.8																																																																																																																																							
	精神科救急入院料病棟病床利用率	(%) 94.0	86.4	94.0	81.7	87.6	77.1																																																																																																																																							
	訪問看護件数	(件) 8,150	7,901	8,150	6,287	6,556	5,503																																																																																																																																							
	デイケア件数	(件) 2,850	3,191	2,850	2,502	2,940	2,564																																																																																																																																							
	入院患者1日平均患者数	(人) 100.2	57.7	100.2	54.0	56.0	47.7																																																																																																																																							
	院外患者1人1日当たり収益	(円) 22,085	26,092	22,085	25,178	25,455	23,879																																																																																																																																							
	外来患者1日平均患者数	(人) 170.0	157.2	170.0	142.5	139.1	150.5																																																																																																																																							
外来患者1人1日当たり収益	(円) 8,665	8,361	8,665	8,087	8,390	7,677																																																																																																																																								
年度	利用率																																																																																																																																													
H29	93.4%																																																																																																																																													
H30	88.6%																																																																																																																																													
R1(H31)	86.4%																																																																																																																																													
年度	訪問看護件数	デイケア件数																																																																																																																																												
H29	3,588	9,171																																																																																																																																												
H30	3,422	9,181																																																																																																																																												
R1(H31)	3,191	7,901																																																																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">(単位)</th> <th colspan="2">H29</th> <th colspan="2">H30</th> <th colspan="2">R1(H31)</th> </tr> <tr> <th>プラン</th> <th>実績</th> <th>プラン</th> <th>実績</th> <th>プラン</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>収益的収支</td><td>収益 A</td><td>(百万円) 1,269</td><td>1,104</td><td>1,271</td><td>1,043</td><td>1,277</td><td>979</td></tr> <tr><td></td><td>費用 B</td><td>(百万円) 1,946</td><td>1,771</td><td>2,004</td><td>1,842</td><td>1,964</td><td>1,825</td></tr> <tr><td></td><td>収支差 C=A-B</td><td>(百万円) ▲677</td><td>▲667</td><td>▲733</td><td>▲799</td><td>▲687</td><td>▲846</td></tr> <tr><td rowspan="10">経営指標</td><td>病床利用率</td><td>(%) 73.1</td><td>49.5</td><td>73.1</td><td>46.4</td><td>73.1</td><td>53.9</td></tr> <tr><td>医療収支比率</td><td>(%) 62.2</td><td>58.3</td><td>60.4</td><td>52.7</td><td>61.9</td><td>49.7</td></tr> <tr><td>医薬材料費対医療収益比率</td><td>(%) 6.4</td><td>7.3</td><td>6.4</td><td>8.0</td><td>6.4</td><td>8.5</td></tr> <tr><td>後発医薬品使用割合</td><td>(%) 70.0</td><td>73.7</td><td>72.0</td><td>78.3</td><td>74.0</td><td>81.4</td></tr> <tr><td>精神科救急入院料病棟病床利用率</td><td>(%) 94.0</td><td>93.4</td><td>94.0</td><td>88.6</td><td>94.0</td><td>86.4</td></tr> <tr><td>訪問看護件数</td><td>(件) 8,150</td><td>9,171</td><td>8,150</td><td>9,181</td><td>8,150</td><td>7,901</td></tr> <tr><td>デイケア件数</td><td>(件) 2,850</td><td>3,588</td><td>2,850</td><td>3,422</td><td>2,850</td><td>3,191</td></tr> <tr><td>入院患者1日平均患者数</td><td>(人) 100.2</td><td>67.8</td><td>100.2</td><td>63.6</td><td>100.2</td><td>57.7</td></tr> <tr><td>院外患者1人1日当たり収益</td><td>(円) 22,049</td><td>25,328</td><td>22,085</td><td>25,083</td><td>22,085</td><td>26,092</td></tr> <tr><td>外来患者1日平均患者数</td><td>(人) 170.0</td><td>165.5</td><td>170.0</td><td>166.0</td><td>170.0</td><td>157.2</td></tr> <tr><td>外来患者1人1日当たり収益</td><td>(円) 8,659</td><td>8,937</td><td>8,665</td><td>8,564</td><td>8,665</td><td>8,361</td></tr> </tbody> </table>		区分	(単位)	H29		H30		R1(H31)		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績	収益的収支	収益 A	(百万円) 1,269	1,104	1,271	1,043	1,277	979		費用 B	(百万円) 1,946	1,771	2,004	1,842	1,964	1,825		収支差 C=A-B	(百万円) ▲677	▲667	▲733	▲799	▲687	▲846	経営指標	病床利用率	(%) 73.1	49.5	73.1	46.4	73.1	53.9	医療収支比率	(%) 62.2	58.3	60.4	52.7	61.9	49.7	医薬材料費対医療収益比率	(%) 6.4	7.3	6.4	8.0	6.4	8.5	後発医薬品使用割合	(%) 70.0	73.7	72.0	78.3	74.0	81.4	精神科救急入院料病棟病床利用率	(%) 94.0	93.4	94.0	88.6	94.0	86.4	訪問看護件数	(件) 8,150	9,171	8,150	9,181	8,150	7,901	デイケア件数	(件) 2,850	3,588	2,850	3,422	2,850	3,191	入院患者1日平均患者数	(人) 100.2	67.8	100.2	63.6	100.2	57.7	院外患者1人1日当たり収益	(円) 22,049	25,328	22,085	25,083	22,085	26,092	外来患者1日平均患者数	(人) 170.0	165.5	170.0	166.0	170.0	157.2	外来患者1人1日当たり収益	(円) 8,659	8,937	8,665	8,564	8,665	8,361																									
区分	(単位)			H29		H30		R1(H31)																																																																																																																																						
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績																																																																																																																																							
収益的収支	収益 A	(百万円) 1,269	1,104	1,271	1,043	1,277	979																																																																																																																																							
	費用 B	(百万円) 1,946	1,771	2,004	1,842	1,964	1,825																																																																																																																																							
	収支差 C=A-B	(百万円) ▲677	▲667	▲733	▲799	▲687	▲846																																																																																																																																							
経営指標	病床利用率	(%) 73.1	49.5	73.1	46.4	73.1	53.9																																																																																																																																							
	医療収支比率	(%) 62.2	58.3	60.4	52.7	61.9	49.7																																																																																																																																							
	医薬材料費対医療収益比率	(%) 6.4	7.3	6.4	8.0	6.4	8.5																																																																																																																																							
	後発医薬品使用割合	(%) 70.0	73.7	72.0	78.3	74.0	81.4																																																																																																																																							
	精神科救急入院料病棟病床利用率	(%) 94.0	93.4	94.0	88.6	94.0	86.4																																																																																																																																							
	訪問看護件数	(件) 8,150	9,171	8,150	9,181	8,150	7,901																																																																																																																																							
	デイケア件数	(件) 2,850	3,588	2,850	3,422	2,850	3,191																																																																																																																																							
	入院患者1日平均患者数	(人) 100.2	67.8	100.2	63.6	100.2	57.7																																																																																																																																							
	院外患者1人1日当たり収益	(円) 22,049	25,328	22,085	25,083	22,085	26,092																																																																																																																																							
	外来患者1日平均患者数	(人) 170.0	165.5	170.0	166.0	170.0	157.2																																																																																																																																							
外来患者1人1日当たり収益	(円) 8,659	8,937	8,665	8,564	8,665	8,361																																																																																																																																								

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

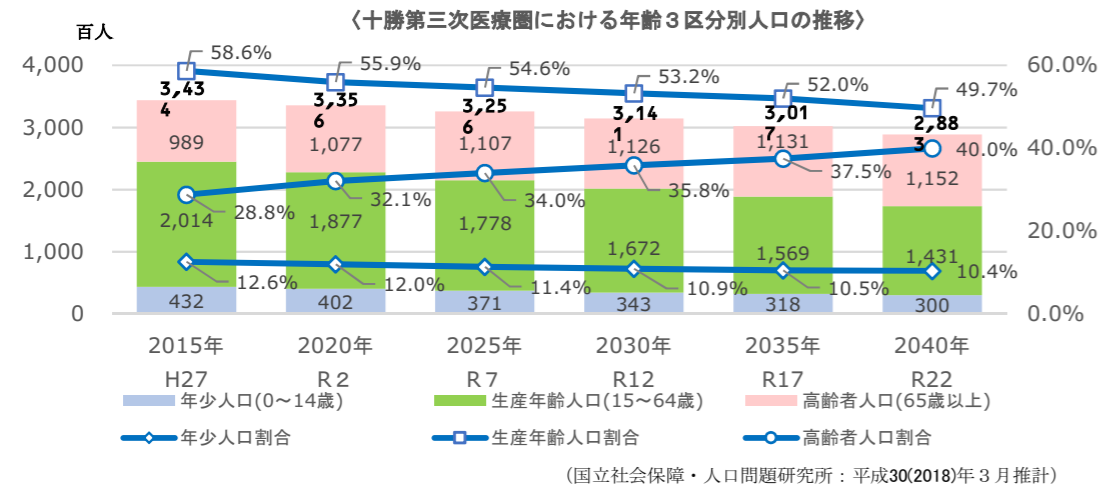
プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
--------------	-------	----

（3）十勝圏域の人口推計

十勝医療圏における人口は、令和2年(2020年)に約3,356百人、令和7年(2025年)には約3,256百人、令和22年(2040年)には約2,883百人まで減少することが推計されており、令和2年(2020年)から令和22年(2040年)の20年間でおよそ14%の人口減が見込まれています。

年齢構成については、年少人口及び生産年齢人口が減少し、高齢者人口割合が増加を続け、令和22年(2040年)には、圏域内人口の約40%が65歳以上の高齢者になることが推測されます。

〈十勝圏域位置図〉



（4）課題

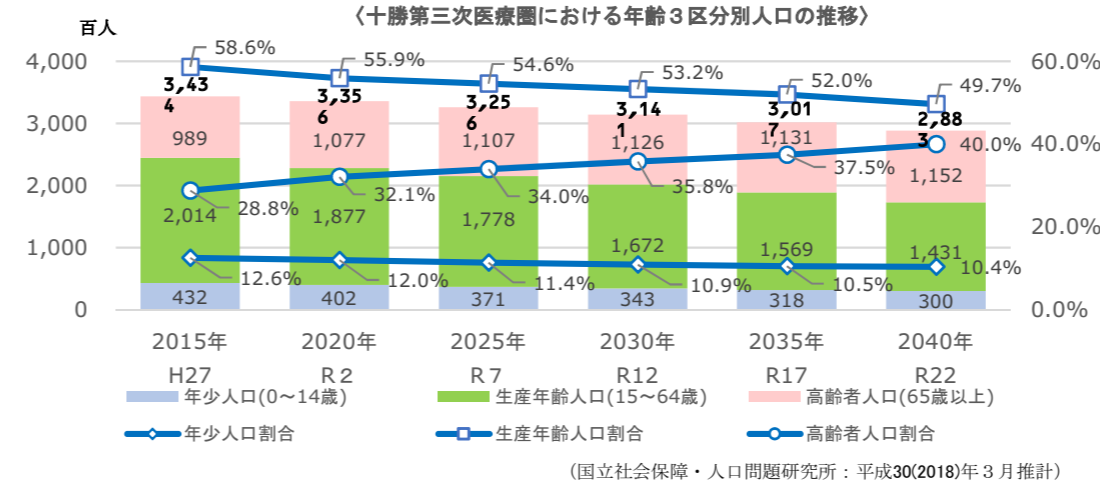
- 許可病床数(168床)と運用病床数(77床)に乖離が生じ、現有施設の未活用部分が過大となっていることから、施設の効率的な活用方法等を検討する必要があります。
- 昭和59年(1984年)に供用を開始した施設が本計画期間内に耐用年数を迎え、施設の老朽化が進行しています。
- 患者の減少傾向が続いていることから、地域に求められる病院としての機能・方向性について検討する必要があります。
- 圏域における福祉サービスの利用増や民間事業所との役割分担などによって、デイケア件数や訪問看護件数が減少しています。
- 精神科救急医療をはじめとする診療体制の維持に向けて、常勤医師の確保が必要です。

（3）十勝圏域の人口推計

十勝医療圏における人口は、令和2年(2020年)に約3,356百人、令和7年(2025年)には約3,256百人、令和22年(2040年)には約2,883百人まで減少することが推計されており、令和2年(2020年)から令和22年(2040年)の20年間でおよそ14%の人口減が見込まれています。

年齢構成については、年少人口及び生産年齢人口が減少し、高齢者人口割合が増加を続け、令和22年(2040年)には、圏域内人口の約40%が65歳以上の高齢者になることが推測されます。

〈十勝圏域位置図〉



（4）課題

- 許可病床数(168床)と稼働病床数(77床)に乖離が生じ、現有施設の未活用部分が過大となっていることから、施設の効率的な活用方法等を検討する必要があります。
- 昭和59年(1984年)に供用を開始した施設が本計画期間内に耐用年数を迎え、施設の老朽化が進行しています。
- 患者の減少傾向が続いていることから、地域に求められる病院としての機能・方向性について検討する必要があります。
- 圏域における福祉サービスの利用増や民間事業所との役割分担などによって、デイケア件数や訪問看護件数が減少しています。

・文言修正

・現状の対応状況を踏まえた時点修正

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>（５）今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 精神科急性期医療入院料（スーパー救急）病棟を中心に、十勝第三次医療圏における精神科救急医療の拠点としての機能を担います。 ○ 国が推進する「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて、今後も患者の地域移行を着実に進めるとともに、精神科デイケア、訪問看護等の在宅患者支援については、患者の幅広いニーズに対応するため、地域の行政機関や民間事業所との連携や役割分担を進めます。 ○ 十勝圏域・道東地域で唯一となる専門外来や専用病床を有している児童・思春期精神科医療の機能を担うとともに、周辺の自治体や学校などと連携しながら、適切な医療を提供することができるよう努めます。 ○ 許可病床数と運用病床数の乖離の適正化や休床部分の有効活用を図るとともに、老朽化している現有施設のあり方について、今後の患者数の動向等を踏まえながら、病床の規模や患者の療養環境など、地域で求められる病院としての方向性を検討します。 ○ <u>診療体制の維持に向けて、常勤医師の確保に引き続き取り組みます。</u> <div data-bbox="727 296 1190 583" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="875 594 1053 621" data-label="Caption"> <p>〈緑ヶ丘病院外観〉</p> </div>	<p>（５）今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 精神科救急入院料（スーパー救急）病棟を中心に、十勝第三次医療圏における精神科救急医療の拠点としての機能を担います。 ○ 国が推進する「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて、今後も患者の地域移行を着実に進めるとともに、精神科デイケア、訪問看護等の在宅患者支援については、患者の幅広いニーズに対応するため、地域の行政機関や民間事業所との連携や役割分担を進めます。 ○ 十勝圏域・道東地域で唯一となる専門外来や専用病床を有している児童・思春期精神科医療の機能を担うとともに、周辺の自治体や学校などと連携しながら、適切な医療を提供することができるよう努めます。 ○ 許可病床数と稼働病床数の乖離の適正化や休床部分の有効活用を図るとともに、老朽化している現有施設のあり方について、今後の患者数の動向等を踏まえながら、病床の規模や患者の療養環境など、地域で求められる病院としての方向性を検討します。 ○ <u>新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、患者が発生した際には、保健所との連携の下、発生状況に応じた入院医療の確保を図ります。</u> <div data-bbox="1816 296 2279 583" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1944 594 2122 621" data-label="Caption"> <p>〈緑ヶ丘病院外観〉</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文言修正 ・ 文言修正 ・ 現行の下線部分は「VI 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」に移行

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
--------------	-------	----

4 向陽ヶ丘病院

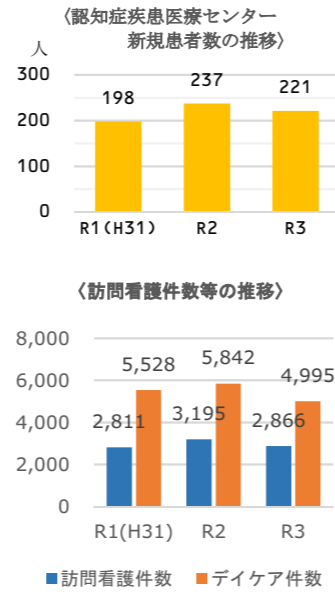
【概要】

(令和●年(●年)●月●日現在)

■所在地	網走市向陽ヶ丘1丁目5番1号
■病床数	許可：精神105床
■職員数	計●名（医師●名、看護師●名、その他●名）
■診療科目	精神科、心療内科
■指定医療機関等	精神科応急入院指定病院、精神科救急医療システム指定病院 認知症疾患医療センター

(1) 現状

- 精神科救急医療の輪番制に参加し、オホーツク第三次医療圏における精神科救急・急性期医療の拠点としての役割を担っています。
- 認知症疾患医療センターを中心として認知症専門医療を提供しており、同センターにおける新規患者数は200人前後で推移しています。
- 「入院医療中心から地域生活中心へ」という国の方針に沿って患者の地域移行を進める中、急性期治療後の在宅患者支援のため、精神科デイケア、訪問看護を実施しています。
- 児童・思春期精神科医療について、圏域で唯一、緑ヶ丘病院のサテライトとして実施しています。
- 平成28年(2016年)6月に病院庁舎を改築しました。



(2) 収支状況等

関係機関との地域連携を推進したことにより、入院患者数は増加傾向にありますが、外来患者数の減少や患者1人1日当たり収益の伸び悩みから、収支差はほぼ横ばいで推移しています。

区分	(単位)	H31(R1)		R2		R3	
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績見込
収益的収支							
収益 A	(百万円)	907	742	910	790	740	745
費用 B	(百万円)	1,661	1,663	1,676	1,635	1,701	1,667
収支差 C=A-B	(百万円)	▲754	▲921	▲766	▲845	▲961	▲922
経営指標							
病床利用率	(%)	80.0	51.0	81.0	57.7	57.4	59.2
医療収支比率	(%)	45.9	34.6	45.6	38.3	36.5	37.3
医薬材料費対医療収益比率	(%)	12.1	14.3	11.9	13.6	14.9	12.9
後発医薬品使用割合	(%)	72.0	89.1	74.0	86.6	85.0	82.3
認知症疾患医療センター新規患者数	(人)	170	198	170	237	190	221
訪問看護件数	(件)	2,200	2,809	2,200	3,195	2,900	2,866
デイケア件数	(件)	8,300	5,528	8,300	5,842	6,000	4,995
入院患者1日平均患者数	(人)	84.0	53.4	85.0	60.6	60.3	62.1
院内患者1日当たり収益	(円)	15,260	16,232	15,260	16,533	16,247	16,274
外来患者1日平均患者数	(人)	130.0	104.2	130.0	103.1	103.1	99.9
外来患者1日当たり収益	(円)	8,044	9,067	8,044	9,246	9,335	9,024

4 向陽ヶ丘病院

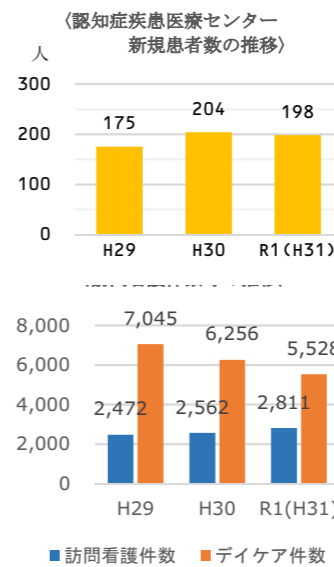
【概要】

(令和3年(2021年)2月1日現在)

■所在地	網走市向陽ヶ丘1丁目5番1号
■病床数	許可：精神105床
■職員数	計85名（医師5名、看護師56名、その他24名）
■診療科目	精神科、心療内科
■指定医療機関等	精神科応急入院指定病院、精神科救急医療システム指定病院 認知症疾患医療センター

(1) 現状

- 精神科救急医療の輪番制に参加し、オホーツク第三次医療圏における精神科救急・急性期医療の拠点としての役割を担っています。
- 認知症疾患医療センターを中心として認知症専門医療を提供しており、同センターにおける新規患者数は200人前後で推移しています。
- 「入院医療中心から地域生活中心へ」という国の方針に沿って患者の地域移行を進める中、急性期治療後の在宅患者支援のため、精神科デイケア、訪問看護を実施しています。
- 児童・思春期精神科医療について、圏域で唯一、緑ヶ丘病院のサテライトとして実施しています。
- 平成28年(2016年)6月に病院庁舎を改築しました。



(2) 収支状況等

患者の地域移行の推進による入院患者数の減により収益が減少するなどし、収支差が拡大している状況にあります。

区分	(単位)	H29		H30		R1(H31)	
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績
収益的収支							
収益 A	(百万円)	901	771	903	740	907	742
費用 B	(百万円)	1,684	1,494	1,693	1,673	1,661	1,663
収支差 C=A-B	(百万円)	▲783	▲723	▲790	▲933	▲754	▲921
経営指標							
病床利用率	(%)	79.0	63.0	79.5	51.7	80.0	51.0
医療収支比率	(%)	44.7	42.3	44.6	35.2	45.9	34.6
医薬材料費対医療収益比率	(%)	12.3	12.5	12.2	12.7	12.1	14.3
後発医薬品使用割合	(%)	67.0	75.7	70.0	85.3	72.0	89.1
認知症疾患医療センター新規患者数	(人)	170	174	170	204	170	198
訪問看護件数	(件)	2,200	2,472	2,200	2,562	2,200	2,809
デイケア件数	(件)	8,300	7,045	8,300	6,256	8,300	5,528
入院患者1日平均患者数	(人)	83.0	66.1	83.5	54.3	84.0	53.4
院内患者1日当たり収益	(円)	15,216	15,306	15,260	15,774	15,260	16,232
外来患者1日平均患者数	(人)	130.0	114.5	130.0	108.2	130.0	104.2
外来患者1日当たり収益	(円)	8,034	8,196	8,020	8,746	8,044	9,067

・直近の数値を入力予定

・直近の状況による修正

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）

現行プラン

備考

(3) オホーツク圏域の人口推計

オホーツク第三次医療圏域における人口は、令和2年(2020年)に約2,762百人、令和7年(2025年)には約2,574百人、令和22年(2040年)には約1,995百人まで減少することが推計されており、令和2年(2020年)から令和22年(2040年)の20年間でおよそ28%の人口減が見込まれています。

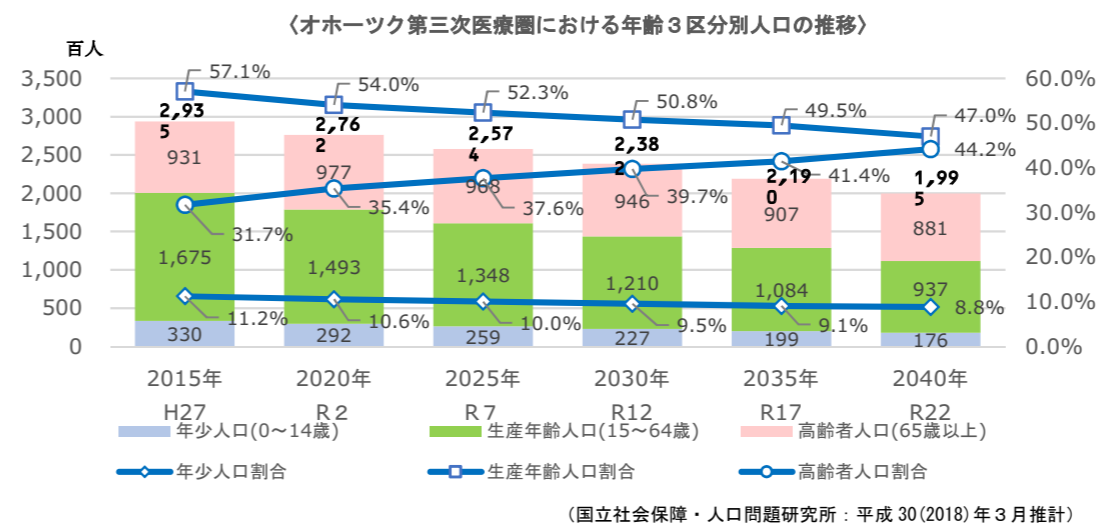
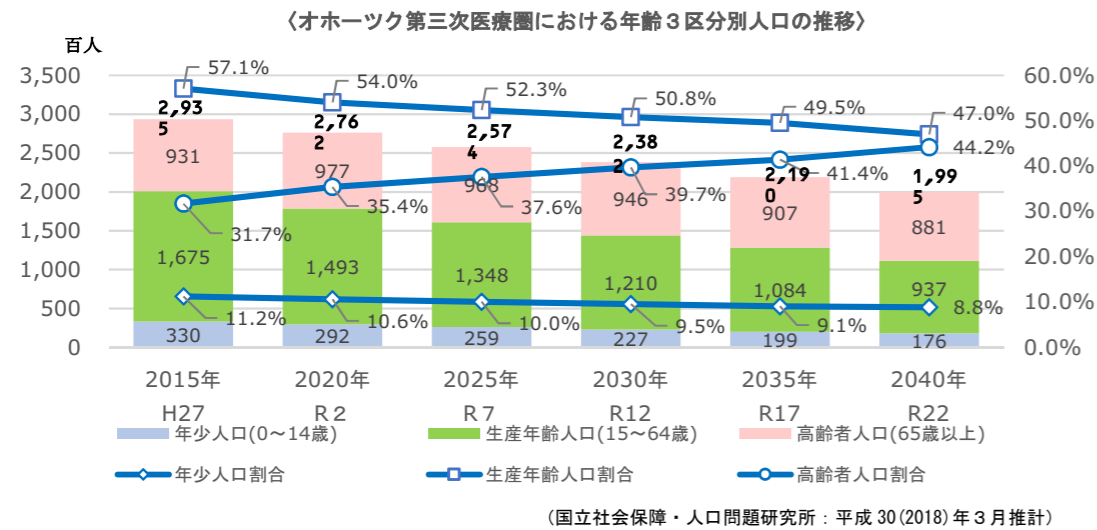
年齢構成については、年少人口の割合が減少を続ける一方で、高齢者人口の割合は増加を続け、令和22年(2040年)には圏域内人口の約44%が65歳以上の高齢者という、人口減少と高齢化が進行した圏域になることが推測されます。



(3) オホーツク圏域の人口推計

オホーツク第三次医療圏域における人口は、令和2年(2020年)に約2,762百人、令和7年(2025年)には約2,574百人、令和22年(2040年)には約1,995百人まで減少することが推計されており、令和2年(2020年)から令和22年(2040年)の20年間でおよそ28%の人口減が見込まれています。

年齢構成については、年少人口の割合が減少を続ける一方で、高齢者人口の割合は増加を続け、令和22年(2040年)には圏域内人口の約44%が65歳以上の高齢者という、人口減少と高齢化が進行した圏域になることが推測されます。



(4) 課題

- 平成28年度(2016年度)改築整備後も患者数が減少傾向にあることから、地域から求められる病院としての機能を検討する必要があります。
- デイケア件数が減少していることから、医療ニーズに即したプログラムの充実等の検討が必要です。

(4) 課題

- 平成28年度(2016年度)改築整備後も患者数が減少傾向にあることから、地域から求められる病院としての機能を検討する必要があります。
- デイケア件数が減少していることから、医療ニーズに即したプログラムの充実等の検討が必要です。

(5) 今後の方向性

- 精神科救急医療体制に引き続き参加し、オホーツク第三次医療圏における精神科救急医療の拠点として、他の医療機関と連携・分担しながら、引き続き現行の精神科救急医療を担います。
- 急性期治療後の在宅患者支援の一層の充実を図るため、今後とも精神科デイケアや訪問看護を積極的に実施し、「精神



〈向陽ヶ丘病院外観〉

(5) 今後の方向性

- 精神科救急医療体制に引き続き参加し、オホーツク第三次医療圏における精神科救急医療の拠点として、他の医療機関と連携・分担しながら、引き続き現行の精神科救急医療を担います。
- 急性期治療後の在宅患者支援の一層の充実を図るため、今後とも精神科デイケアや訪問看護を積極的に実施し、「精神



〈向陽ヶ丘病院外観〉

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備 考
<p>障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症疾患医療センターを中心とした認知症専門医療、児童・思春期精神科医療について、他の医療機関等と連携を図るとともに、引き続きその機能を担います。 ○ 関係機関との意見交換の結果などを踏まえ、地域から求められる病院機能について検討します。 	<p>障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症疾患医療センターを中心とした認知症専門医療、児童・思春期精神科医療について、他の医療機関等と連携を図るとともに、引き続きその機能を担います。 ○ 関係機関との意見交換の結果などを踏まえ、地域から求められる病院機能について検討します。 ○ <u>新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、患者が発生した際には、保健所との連携の下、発生状況に応じた入院医療の確保を図ります。</u> 	<p>・現行の下線部分は「VI 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」に移行</p>

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】(素案)	現行プラン	備考																								
<p>5 子ども総合医療・療育センター（コドモックル） 【概要】 (令和●年(●年)●月●日現在)</p> <table border="1" data-bbox="172 342 1181 1035"> <tr> <td>■所在地</td> <td>札幌市手稲区金山1条1丁目240番6</td> </tr> <tr> <td>■施設種別</td> <td>小児医療施設、医療型入所施設</td> </tr> <tr> <td>■病床数</td> <td>許可：一般215床 (医療部門105床、療育部門110床) 運用：一般212床 (医療部門102床、療育部門110床) ※NICU(新生児特定集中治療室)12床、 GCU(新生児回復期治療室)12床</td> </tr> <tr> <td>■職員数</td> <td>計●名(医師●名、看護師●名、その他●名)</td> </tr> <tr> <td>■診療科目</td> <td>小児科、小児神経内科、新生児内科、小児内分泌内科、小児外科、小児血液腫瘍内科、遺伝診療科、小児腎臓内科、小児循環器内科、小児心臓血管外科、整形外科、小児脳神経外科、小児形成外科、小児眼科、小児耳鼻咽喉科、小児泌尿器科、小児精神科、リハビリテーション科(小児)、リハビリテーション科(整形)、麻酔科、放射線科、産科、小児歯科口腔外科、病理診断科、小児集中治療科</td> </tr> <tr> <td>■指定医療機関等</td> <td>特定機能周産期母子医療センター、循環器病センター 総合発達支援センター</td> </tr> </table> <p>(1) 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年度(2018年度)に小児科専門研修プログラムを策定し、令和元年度(2019年度)に1名、令和2年度(2020年度)に1名、令和3年度(2021年度)に1名の専攻医を確保しました。 ○ 令和2年(2020年)8月にNICUを3床増床し、計12床としました。 ○ 平成31年(2019年)4月に入退院支援や在宅ケアを一体的に所掌する「在宅支援室」を設置し、令和元年(2019年)9月には在宅療養後方支援病院の施設基準を届け出ました。 ○ 令和3年(2021年)9月にDPC準備病院の届出を行い、令和4年(2022年)4月にDPC準備病院になりました。 ○ 手術件数は、800件程度で推移しています。 ○ 周産期医療、高度先進医療、医学的リハビリテーションに関して、次の3つのセンター機能を有しており、医療部門と療育部門が連携し複合的なサービスを提供しています。  	■所在地	札幌市手稲区金山1条1丁目240番6	■施設種別	小児医療施設、医療型入所施設	■病床数	許可：一般215床 (医療部門105床、療育部門110床) 運用：一般212床 (医療部門102床、療育部門110床) ※NICU(新生児特定集中治療室)12床、 GCU(新生児回復期治療室)12床	■職員数	計●名(医師●名、看護師●名、その他●名)	■診療科目	小児科、小児神経内科、新生児内科、小児内分泌内科、小児外科、小児血液腫瘍内科、遺伝診療科、小児腎臓内科、小児循環器内科、小児心臓血管外科、整形外科、小児脳神経外科、小児形成外科、小児眼科、小児耳鼻咽喉科、小児泌尿器科、小児精神科、リハビリテーション科(小児)、リハビリテーション科(整形)、麻酔科、放射線科、産科、小児歯科口腔外科、病理診断科、小児集中治療科	■指定医療機関等	特定機能周産期母子医療センター、循環器病センター 総合発達支援センター	<p>5 子ども総合医療・療育センター（コドモックル） 【概要】 (令和3年(2021年)2月1日現在)</p> <table border="1" data-bbox="1267 342 2276 1035"> <tr> <td>■所在地</td> <td>札幌市手稲区金山1条1丁目240番6</td> </tr> <tr> <td>■施設種別</td> <td>小児医療施設、医療型入所施設</td> </tr> <tr> <td>■病床数</td> <td>許可：一般215床 (医療部門105床、療育部門110床) 稼働：一般212床 (医療部門102床、療育部門110床) ※NICU(新生児特定集中治療室)12床、 GCU(新生児回復期治療室)12床</td> </tr> <tr> <td>■職員数</td> <td>計371名(医師43名、看護師217名、その他111名)</td> </tr> <tr> <td>■診療科目</td> <td>小児科、小児神経内科、新生児内科、小児内分泌内科、小児外科、小児血液腫瘍内科、遺伝診療科、小児腎臓内科、小児循環器内科、小児心臓血管外科、整形外科、小児脳神経外科、小児形成外科、小児眼科、小児耳鼻咽喉科、小児泌尿器科、小児精神科、リハビリテーション科(小児)、リハビリテーション科(整形)、麻酔科、放射線科、産科、小児歯科口腔外科、病理診断科、小児集中治療科</td> </tr> <tr> <td>■指定医療機関等</td> <td>特定機能周産期母子医療センター、循環器病センター 総合発達支援センター</td> </tr> </table> <p>(1) 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年度(2018年度)に小児科専門研修プログラムを策定し、令和元年度(2019年度)に1名、令和2年度(2020年度)に1名の専攻医を確保しました。 ○ 令和2年(2020年)8月にNICUを3床増床し、計12床としました。 ○ 平成31年(2019年)4月に入退院支援や在宅ケアを一体的に所掌する「在宅支援室」を設置し、令和元年(2019年)9月には在宅療養後方支援病院の施設基準を届け出ました。 ○ 手術件数は、800件程度で推移しています。 ○ 周産期医療、高度先進医療、医学的リハビリテーションに関して、次の3つのセンター機能を有しており、医療部門と療育部門が連携し複合的なサービスを提供しています。  	■所在地	札幌市手稲区金山1条1丁目240番6	■施設種別	小児医療施設、医療型入所施設	■病床数	許可：一般215床 (医療部門105床、療育部門110床) 稼働：一般212床 (医療部門102床、療育部門110床) ※NICU(新生児特定集中治療室)12床、 GCU(新生児回復期治療室)12床	■職員数	計371名(医師43名、看護師217名、その他111名)	■診療科目	小児科、小児神経内科、新生児内科、小児内分泌内科、小児外科、小児血液腫瘍内科、遺伝診療科、小児腎臓内科、小児循環器内科、小児心臓血管外科、整形外科、小児脳神経外科、小児形成外科、小児眼科、小児耳鼻咽喉科、小児泌尿器科、小児精神科、リハビリテーション科(小児)、リハビリテーション科(整形)、麻酔科、放射線科、産科、小児歯科口腔外科、病理診断科、小児集中治療科	■指定医療機関等	特定機能周産期母子医療センター、循環器病センター 総合発達支援センター	<p>・直近の数値を入力予定</p> <p>・文言修正</p> <p>・現状の対応状況を踏まえた時点修正</p>
■所在地	札幌市手稲区金山1条1丁目240番6																									
■施設種別	小児医療施設、医療型入所施設																									
■病床数	許可：一般215床 (医療部門105床、療育部門110床) 運用：一般212床 (医療部門102床、療育部門110床) ※NICU(新生児特定集中治療室)12床、 GCU(新生児回復期治療室)12床																									
■職員数	計●名(医師●名、看護師●名、その他●名)																									
■診療科目	小児科、小児神経内科、新生児内科、小児内分泌内科、小児外科、小児血液腫瘍内科、遺伝診療科、小児腎臓内科、小児循環器内科、小児心臓血管外科、整形外科、小児脳神経外科、小児形成外科、小児眼科、小児耳鼻咽喉科、小児泌尿器科、小児精神科、リハビリテーション科(小児)、リハビリテーション科(整形)、麻酔科、放射線科、産科、小児歯科口腔外科、病理診断科、小児集中治療科																									
■指定医療機関等	特定機能周産期母子医療センター、循環器病センター 総合発達支援センター																									
■所在地	札幌市手稲区金山1条1丁目240番6																									
■施設種別	小児医療施設、医療型入所施設																									
■病床数	許可：一般215床 (医療部門105床、療育部門110床) 稼働：一般212床 (医療部門102床、療育部門110床) ※NICU(新生児特定集中治療室)12床、 GCU(新生児回復期治療室)12床																									
■職員数	計371名(医師43名、看護師217名、その他111名)																									
■診療科目	小児科、小児神経内科、新生児内科、小児内分泌内科、小児外科、小児血液腫瘍内科、遺伝診療科、小児腎臓内科、小児循環器内科、小児心臓血管外科、整形外科、小児脳神経外科、小児形成外科、小児眼科、小児耳鼻咽喉科、小児泌尿器科、小児精神科、リハビリテーション科(小児)、リハビリテーション科(整形)、麻酔科、放射線科、産科、小児歯科口腔外科、病理診断科、小児集中治療科																									
■指定医療機関等	特定機能周産期母子医療センター、循環器病センター 総合発達支援センター																									

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】(素案)	現行プラン	備考																																																																																																																																																																																																																																																																												
<p>医療部門</p> <p>□ 特定機能周産期母子医療センター（周産期医療） 対応が難しいハイリスクの胎児や新生児に対応する周産期医療を提供するため、12床の母性病棟の設置と産科医を配置し、NICU、GCU、ICUとも連携の上、複合した先天異常や超低出生体重児に対応できる体制を整備しています。</p> <p>□ 循環器病センター（高度先進医療） 疾患の重症化や治療法の多様化に対応するため、内科的な循環器科と外科的な心臓血管外科等の連携を強化して、よりの確な循環器疾患の診断と治療を行っています。先天性心疾患や先進的なカテーテルインターベンションなどの高度な医療を提供しています。</p> <p>療育部門</p> <p>□ 総合発達支援センター（医学的リハビリテーション） 医療が複合的な病状に対応するのに従い、高度なリハビリテーションの要求が高まっており、新生児期からの障がいの軽減に向け、医療と療育が連携して科学的根拠に基づく医学的リハビリテーションの提供を行っています。また、市町村を中心として整備されている「子ども発達支援センター」に対し、地域で確保が困難な専門的支援を実施しています。</p>	<p>医療部門</p> <p>□ 特定機能周産期母子医療センター（周産期医療） 対応が難しいハイリスクの胎児や新生児に対応する周産期医療を提供するため、12床の母性病棟の設置と産科医を配置し、NICU、GCU、ICUとも連携の上、複合した先天異常や超低出生体重児に対応できる体制を整備しています。</p> <p>□ 循環器病センター（高度先進医療） 疾患の重症化や治療法の多様化に対応するため、内科的な循環器科と外科的な心臓血管外科等の連携を強化して、よりの確な循環器疾患の診断と治療を行っています。先天性心疾患や先進的なカテーテルインターベンションなどの高度な医療を提供しています。</p> <p>療育部門</p> <p>□ 総合発達支援センター（医学的リハビリテーション） 医療が複合的な病状に対応するのに従い、高度なリハビリテーションの要求が高まっており、新生児期からの障がいの軽減に向け、医療と療育が連携して科学的根拠に基づく医学的リハビリテーションの提供を行っています。また、市町村を中心として整備されている「子ども発達支援センター」に対し、地域で確保が困難な専門的支援を実施しています。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																													
<p>(2) 収支状況等</p> <p>医療部門</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、入院患者数が減少傾向にあることや給与費・経費など費用の増加により収支差が拡大している状況にあります。</p> <table border="1" data-bbox="184 1352 1187 1850"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">(単位)</th> <th colspan="2">H31(R1)</th> <th colspan="2">R2</th> <th colspan="2">R3</th> </tr> <tr> <th>プラン</th> <th>実績</th> <th>プラン</th> <th>実績</th> <th>プラン</th> <th>実績見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益的収支</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>収益 A</td> <td>(百万円)</td> <td>3,040</td> <td>2,869</td> <td>3,051</td> <td>2,928</td> <td>3,123</td> <td>3,052</td> </tr> <tr> <td>費用 B</td> <td>(百万円)</td> <td>4,315</td> <td>4,303</td> <td>4,337</td> <td>4,543</td> <td>4,863</td> <td>4,874</td> </tr> <tr> <td>収支差 C=A-B</td> <td>(百万円)</td> <td>▲ 1,275</td> <td>▲ 1,434</td> <td>▲ 1,286</td> <td>▲ 1,615</td> <td>▲ 1,740</td> <td>▲ 1,822</td> </tr> <tr> <td>経営指標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>(%)</td> <td>75.5</td> <td>67.4</td> <td>75.5</td> <td>63.3</td> <td>70.5</td> <td>58.7</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率</td> <td>(%)</td> <td>66.8</td> <td>63.8</td> <td>66.3</td> <td>60.6</td> <td>60.4</td> <td>58.5</td> </tr> <tr> <td>医薬材料費対医業収益比率</td> <td>(%)</td> <td>24.6</td> <td>25.1</td> <td>24.5</td> <td>25.9</td> <td>21.4</td> <td>27.2</td> </tr> <tr> <td>後発医薬品使用割合</td> <td>(%)</td> <td>77.0</td> <td>72.6</td> <td>80.0</td> <td>69.9</td> <td>75.0</td> <td>67.8</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>(件)</td> <td>760</td> <td>787</td> <td>760</td> <td>741</td> <td>730</td> <td>744</td> </tr> <tr> <td>新生児特定集中治療室における他の周産期母子医療センターからの受入率</td> <td>(%)</td> <td>50.0</td> <td>62.5</td> <td>50.0</td> <td>77.2</td> <td>70.0</td> <td>61.1</td> </tr> <tr> <td>入 1日平均患者数</td> <td>(人)</td> <td>74.7</td> <td>66.8</td> <td>74.7</td> <td>63.9</td> <td>71.9</td> <td>59.9</td> </tr> <tr> <td>院 患者1人1日当たり収益</td> <td>(円)</td> <td>79,023</td> <td>83,813</td> <td>79,060</td> <td>90,472</td> <td>85,883</td> <td>98,122</td> </tr> <tr> <td>外 1日平均患者数</td> <td>(人)</td> <td>171.1</td> <td>170.4</td> <td>173.3</td> <td>152.6</td> <td>171.7</td> <td>158.7</td> </tr> <tr> <td>来 患者1人1日当たり収益</td> <td>(円)</td> <td>14,925</td> <td>14,071</td> <td>14,915</td> <td>14,662</td> <td>13,668</td> <td>15,456</td> </tr> </tbody> </table>	区分	(単位)	H31(R1)		R2		R3		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績見込	収益的収支								収益 A	(百万円)	3,040	2,869	3,051	2,928	3,123	3,052	費用 B	(百万円)	4,315	4,303	4,337	4,543	4,863	4,874	収支差 C=A-B	(百万円)	▲ 1,275	▲ 1,434	▲ 1,286	▲ 1,615	▲ 1,740	▲ 1,822	経営指標								病床利用率	(%)	75.5	67.4	75.5	63.3	70.5	58.7	医業収支比率	(%)	66.8	63.8	66.3	60.6	60.4	58.5	医薬材料費対医業収益比率	(%)	24.6	25.1	24.5	25.9	21.4	27.2	後発医薬品使用割合	(%)	77.0	72.6	80.0	69.9	75.0	67.8	手術件数	(件)	760	787	760	741	730	744	新生児特定集中治療室における他の周産期母子医療センターからの受入率	(%)	50.0	62.5	50.0	77.2	70.0	61.1	入 1日平均患者数	(人)	74.7	66.8	74.7	63.9	71.9	59.9	院 患者1人1日当たり収益	(円)	79,023	83,813	79,060	90,472	85,883	98,122	外 1日平均患者数	(人)	171.1	170.4	173.3	152.6	171.7	158.7	来 患者1人1日当たり収益	(円)	14,925	14,071	14,915	14,662	13,668	15,456	<p>(2) 収支状況等</p> <p>医療部門</p> <p>病床利用率や1日平均患者数（入院）、手術件数などは、平成29年度(2017年度)から平成30年度(2018年度)にかけて増加したものの、令和元年度(2019年度)には減少し、収支差が拡大している状況にあります。</p> <table border="1" data-bbox="1285 1352 2270 1850"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">(単位)</th> <th colspan="2">H29</th> <th colspan="2">H30</th> <th colspan="2">R1(H31)</th> </tr> <tr> <th>プラン</th> <th>実績</th> <th>プラン</th> <th>実績</th> <th>プラン</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益的収支</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>収益 A</td> <td>(百万円)</td> <td>2,973</td> <td>2,824</td> <td>3,015</td> <td>2,994</td> <td>3,040</td> <td>2,869</td> </tr> <tr> <td>費用 B</td> <td>(百万円)</td> <td>4,188</td> <td>4,097</td> <td>4,232</td> <td>4,203</td> <td>4,315</td> <td>4,303</td> </tr> <tr> <td>収支差 C=A-B</td> <td>(百万円)</td> <td>▲ 1,215</td> <td>▲ 1,273</td> <td>▲ 1,217</td> <td>▲ 1,209</td> <td>▲ 1,275</td> <td>▲ 1,434</td> </tr> <tr> <td>経営指標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>(%)</td> <td>74.2</td> <td>70.5</td> <td>75.0</td> <td>70.8</td> <td>75.5</td> <td>67.4</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率</td> <td>(%)</td> <td>67.8</td> <td>66.1</td> <td>67.5</td> <td>68.7</td> <td>66.8</td> <td>63.8</td> </tr> <tr> <td>医薬材料費対医業収益比率</td> <td>(%)</td> <td>24.8</td> <td>24.1</td> <td>24.7</td> <td>24.3</td> <td>24.6</td> <td>25.1</td> </tr> <tr> <td>後発医薬品使用割合</td> <td>(%)</td> <td>72.0</td> <td>75.5</td> <td>74.0</td> <td>68.9</td> <td>77.0</td> <td>72.6</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>(件)</td> <td>760</td> <td>782</td> <td>760</td> <td>829</td> <td>760</td> <td>787</td> </tr> <tr> <td>新生児特定集中治療室における他の周産期母子医療センターからの受入率</td> <td>(%)</td> <td>50.0</td> <td>49.5</td> <td>50.0</td> <td>68.5</td> <td>50.0</td> <td>62.5</td> </tr> <tr> <td>入 1日平均患者数</td> <td>(人)</td> <td>73.5</td> <td>69.8</td> <td>74.2</td> <td>70.1</td> <td>74.7</td> <td>66.8</td> </tr> <tr> <td>院 患者1人1日当たり収益</td> <td>(円)</td> <td>79,016</td> <td>79,531</td> <td>79,114</td> <td>85,065</td> <td>79,023</td> <td>83,813</td> </tr> <tr> <td>外 1日平均患者数</td> <td>(人)</td> <td>166.3</td> <td>163.9</td> <td>170.2</td> <td>168.8</td> <td>171.1</td> <td>170.4</td> </tr> <tr> <td>来 患者1人1日当たり収益</td> <td>(円)</td> <td>14,838</td> <td>14,111</td> <td>14,884</td> <td>14,140</td> <td>14,925</td> <td>14,071</td> </tr> </tbody> </table>	区分	(単位)	H29		H30		R1(H31)		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績	収益的収支								収益 A	(百万円)	2,973	2,824	3,015	2,994	3,040	2,869	費用 B	(百万円)	4,188	4,097	4,232	4,203	4,315	4,303	収支差 C=A-B	(百万円)	▲ 1,215	▲ 1,273	▲ 1,217	▲ 1,209	▲ 1,275	▲ 1,434	経営指標								病床利用率	(%)	74.2	70.5	75.0	70.8	75.5	67.4	医業収支比率	(%)	67.8	66.1	67.5	68.7	66.8	63.8	医薬材料費対医業収益比率	(%)	24.8	24.1	24.7	24.3	24.6	25.1	後発医薬品使用割合	(%)	72.0	75.5	74.0	68.9	77.0	72.6	手術件数	(件)	760	782	760	829	760	787	新生児特定集中治療室における他の周産期母子医療センターからの受入率	(%)	50.0	49.5	50.0	68.5	50.0	62.5	入 1日平均患者数	(人)	73.5	69.8	74.2	70.1	74.7	66.8	院 患者1人1日当たり収益	(円)	79,016	79,531	79,114	85,065	79,023	83,813	外 1日平均患者数	(人)	166.3	163.9	170.2	168.8	171.1	170.4	来 患者1人1日当たり収益	(円)	14,838	14,111	14,884	14,140	14,925	14,071	<p>・直近の状況による修正</p>
区分			(単位)	H31(R1)		R2		R3																																																																																																																																																																																																																																																																						
	プラン	実績		プラン	実績	プラン	実績見込																																																																																																																																																																																																																																																																							
収益的収支																																																																																																																																																																																																																																																																														
収益 A	(百万円)	3,040	2,869	3,051	2,928	3,123	3,052																																																																																																																																																																																																																																																																							
費用 B	(百万円)	4,315	4,303	4,337	4,543	4,863	4,874																																																																																																																																																																																																																																																																							
収支差 C=A-B	(百万円)	▲ 1,275	▲ 1,434	▲ 1,286	▲ 1,615	▲ 1,740	▲ 1,822																																																																																																																																																																																																																																																																							
経営指標																																																																																																																																																																																																																																																																														
病床利用率	(%)	75.5	67.4	75.5	63.3	70.5	58.7																																																																																																																																																																																																																																																																							
医業収支比率	(%)	66.8	63.8	66.3	60.6	60.4	58.5																																																																																																																																																																																																																																																																							
医薬材料費対医業収益比率	(%)	24.6	25.1	24.5	25.9	21.4	27.2																																																																																																																																																																																																																																																																							
後発医薬品使用割合	(%)	77.0	72.6	80.0	69.9	75.0	67.8																																																																																																																																																																																																																																																																							
手術件数	(件)	760	787	760	741	730	744																																																																																																																																																																																																																																																																							
新生児特定集中治療室における他の周産期母子医療センターからの受入率	(%)	50.0	62.5	50.0	77.2	70.0	61.1																																																																																																																																																																																																																																																																							
入 1日平均患者数	(人)	74.7	66.8	74.7	63.9	71.9	59.9																																																																																																																																																																																																																																																																							
院 患者1人1日当たり収益	(円)	79,023	83,813	79,060	90,472	85,883	98,122																																																																																																																																																																																																																																																																							
外 1日平均患者数	(人)	171.1	170.4	173.3	152.6	171.7	158.7																																																																																																																																																																																																																																																																							
来 患者1人1日当たり収益	(円)	14,925	14,071	14,915	14,662	13,668	15,456																																																																																																																																																																																																																																																																							
区分	(単位)	H29		H30		R1(H31)																																																																																																																																																																																																																																																																								
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績																																																																																																																																																																																																																																																																							
収益的収支																																																																																																																																																																																																																																																																														
収益 A	(百万円)	2,973	2,824	3,015	2,994	3,040	2,869																																																																																																																																																																																																																																																																							
費用 B	(百万円)	4,188	4,097	4,232	4,203	4,315	4,303																																																																																																																																																																																																																																																																							
収支差 C=A-B	(百万円)	▲ 1,215	▲ 1,273	▲ 1,217	▲ 1,209	▲ 1,275	▲ 1,434																																																																																																																																																																																																																																																																							
経営指標																																																																																																																																																																																																																																																																														
病床利用率	(%)	74.2	70.5	75.0	70.8	75.5	67.4																																																																																																																																																																																																																																																																							
医業収支比率	(%)	67.8	66.1	67.5	68.7	66.8	63.8																																																																																																																																																																																																																																																																							
医薬材料費対医業収益比率	(%)	24.8	24.1	24.7	24.3	24.6	25.1																																																																																																																																																																																																																																																																							
後発医薬品使用割合	(%)	72.0	75.5	74.0	68.9	77.0	72.6																																																																																																																																																																																																																																																																							
手術件数	(件)	760	782	760	829	760	787																																																																																																																																																																																																																																																																							
新生児特定集中治療室における他の周産期母子医療センターからの受入率	(%)	50.0	49.5	50.0	68.5	50.0	62.5																																																																																																																																																																																																																																																																							
入 1日平均患者数	(人)	73.5	69.8	74.2	70.1	74.7	66.8																																																																																																																																																																																																																																																																							
院 患者1人1日当たり収益	(円)	79,016	79,531	79,114	85,065	79,023	83,813																																																																																																																																																																																																																																																																							
外 1日平均患者数	(人)	166.3	163.9	170.2	168.8	171.1	170.4																																																																																																																																																																																																																																																																							
来 患者1人1日当たり収益	(円)	14,838	14,111	14,884	14,140	14,925	14,071																																																																																																																																																																																																																																																																							

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】(素案)		現行プラン		備考
--------------	--	-------	--	----

療育部門

1日平均入所者数は減少傾向、収支差は拡大している状況にあります。

区分	(単位)	H31(R1)		R2		R3	
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績見込
収益的収支	収益 A	(百万円) 998	945	1,014	864	960	893
費用 B	(百万円)	1,846	1,712	1,908	1,816	1,984	1,826
収支差 C=A-B	(百万円)	▲ 848	▲ 767	▲ 894	▲ 952	▲ 1,024	▲ 933
1日平均入所者数	(人)	75	64	75	50	52.5	53

療育部門

1日平均入所者数は減少傾向、収支差は拡大している状況にあります。

区分	(単位)	H29		H30		R1(H31)	
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績
収益的収支	収益 A	(百万円) 953	962	996	922	998	945
費用 B	(百万円)	1,793	1,692	1,861	1,768	1,846	1,712
収支差 C=A-B	(百万円)	▲ 840	▲ 731	▲ 865	▲ 846	▲ 848	▲ 767
1日平均入所者数	(人)	71	67	75	62	75	64

(3) 札幌圏域における医療需要等

① 人口推計

札幌圏域における人口は、令和2年(2020年)をピークとして減少を続け、令和22年(2040年)には令和2年(2020年)人口のおよそ93%、22,188百人になることが推測されます。

年齢構成については、年少人口割合が減少を続けており、令和2年(2020年)に11.1%、令和22年(2040年)には9.5%となり、この20年間で1.6ポイント減少することが推測されます。

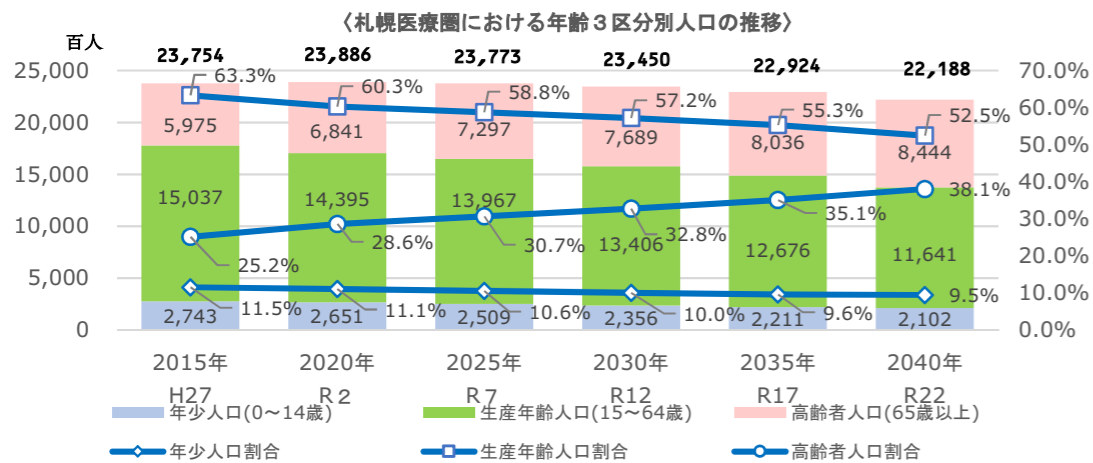


(3) 札幌圏域における医療需要等

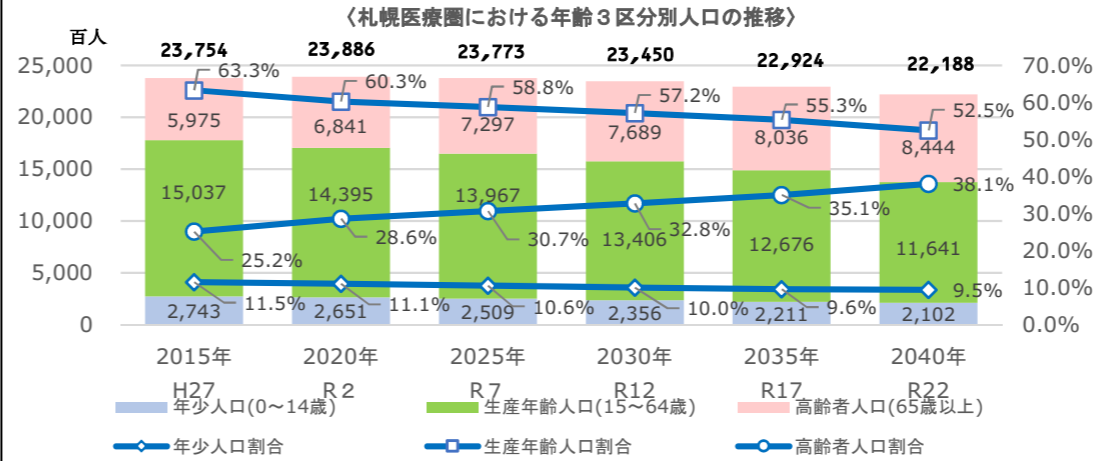
① 人口推計

札幌圏域における人口は、令和2年(2020年)をピークとして減少を続け、令和22年(2040年)には令和2年(2020年)人口のおよそ93%、22,188百人になることが推測されます。

年齢構成については、年少人口割合が減少を続けており、令和2年(2020年)に11.1%、令和22年(2040年)には9.5%となり、この20年間で1.6ポイント減少することが推測されます。



(国立社会保障・人口問題研究所：平成30(2018)年3月推計)



(国立社会保障・人口問題研究所：平成30(2018)年3月推計)

② 地域医療構想における2025年の病床必要量

札幌圏域

(単位：床)

区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
病院	31,375	2,691	14,416	2,950	11,016	302
うちコドモックル	215	33	72	110	0	0
診療所	2,051	0	1,509	110	94	338
合計	33,426	2,691	15,925	3,060	11,110	640
必要病床数(2025年)	35,786	3,913	10,951	8,923	11,999	-

(令和2年度病床機能報告による)

② 地域医療構想における2025年の病床必要量

札幌圏域



(単位：床)

区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
病院	32,887	2,572	15,340	2,849	11,917	209
うちコドモックル	215	33	72	110	0	0
診療所	2,467	0	1,702	99	294	372
合計	35,354	2,572	17,042	2,948	12,211	581
必要病床数(2025年)	35,786	3,913	10,951	8,923	11,999	-

(平成30年度病床機能報告による)

・直近の状況による修正

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>【区域内の現況、取組の方向性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 37 年（2025 年）における必要病床数と病床機能報告制度により報告された機能別病床数を比較すると、回復期が不足し、急性期が過剰となっています。 不足している回復期病床の確保が、今後の中心的な課題であり、必要病床数と病床機能報告による各機能別の病床数との差を縮小させていく必要があります。 高齢化の進展に対応するため、在宅医療等の更なる推進や介護保険施設等における看取りの充実などにより、病床への依存度を下げ、地域で医療を受けられるようにする取組についても検討が必要です。 <p style="text-align: right; font-size: small;">（平成 30 年度地域医療構想推進シートより抜粋）</p> <p>（4）課題</p> <p style="background-color: #004a99; color: white; padding: 2px; margin-left: 10px;">医療部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者が地域で安心して療養生活を送ることができるよう、在宅への移行に向けた支援の取組が必要です。 ○ <u>全国の多くの小児高度・専門医療を担っている医療機関が参加している DPC 制度について、令和 4 年度から DPC 準備病院となり、令和 6 年度の DPC 本格参加に向け準備を進めていくことが必要です。</u> <p style="background-color: #004a99; color: white; padding: 2px; margin-left: 10px;">療育部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村等に対する地域支援の取組を推進するため、総合発達支援センター機能の一層の充実が必要です。 <p>（5）今後の方向性</p> <p style="background-color: #004a99; color: white; padding: 2px; margin-left: 10px;">医療部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現行機能を維持し、高度・専門性、特殊性の高い小児医療を提供します。 ○ 在宅支援室を中心とし、在宅への移行に向けて、他の医療機関との連携や退院後のサポートの強化など、入退院支援機能の充実を図ります。 ○ <u>令和 6 年度の DPC 制度への本格参加に向けて必要な体制を整備するなど、医療の質の可視化や収益の改善に向けた方策について検討を進めます。</u> ○ 小児科専門研修プログラムの基幹病院として、専攻医の積極的な受入やプログラムの充実など小児科専門医の育成に取り組みます。また、外科系診療科や麻酔科においても小児領域を研修する専攻医や高度な技術の習得を目指す医師の受入に取り組み、小児の専門病院として求められる人材育成の役割を果たしていきます。 	<p>【区域内の現況、取組の方向性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 37 年（2025 年）における必要病床数と病床機能報告制度により報告された機能別病床数を比較すると、回復期が不足し、急性期が過剰となっています。 不足している回復期病床の確保が、今後の中心的な課題であり、必要病床数と病床機能報告による各機能別の病床数との差を縮小させていく必要があります。 高齢化の進展に対応するため、在宅医療等の更なる推進や介護保険施設等における看取りの充実などにより、病床への依存度を下げ、地域で医療を受けられるようにする取組についても検討が必要です。 <p style="text-align: right; font-size: small;">（平成 30 年度地域医療構想推進シートより抜粋）</p> <p>（4）課題</p> <p style="background-color: #004a99; color: white; padding: 2px; margin-left: 10px;">医療部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者が地域で安心して療養生活を送ることができるよう、在宅への移行に向けた支援の取組が必要です。 ○ <u>全国の多くの小児高度・専門医療を担っている医療機関が参加している DPC 制度への参加について、医療の提供方法や費用対効果を含め、調査・検討が必要です。</u> <p style="background-color: #004a99; color: white; padding: 2px; margin-left: 10px;">療育部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村等に対する地域支援の取組を推進するため、総合発達支援センター機能の一層の充実が必要です。 <p>（5）今後の方向性</p> <p style="background-color: #004a99; color: white; padding: 2px; margin-left: 10px;">医療部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現行機能を維持し、高度・専門性、特殊性の高い小児医療を提供します。 ○ 在宅支援室を中心とし、在宅への移行に向けて、他の医療機関との連携や退院後のサポートの強化など、入退院支援機能の充実を図ります。 ○ <u>DPC 制度への参加については、導入のために必要な体制の整備等の費用と効果を十分に検証し、その可否を判断するとともに、引き続き医療の質の可視化や収益の改善に向けた方策について検討を進めます。</u> ○ 小児科専門研修プログラムの基幹病院として、専攻医の積極的な受入やプログラムの充実など小児科専門医の育成に取り組みます。また、外科系診療科や麻酔科においても小児領域を研修する専攻医や高度な技術の習得を目指す医師の受入に取り組み、小児の専門病院として求められる人材育成の役割を果たしていきます。 	<p>・ 現状の対応状況を踏まえた時点修正</p>

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>療育部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 旭川子ども総合療育センターとともに、医療と療育が連携した複合施設における現行機能を担うほか、市町村等に対する地域支援の取組を実施します。 ○ 北海道の小児に対する<u>医学的</u>リハビリテーションの中核的役割を担っていきます。 	<p>○ <u>新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関との連携の上、疑似症患者の検体の採取など、必要な診療体制の構築に努めます。</u></p> <p>療育部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 旭川子ども総合療育センターとともに、医療と療育が連携した複合施設における現行機能を担うほか、市町村等に対する地域支援の取組を実施します。 ○ 北海道の小児に対するリハビリテーションの中核的役割を担っていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の下線部分は「VI 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」に移行 ・ 文言修正

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】(素案)	現行プラン	備考																																												
<p>6 北見病院 【概要】 (令和●年(●年)●月●日現在)</p> <table border="1" data-bbox="172 373 1181 583"> <tr> <td>■所在地</td> <td>北見市北7条東2丁目</td> </tr> <tr> <td>■病床数</td> <td>許可：一般70床 人工透析：10床</td> </tr> <tr> <td>■診療科目</td> <td>内科、心臓血管外科、循環器内科、呼吸器内科、呼吸器外科 麻酔科</td> </tr> </table> <p>(1) 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オホーツク第三次医療圏域内において、循環器・呼吸器疾患の高度・専門医療を提供しています。 ○ 心臓血管外科では、開心術に加え、低侵襲心臓弁膜手術などを実施するとともに、循環器内科では、心房細動のカテーテル手術治療や植込型除細動器による治療を実施しています。 ○ 呼吸器内科では、化学療法や慢性閉塞性肺疾患等の入院治療などを実施しています。 ○ 平成30年度(2018年度)から指定管理者制度を導入し、病院運営を日本赤十字社に委任しています。 ○ 隣接する北見赤十字病院との一体的な運営により、 <ul style="list-style-type: none"> ・継続的、組織横断的に質の高い診療を目指すことを目的としたハートチーム委員会^(※)の設置 ・ハイブリッド手術室や精密呼吸機能検査機器の共同利用 ・心大血管リハビリテーション及び呼吸器リハビリテーションの実施 ・カテーテルアブレーション(不整脈治療)の実施や植込型除細動器(ICD)の移植術・交換術の実施など、高度・専門治療を提供しています。 ○ 手術件数は令和3年度(2021年度)に501件、外来化学療法実患者数も31人と増加傾向にあります。 ○ <u>新型コロナウイルス感染症への対応については、北見赤十字病院との連携のもと、入院患者の受入を行っています。</u> ※ハートチーム委員会：北見赤十字病院と北見病院の多職種による循環器診療・ケアの課題解決に向けた検討を行う委員会 <div data-bbox="831 640 1172 1039"> <table border="1"> <caption>手術件数等の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>手術件数</th> <th>検査件数</th> <th>外来化学療法実患者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1(H31)</td> <td>426</td> <td>175</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>417</td> <td>213</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>501</td> <td>214</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="712 1081 1172 1375"> <p>〈ハイブリッド手術室〉</p> </div> <p>(2) 収支状況等 指定管理者制度を導入した平成30年度(2018年度)から収支差は改善傾向にあります。</p>	■所在地	北見市北7条東2丁目	■病床数	許可：一般70床 人工透析：10床	■診療科目	内科、心臓血管外科、循環器内科、呼吸器内科、呼吸器外科 麻酔科	年度	手術件数	検査件数	外来化学療法実患者数	R1(H31)	426	175	27	R2	417	213	32	R3	501	214	31	<p>6 北見病院 【概要】 (令和3年(2021年)2月1日現在)</p> <table border="1" data-bbox="1270 373 2279 583"> <tr> <td>■所在地</td> <td>北見市北7条東2丁目</td> </tr> <tr> <td>■病床数</td> <td>許可：一般70床 人工透析：10床</td> </tr> <tr> <td>■診療科目</td> <td>内科、心臓血管外科、循環器内科、呼吸器内科、呼吸器外科 麻酔科</td> </tr> </table> <p>(1) 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オホーツク第三次医療圏域内において、循環器・呼吸器疾患の高度・専門医療を提供しています。 ○ 心臓血管外科では、開心術に加え、低侵襲心臓弁膜手術などを実施するとともに、循環器内科では、心房細動のカテーテル手術治療や植込型除細動器による治療を実施しています。 ○ 呼吸器内科では、化学療法や慢性閉塞性肺疾患等の入院治療などを実施しています。 ○ 平成30年度(2018年度)から指定管理者制度を導入し、病院運営を日本赤十字社に委任しています。 ○ 隣接する北見赤十字病院との一体的な運営により、 <ul style="list-style-type: none"> ・継続的、組織横断的に質の高い診療を目指すことを目的としたハートチーム委員会^(※)の設置 ・ハイブリッド手術室や精密呼吸機能検査機器の共同利用 ・心大血管リハビリテーション及び呼吸器リハビリテーションの実施 ・カテーテルアブレーション(不整脈治療)の実施や植込型除細動器(ICD)の移植術・交換術の実施など、高度・専門治療を提供しています。 ○ 手術件数は令和元年度(2019年度)に426件、外来化学療法実患者数も27人と増加傾向にあります。 ※ハートチーム委員会：北見赤十字病院と北見病院の多職種による循環器診療・ケアの課題解決に向けた検討を行う委員会 <div data-bbox="1929 640 2270 1039"> <table border="1"> <caption>手術件数等の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>手術件数</th> <th>検査件数</th> <th>外来化学療法実患者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>346</td> <td>211</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>399</td> <td>145</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>R1(H31)</td> <td>426</td> <td>175</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="1810 1081 2270 1375"> <p>〈ハイブリッド手術室〉</p> </div> <p>(2) 収支状況等 病床利用率、手術件数、1日平均患者数(入院・外来)がいずれも増加傾向にあるなど、指定管理者制度を導入した平成30年度(2018年度)から収支差は改善傾向にあります。</p>	■所在地	北見市北7条東2丁目	■病床数	許可：一般70床 人工透析：10床	■診療科目	内科、心臓血管外科、循環器内科、呼吸器内科、呼吸器外科 麻酔科	年度	手術件数	検査件数	外来化学療法実患者数	H29	346	211	22	H30	399	145	25	R1(H31)	426	175	27	<p>・直近の数値を入力予定</p> <p>・現状の対応状況を踏まえた時点修正</p> <p>・直近の状況による修正</p>
■所在地	北見市北7条東2丁目																																													
■病床数	許可：一般70床 人工透析：10床																																													
■診療科目	内科、心臓血管外科、循環器内科、呼吸器内科、呼吸器外科 麻酔科																																													
年度	手術件数	検査件数	外来化学療法実患者数																																											
R1(H31)	426	175	27																																											
R2	417	213	32																																											
R3	501	214	31																																											
■所在地	北見市北7条東2丁目																																													
■病床数	許可：一般70床 人工透析：10床																																													
■診療科目	内科、心臓血管外科、循環器内科、呼吸器内科、呼吸器外科 麻酔科																																													
年度	手術件数	検査件数	外来化学療法実患者数																																											
H29	346	211	22																																											
H30	399	145	25																																											
R1(H31)	426	175	27																																											

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】(素案)	現行プラン	備考
--------------	-------	----

区分	(単位)	H31(R1)		R2		R3		
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績見込	
収益的収支	収益 A	(百万円)	765	307	881	269	437	202
	費用 B	(百万円)	1,297	544	1,404	485	1,207	340
	収支差 C=A-B	(百万円)	▲ 532	▲ 237	▲ 523	▲ 216	▲ 770	▲ 138
経営指標	病床利用率	(%)	54.3	54.3	58.6	49.3	64.2	49.6
	医業収支比率	(%)	-	-	-	-	-	-
	医薬材料費対医業収益比率	(%)	-	-	-	-	-	-
	後発医薬品使用割合	(%)	-	-	-	-	-	-
	手術件数	(件)	345	500	360	507	200	635
	入院1日平均患者数	(人)	38.0	38.0	41.0	34.5	45.0	34.7
	院内患者1人1日当たり収益	(円)	-	-	-	-	-	-
	外来患者1人1日当たり収益	(円)	-	-	-	-	-	-

※平成30年度(2018年度)より指定管理者制度を導入。入院・外来収益や医薬材料費などは指定管理者の収支に計上。

区分	(単位)	H29		H30		R1(H31)		
		プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績	
収益的収支	収益 A	(百万円)	1,719	1,812	655	348	765	307
	費用 B	(百万円)	2,449	2,601	1,200	602	1,297	544
	収支差 C=A-B	(百万円)	▲ 730	▲ 789	▲ 545	▲ 254	▲ 532	▲ 237
経営指標	病床利用率	(%)	48.6	53.7	50.0	53.8	54.3	54.3
	医業収支比率	(%)	59.3	57.9	-	-	-	-
	医薬材料費対医業収益比率	(%)	41.2	42.7	-	-	-	-
	後発医薬品使用割合	(%)	72.0	80.1	-	-	-	-
	手術件数	(件)	330	361	330	461	345	500
	入院1日平均患者数	(人)	34.0	37.6	35.0	37.7	38.0	38.0
	院内患者1人1日当たり収益	(円)	89,088	79,939	-	-	-	-
	外来患者1人1日当たり収益	(円)	18,652	21,588	-	-	-	-

※平成30年度(2018年度)より指定管理者制度を導入。入院・外来収益や医薬材料費などは指定管理者の収支に計上。

(3) オホーツク圏域の医療需要

① 人口推計

オホーツク第三次医療圏における人口は、令和2年(2020年)に約2,762百人、令和7年(2025年)には約2,574百人、令和22年(2040年)には約1,995百人まで減少することが推計されており、令和2年(2020年)から令和22年(2040年)の20年間でおよそ28%の人口減が見込まれています。

年齢構成については、年少人口の割合が減少を続ける一方で、高齢者人口の割合は増加を続け、令和22年(2040年)には圏域内人口の約44%が65歳以上の高齢者という人口減少と高齢化が進行した圏域になることが推測されます。

〈オホーツク圏域位置図〉



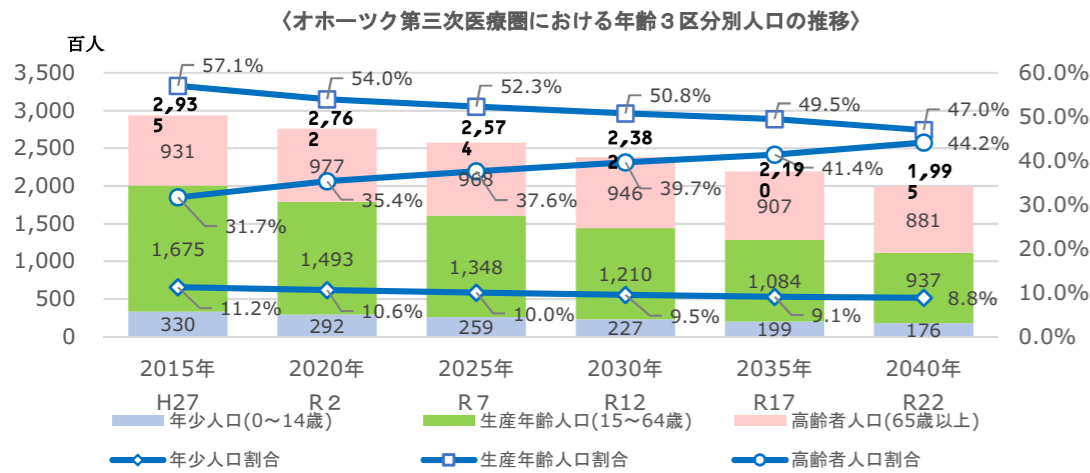
(3) オホーツク圏域の医療需要

① 人口推計

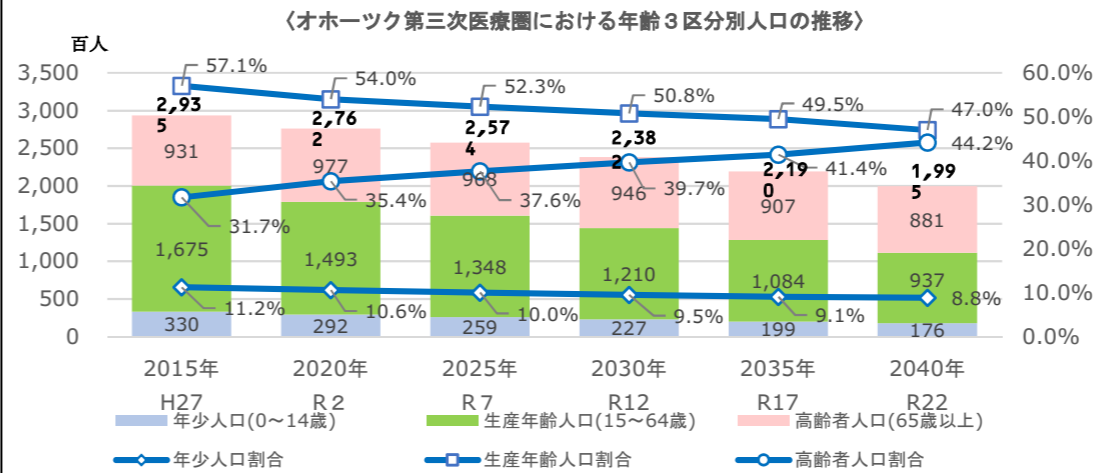
オホーツク第三次医療圏における人口は、令和2年(2020年)に約2,762百人、令和7年(2025年)には約2,574百人、令和22年(2040年)には約1,995百人まで減少することが推計されており、令和2年(2020年)から令和22年(2040年)の20年間でおよそ28%の人口減が見込まれています。

年齢構成については、年少人口の割合が減少を続ける一方で、高齢者人口の割合は増加を続け、令和22年(2040年)には圏域内人口の約44%が65歳以上の高齢者という、人口減少と高齢化が進行した圏域になることが推測されます。

〈オホーツク圏域位置図〉



(国立社会保障・人口問題研究所：平成30(2018)年3月)



(国立社会保障・人口問題研究所：平成30(2018)年3月)

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考																																																																																																																																																										
<p>② 地域医療構想における 2025 年の病床必要量</p> <p>北網圏域 (単位：床)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>病床計</th> <th>高度急性期</th> <th>急性期</th> <th>回復期</th> <th>慢性期</th> <th>休棟等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院</td> <td>2,318</td> <td>341</td> <td>1,050</td> <td>110</td> <td>716</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>うち北見病院</td> <td>70</td> <td>0</td> <td>70</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>243</td> <td>0</td> <td>88</td> <td>19</td> <td>76</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,561</td> <td>341</td> <td>1,138</td> <td>129</td> <td>792</td> <td>161</td> </tr> <tr> <td>必要病床数(2025年)</td> <td>2,450</td> <td>275</td> <td>790</td> <td>744</td> <td>641</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>(令和2年度病床機能報告による／未報告の医療機関を除く。)</p> <p>【区域内の現況、取組の方向性等】 高度急性期、急性期が過剰となり回復期の不足が見込まれるが、急性期と報告されている病棟においても一定程度の回復期機能を有するものと考えられるため、複数の疾患を有するなど高齢者の医療ニーズを踏まえながら、今後、病床単位での機能を把握しながら不足が見込まれる機能の確保を図る。 (平成30年度地域医療構想推進シートより抜粋)</p> <p>遠紋圏域 (単位：床)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>病床計</th> <th>高度急性期</th> <th>急性期</th> <th>回復期</th> <th>慢性期</th> <th>休棟等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院</td> <td>1,000</td> <td>92</td> <td>370</td> <td>107</td> <td>348</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>38</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>19</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,038</td> <td>92</td> <td>370</td> <td>107</td> <td>367</td> <td>102</td> </tr> <tr> <td>必要病床数(2025年)</td> <td>778</td> <td>46</td> <td>186</td> <td>285</td> <td>261</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>(令和2年度病床機能報告による)</p> <p>【区域内の現況、取組の方向性等】 ・ 急性期病床が減少し回復期が増加しているが、依然不足している状況。また、休床病床増加の理由として「医療職人材の不足」があり、人材の確保が喫緊の課題。 ・ 令和2年度においては療養病床から介護医療院への転換、有床診療所の閉院があった。 ・ 意向調査の結果では2025年は高度急性期がゼロであるが、急性期からの転換も要考慮。 (令和2年度地域医療構想推進シートより抜粋)</p> <p>(4) 課題 高度・専門医療、急性期医療の充実を図るため、引き続き北見赤十字病院との一層の連携が必要です。</p>	区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	病院	2,318	341	1,050	110	716	101	うち北見病院	70	0	70	0	0	0	診療所	243	0	88	19	76	60	合計	2,561	341	1,138	129	792	161	必要病床数(2025年)	2,450	275	790	744	641	-	区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	病院	1,000	92	370	107	348	83	診療所	38	0	0	0	19	19	合計	1,038	92	370	107	367	102	必要病床数(2025年)	778	46	186	285	261	-	<p>② 地域医療構想における 2025 年の病床必要量</p> <p>北網圏域 (単位：床)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>病床計</th> <th>高度急性期</th> <th>急性期</th> <th>回復期</th> <th>慢性期</th> <th>休棟等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院</td> <td>2,394</td> <td>312</td> <td>1,175</td> <td>128</td> <td>666</td> <td>113</td> </tr> <tr> <td>うち北見病院</td> <td>70</td> <td>0</td> <td>70</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>262</td> <td>0</td> <td>107</td> <td>19</td> <td>76</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,656</td> <td>312</td> <td>1,282</td> <td>147</td> <td>742</td> <td>173</td> </tr> <tr> <td>必要病床数(2025年)</td> <td>2,450</td> <td>275</td> <td>790</td> <td>744</td> <td>641</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>(平成30年度病床機能報告による／未報告の医療機関を除く。)</p> <p>【区域内の現況、取組の方向性等】 高度急性期、急性期が過剰となり回復期の不足が見込まれるが、急性期と報告されている病棟においても一定程度の回復期機能を有するものと考えられるため、複数の疾患を有するなど高齢者の医療ニーズを踏まえながら、今後、病床単位での機能を把握しながら不足が見込まれる機能の確保を図る。 (平成30年度地域医療構想推進シートより抜粋)</p> <p>遠紋圏域 (単位：床)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>病床計</th> <th>高度急性期</th> <th>急性期</th> <th>回復期</th> <th>慢性期</th> <th>休棟等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院</td> <td>1,000</td> <td>44</td> <td>439</td> <td>86</td> <td>348</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>57</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>19</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,057</td> <td>44</td> <td>439</td> <td>86</td> <td>367</td> <td>121</td> </tr> <tr> <td>必要病床数(2025年)</td> <td>778</td> <td>46</td> <td>186</td> <td>285</td> <td>261</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>(平成30年度病床機能報告による)</p> <p>【区域内の現況、取組の方向性等】 ・ 高度急性期、急性期、回復期の合計の病床数が、将来の必要病床数を19.8%上回るとともに、その内訳についても、現在の高度急性期病床と急性期病床の合計数が将来の必要数を大幅に上回っている。 ・ 回復期病床については、届け出た医療機関が少なく、回復期病床が不足することから急性期から回復期への転換が必要となる。 ・ 慢性期病床については、将来的に必要な病床数は33.6%の減となるが、これについては在宅医療等に対応することとなる。 (平成30年度地域医療構想推進シートより抜粋)</p> <p>(4) 課題 高度・専門医療、急性期医療の充実を図るため、引き続き北見赤十字病院との一層の連携が必要です。</p>	区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	病院	2,394	312	1,175	128	666	113	うち北見病院	70	0	70	0	0	0	診療所	262	0	107	19	76	60	合計	2,656	312	1,282	147	742	173	必要病床数(2025年)	2,450	275	790	744	641	-	区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	病院	1,000	44	439	86	348	83	診療所	57	0	0	0	19	38	合計	1,057	44	439	86	367	121	必要病床数(2025年)	778	46	186	285	261	-	<p>・ 直近の状況による修正</p> <p>・ 直近の状況による修正</p> <p>・ 直近の状況による修正</p>
区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等																																																																																																																																																						
病院	2,318	341	1,050	110	716	101																																																																																																																																																						
うち北見病院	70	0	70	0	0	0																																																																																																																																																						
診療所	243	0	88	19	76	60																																																																																																																																																						
合計	2,561	341	1,138	129	792	161																																																																																																																																																						
必要病床数(2025年)	2,450	275	790	744	641	-																																																																																																																																																						
区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等																																																																																																																																																						
病院	1,000	92	370	107	348	83																																																																																																																																																						
診療所	38	0	0	0	19	19																																																																																																																																																						
合計	1,038	92	370	107	367	102																																																																																																																																																						
必要病床数(2025年)	778	46	186	285	261	-																																																																																																																																																						
区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等																																																																																																																																																						
病院	2,394	312	1,175	128	666	113																																																																																																																																																						
うち北見病院	70	0	70	0	0	0																																																																																																																																																						
診療所	262	0	107	19	76	60																																																																																																																																																						
合計	2,656	312	1,282	147	742	173																																																																																																																																																						
必要病床数(2025年)	2,450	275	790	744	641	-																																																																																																																																																						
区分	病床計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等																																																																																																																																																						
病院	1,000	44	439	86	348	83																																																																																																																																																						
診療所	57	0	0	0	19	38																																																																																																																																																						
合計	1,057	44	439	86	367	121																																																																																																																																																						
必要病床数(2025年)	778	46	186	285	261	-																																																																																																																																																						

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>(5) 今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後もオホーツク第三次医療圏における循環器・呼吸器疾患に対する高度・専門医療を提供するため、引き続き日本赤十字社を指定管理者として、病院運営の委任を継続するとともに、効率的な運営を行うため、指定管理運営委員会において必要な協議を行います。 ○ 隣接する北見赤十字病院との医師・コメディカルスタッフの相互応援や医療機器の共同利用など、今後も一体的な医療提供体制の充実に努めます。 	<p>(5) 今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後もオホーツク第三次医療圏における循環器・呼吸器疾患に対する高度・専門医療を提供するため、引き続き日本赤十字社を指定管理者として、病院運営の委任を継続するとともに、効率的な運営を行うため、指定管理運営委員会において必要な協議を行います。 ○ 隣接する北見赤十字病院との医師・コメディカルスタッフの相互応援や医療機器の共同利用など、今後も一体的な医療提供体制の充実に努めます。 ○ <u>新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関との連携の上、入院医療に対応するなど、必要な診療体制の構築に努めます。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の下線部分は「VI 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」に移行

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考																																																																																																																								
<p>IV 医療従事者等の確保対策</p> <p>1 現状 道立病院が地域に必要な医療を継続して提供していけるよう、医療の質の維持・向上を図り、診療報酬上の施設基準や算定要件を満たして経営の改善を目指すためには、医師をはじめとする医療従事者の確保が重要です。また、令和6年4月から始まる医師の時間外労働の上限規制など働き方改革に向け、適切な労務管理と勤務環境の整備を推進していく必要があります。</p> <p>(1) 医師</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医育大学に対し、積極的に派遣要請を行うとともに、道外勤務医師に対する募集活動等を行っています。 ○ 羽幌病院及び子ども総合医療・療育センターにおいては、専門研修プログラムを策定し、専攻医の確保に努めています。 ○ 医師事務作業補助者や病棟支援専門員の配置により、医師等が業務に専念できるよう、勤務環境の改善を図っています。 <p>【各年度医師数の推移】 (各年度4月1日現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H30</th> <th>R1(H31)</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>コドモックル</td> <td>41</td> <td>39</td> <td>41</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 看護職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 看護師養成校への訪問や民間企業等主催の合同企業説明会などにおいてPR活動を行い、勤務希望者の増加に向け、取組を進めています。 ○ 新人看護師キャリアアッププランを策定し、個人がキャリアを積むことができるよう、取組を進めています。 ○ 新人看護師及び中途採用看護師に対しては、面談機会を確保しながら、離職の防止に努めています。 <p>【各年度看護職員数の推移】 (各年度4月1日現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H30</th> <th>R1(H31)</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>86</td> <td>83</td> <td>88</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>37</td> <td>37</td> <td>35</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>75</td> <td>71</td> <td>65</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>56</td> <td>54</td> <td>56</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>コドモックル</td> <td>213</td> <td>223</td> <td>231</td> <td>227</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 薬剤師などその他の職種</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 薬剤師などその他の職種の確保については、各職種関係団体を通じた募集活動のほか、ホームページ・SNSを活用した確保対策を実施しています。 	区分	H30	R1(H31)	R2	R3	江差	10	10	9	9	羽幌	7	8	9	8	緑ヶ丘	9	8	7	6	向陽ヶ丘	5	5	5	5	コドモックル	41	39	41	43	区分	H30	R1(H31)	R2	R3	江差	86	83	88	89	羽幌	37	37	35	40	緑ヶ丘	75	71	65	66	向陽ヶ丘	56	54	56	54	コドモックル	213	223	231	227	<p>IV 医療従事者等の確保対策</p> <p>1 現状 道立病院が地域に必要な医療を継続して提供していけるよう、医療の質の維持・向上を図り、診療報酬上の施設基準や算定要件を満たして経営の改善を目指すためには、医師をはじめとする医療従事者の確保が重要です。</p> <p>(1) 医師</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医育大学に対し、積極的に派遣要請を行うとともに、道外勤務医師に対する募集活動等を行っています。 ○ 羽幌病院及び子ども総合医療・療育センターにおいては、専門研修プログラムを策定し、専攻医の確保に努めています。 ○ 医師事務作業補助者や病棟支援専門員の配置により、医師等が業務に専念できるよう、勤務環境の改善を図っています。 <p>【各年度医師数の推移】 (各年度4月末日現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1(H31)</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>コドモックル</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>39</td> <td>41</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 看護職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 看護師養成校への訪問や民間企業等主催の合同企業説明会などにおいてPR活動を行い、勤務希望者の増加に向け、取組を進めています。 ○ 新人看護職員キャリアアッププランを策定し、個人がキャリアを積むことができるよう、取組を進めています。 ○ 新人看護職員に対しては、面談機会を確保しながら、離職の防止に努めています。 <p>【各年度看護職員数の推移】 (各年度4月1日現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1(H31)</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>88</td> <td>86</td> <td>83</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>38</td> <td>37</td> <td>37</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>75</td> <td>75</td> <td>71</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>55</td> <td>56</td> <td>54</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>コドモックル</td> <td>212</td> <td>213</td> <td>223</td> <td>231</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 薬剤師などその他の職種</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 薬剤師などその他の職種の確保については、各職種関係団体を通じた募集活動のほか、ホームページ・SNSを活用した確保対策を実施しています。 	区分	H29	H30	R1(H31)	R2	江差	11	10	10	9	羽幌	6	7	8	9	緑ヶ丘	9	9	8	7	向陽ヶ丘	5	5	5	5	コドモックル	38	41	39	41	区分	H29	H30	R1(H31)	R2	江差	88	86	83	88	羽幌	38	37	37	35	緑ヶ丘	75	75	71	65	向陽ヶ丘	55	56	54	56	コドモックル	212	213	223	231	<p>・国のガイドラインに基づく追加</p> <p>・年度更新による修正</p> <p>・キャリアアッププランの改正による修正</p> <p>・キャリアアッププランの改正による修正</p> <p>・年度更新による修正</p>
区分	H30	R1(H31)	R2	R3																																																																																																																						
江差	10	10	9	9																																																																																																																						
羽幌	7	8	9	8																																																																																																																						
緑ヶ丘	9	8	7	6																																																																																																																						
向陽ヶ丘	5	5	5	5																																																																																																																						
コドモックル	41	39	41	43																																																																																																																						
区分	H30	R1(H31)	R2	R3																																																																																																																						
江差	86	83	88	89																																																																																																																						
羽幌	37	37	35	40																																																																																																																						
緑ヶ丘	75	71	65	66																																																																																																																						
向陽ヶ丘	56	54	56	54																																																																																																																						
コドモックル	213	223	231	227																																																																																																																						
区分	H29	H30	R1(H31)	R2																																																																																																																						
江差	11	10	10	9																																																																																																																						
羽幌	6	7	8	9																																																																																																																						
緑ヶ丘	9	9	8	7																																																																																																																						
向陽ヶ丘	5	5	5	5																																																																																																																						
コドモックル	38	41	39	41																																																																																																																						
区分	H29	H30	R1(H31)	R2																																																																																																																						
江差	88	86	83	88																																																																																																																						
羽幌	38	37	37	35																																																																																																																						
緑ヶ丘	75	75	71	65																																																																																																																						
向陽ヶ丘	55	56	54	56																																																																																																																						
コドモックル	212	213	223	231																																																																																																																						

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備 考																																																												
<p>○ 令和2年度(2020年度)からは、新たな職種として社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師を配置しています。</p> <p>【各年度薬剤師数の推移】 (各年度4月1日現在)</p> <table border="1" data-bbox="225 405 1006 644"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>H30</th> <th>R1(H31)</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コドモックル</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 課題</p> <p>【医師確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各道立病院の医療機能を維持するためには、医師の安定的な確保が極めて重要であり、様々な機会を捉え、積極的に医師の確保に向けた取組を進めることが必要です。 ○ 専門研修の体制整備を行うとともに、専攻医確保に向けた初期臨床研修医へのPRや専門研修終了後の医師が、引き続き道立病院で勤務し、キャリアアップできる体制の整備を進めることが必要です。 <p>【看護職員確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道内における看護職員の需給見通しについて、道央圏以外の医療分野では令和7年(2025年)の需要数が就業者数を下回るものの、高齢化の進行に伴い、訪問看護や社会福祉施設の需要が高まることが見込まれていることから、看護職員の確保・定着が困難な地域では、病院に勤務する看護職員の確保がますます困難になることが予想されることから、様々な手法を用いた募集活動が必要です。 <p>【薬剤師、その他の職種の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 薬剤師などの職種についても、都市部へ人材が集中する傾向にあることから、計画的に人材を確保していく必要があります。 <p>【採用機会の拡大・弾力化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 受験者のニーズに応じて、引き続き採用機会の拡大を図るなど、人材の確保に努める必要があります。 <p>【業務内容や病院の立地条件に応じた評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域事情や職種ごとの業務内容に応じた手当などについて、引き続き、<u>診療報酬の改定や他の医療機関の実態等を踏まえた検討</u>が必要です。 <p>【負担軽減と離職防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療従事者の負担軽減や業務の効率化に向けた取組が必要です。 	区 分	H30	R1(H31)	R2	R3	江差	3	3	3	3	羽幌	2	2	2	2	緑ヶ丘	2	2	2	2	向陽ヶ丘	2	2	1	1	コドモックル	5	7	7	7	<p>○ 令和2年度(2020年度)からは、新たな職種として社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師を配置しています。</p> <p>【各年度薬剤師数の推移】 (各年度4月1日現在)</p> <table border="1" data-bbox="1317 405 2098 644"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1(H31)</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コドモックル</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 課題</p> <p>【医師確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各道立病院の医療機能を維持するためには、医師の安定的な確保が極めて重要であり、様々な機会を捉え、積極的に医師の確保に向けた取組を進めることが必要です。 ○ 専門研修の体制整備を行うとともに、専攻医確保に向けた初期臨床研修医へのPRや専門研修終了後の医師が、引き続き道立病院で勤務し、キャリアアップできる体制の整備を進めることが必要です。 <p>【看護職員確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道内における看護職員の需給見通しについて、道央圏以外の医療分野では令和7年(2025年)の需要数が就業者数を下回るものの、高齢化の進行に伴い、訪問看護や社会福祉施設の需要が高まることが見込まれていることから、看護職員の確保・定着が困難な地域では、病院に勤務する看護職員の確保がますます困難になることが予想されます。 <p>【薬剤師、その他の職種の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 薬剤師などの職種についても、都市部へ人材が集中する傾向にあることから、計画的に人材を確保していく必要があります。 <p>【採用機会の拡大・弾力化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 受験者のニーズに応じて、引き続き採用機会の拡大を図るなど、人材の確保に努める必要があります。 <p>【業務内容や病院の立地条件に応じた評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域事情や職種ごとの業務内容に応じた手当などについて、引き続き他の医療機関の実態等を踏まえた検討が必要です。 <p>【負担軽減と離職防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>令和6年(2024年)4月に施行される医師の時間外労働の上限規制をはじめとした働き方改革に適切に対応するとともに、医療従事者の負担軽減や業務の効率化に向けた取組</u>が必要です。 	区 分	H29	H30	R1(H31)	R2	江差	2	3	3	3	羽幌	1	2	2	2	緑ヶ丘	2	2	2	2	向陽ヶ丘	2	2	2	1	コドモックル	4	5	7	7	<p>・年度更新による修正</p> <p>・新型コロナウイルス感染症を含めた確保対策を踏まえ追加</p> <p>・診療報酬制度の変化に対応する追加</p> <p>・現行内容の下線部分は、追加項目に移行 ★ 1</p>
区 分	H30	R1(H31)	R2	R3																																																										
江差	3	3	3	3																																																										
羽幌	2	2	2	2																																																										
緑ヶ丘	2	2	2	2																																																										
向陽ヶ丘	2	2	1	1																																																										
コドモックル	5	7	7	7																																																										
区 分	H29	H30	R1(H31)	R2																																																										
江差	2	3	3	3																																																										
羽幌	1	2	2	2																																																										
緑ヶ丘	2	2	2	2																																																										
向陽ヶ丘	2	2	2	1																																																										
コドモックル	4	5	7	7																																																										

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>○ 新人看護師や中途採用看護師との面談等を通じて、日頃の業務やキャリア形成に関する不安や悩みの解消を図り、早期離職を防止する取組をより一層進めることが必要です。</p> <p>【魅力ある職場づくり】</p> <p>○ 医療従事者のスキル取得やキャリア形成に向けた専門知識の取得に対する支援を継続するとともに、支援体制を周知し、人材確保に繋げていくことが必要です。</p> <p>○ 安定的に医師を確保するため、医学生や初期臨床研修医、専攻医の研修受入機関となるなど、医育大学等と連携した指導体制の充実を図る必要があります。</p> <p>○ 職員の仕事や職場への意欲、満足度、問題意識を把握し、働きやすい環境を整備する必要があります。</p> <p>【医師の働き方改革】</p> <p>○ 令和6年(2024年)4月に施行される医師の時間外労働の上限規制をはじめとした働き方改革に適切に対応することが必要です。</p> <p>【医療環境の変化に柔軟に対応できる機動的かつ効率的な組織編成・人員配置】</p> <p>○ 診療報酬制度に適切に対応し、新たな施設基準・加算の取得や行った診療行為をもれなく適正に請求できるよう、医事担当職員の知識・技術の向上が必要です。</p> <p>○ 診療情報管理士など専門知識を有する人材等の配置について、必要に応じた検討が必要です。</p> <p>○ 事務職員については、全てを知事部局からの出向に頼っている状況にあることから、病院経営に精通した人材の育成が必要です。</p> <p>3 今後の取組</p> <p>【大学や養成機関などへの要請強化等】</p> <p>○ 医師確保に向け、医育大学が医師派遣を継続しやすい環境や医師が働きやすい環境の整備に取り組みつつ、今後とも各道立病院の医療機能の維持に必要な医師派遣について道内3医育大学に対し、積極的に要請するほか、道外勤務医師に対する募集活動や支援活動を強化します。</p> <p>○ 専攻医確保に向けて、専門研修プログラムの充実や指導医の確保に積極的に取り組むとともに、自治医科大学卒業医師や地域枠医師の配置が促進される体制の整備を進めます。</p> <p>○ 道内外の養成校へのPR活動やインターンシップの実施、SNS等を効果的に活用した募集活動など、看護師確保に向けた取り組みを積極的に進めます。</p> <p>○ 新人看護師が主体的にキャリア形成を進めていくプロセスをサポートし、看護の基本を学び、柔軟に幅広く看護を提供できる人材を育成するための「新人看護師キャリアアッププラン」に取り組み、募集活動を進めます。</p>	<p>○ 新人看護職員との面談やアンケートなどを通じて、日頃の業務やキャリア形成に関する不安や悩みの解消を図り、早期離職を防止する取組をより一層進めることが必要です。</p> <p>【魅力ある職場づくり】</p> <p>○ 医療従事者のスキル取得やキャリア形成に向けた専門知識の取得に対する支援の継続が必要です。</p> <p>○ 安定的に医師を確保するため、医学生や初期臨床研修医、専攻医の研修受入機関となるなど、医育大学等と連携した指導体制の充実を図る必要があります。</p> <p>○ 職員の仕事や職場への意欲、満足度、問題意識を把握し、働きやすい環境を整備する必要があります。</p> <p>(プランP30 IV 医療従事者等の確保対策【負担軽減と離職防止】)</p> <p>○ 令和6年(2024年)4月に施行される医師の時間外労働の上限規制をはじめとした働き方改革に適切に対応するとともに、</p> <p>【医療環境の変化に柔軟に対応できる機動的かつ効率的な組織編成・人員配置】</p> <p>○ 診療報酬制度に適切に対応し、新たな施設基準・加算の取得や行った診療行為をもれなく適正に請求できるよう、医事担当職員の知識・技術の向上が必要です。</p> <p>○ 診療情報管理士など専門知識を有する人材等の配置について、必要に応じた検討が必要です。</p> <p>○ 事務職員については、全てを知事部局からの出向に頼っている状況にあることから、病院経営に精通した人材の育成が必要です。</p> <p>3 今後の取組</p> <p>【大学や養成機関などへの要請強化等】</p> <p>○ 医師確保に向け、医育大学が医師派遣を継続しやすい環境や医師が働きやすい環境の整備に取り組みつつ、今後とも各道立病院の医療機能の維持に必要な医師派遣について道内3医育大学に対し、積極的に要請するほか、道外勤務医師に対する募集活動や支援活動を強化します。</p> <p>○ 専攻医確保に向けて、専門研修プログラムの充実や指導医の確保に積極的に取り組むとともに、自治医科大学卒業医師や地域枠医師の配置が促進される体制の整備を進めます。</p> <p>○ 道内外の養成校へのPR活動やインターンシップの実施、SNS等を活用した募集活動など、看護師確保に向けた取り組みを積極的に進めます。</p> <p>○ 新卒看護師が道立病院の広域医療（江差・羽幌）、精神医療（緑ヶ丘・向陽ヶ丘）、高度専門医療（コドモックル）の3分野のうち、2分野の看護を経験させる「新人看護職員キャリアアッププラン」に今後とも取り組みます。</p>	<p>・キャリアアッププランの改正による修正</p> <p>・キャリアアッププランの改正による追加</p> <p>・国のガイドラインに基づき項目を追加 ★1</p> <p>・募集希望者の要望に的確に対応する文言を追加</p> <p>・キャリアアッププランの改正による修正</p>

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備 考
<p>○ 薬剤師などその他の職種についても、職員の年齢構成や病院の機能等を考慮しながら、計画的に人材確保対策を講じます。</p> <p>【採用機会の拡大・弾力化】</p> <p>○ 看護師や薬剤師などについては、受験者のニーズに応じて、試験地の拡充や臨時試験を実施するなど、採用機会の拡大を図ります。</p> <p>【業務内容や病院の立地条件に応じた評価】</p> <p>○ 地域事情や職種ごとの業務内容に応じた手当等の導入について、<u>診療報酬の改定</u>や他の医療機関の実態等を踏まえ検討を進めます。</p> <p>【負担軽減と離職防止】</p> <p>○ 医師事務作業補助者や病棟支援専門員など業務支援を行う職員の配置等の<u>検討を進め、医療従事者の負担軽減や業務の効率化に取り組みます。</u></p> <p>○ <u>新人看護師や中途採用看護師に対する面談機会の確保</u>などにより、フォローアップ体制の充実や早期離職防止に努めます。</p> <p>【魅力ある職場づくり】</p> <p>○ 魅力ある病院づくりに向けて、医療従事者が道立病院に勤務しながらキャリアアップを図ることができるよう、学会への参加や民間病院への派遣研修の実施等、資格の取得をはじめ、専門知識の習得に向けた支援の充実を図るほか、引き続きキャリアアッププランを進めます。</p> <p>○ とりわけ、医師については、医学生や初期臨床研修医、専攻医の研修受入機関となるなど、医育大学等と連携して指導体制の充実に努めます。</p> <p>○ 職員採用の募集活動に当たっては、研修費用の支援や他の職場からの応援体制によるキャリア形成に向けた支援の内容について積極的な周知に努めます。</p> <p>○ 道立病院局育児休業代替任期付職員制度や交代制勤務の選択制を活用するほか、職員満足度調査等を活用し、勤務環境の改善に努めます。 (※交代制勤務の選択制：2交代または3交代の選択が可能。)</p> <p>【医師の働き方改革】</p> <p>○ <u>働き方改革に対応するため、労務管理により、長時間となっている時間外労働の縮減など勤務環境の改善が図られるよう取組を進めます。</u></p> <p>○ <u>院内外の研修受講による医療従事者の資質向上を図るとともに、院内における他職種の役割分担、医師事務作業補助者の配置など業務の効率化によるタスクシフト/シェアに努めます。</u></p>	<p>○ 薬剤師などその他の職種についても、職員の年齢構成や病院の機能等を考慮しながら、計画的に人材確保対策を講じます。</p> <p>【採用機会の拡大・弾力化】</p> <p>○ 看護師や薬剤師などについては、受験者のニーズに応じて、試験地の拡充や臨時試験を実施するなど、採用機会の拡大を図ります。</p> <p>【業務内容や病院の立地条件に応じた評価】</p> <p>○ 地域事情や職種ごとの業務内容に応じた手当等の導入について、他の医療機関の実態等を踏まえ検討を進めます。</p> <p>【負担軽減と離職防止】</p> <p>○ 医師等医療従事者の負担軽減や業務の効率化に向けて、医師事務作業補助者など業務支援を行う職員の配置等を<u>検討するなど、タスクシフト/シェアの取組を推進します。</u></p> <p>○ <u>新規採用看護師に対する面談機会の確保やアンケートの実施</u>などにより、フォローアップ体制の充実や早期離職防止に努めます。</p> <p>【魅力ある職場づくり】</p> <p>○ 魅力ある病院づくりに向けて、医療従事者が道立病院に勤務しながらキャリアアップを図ることができるよう、学会への参加や民間病院への派遣研修の実施等、資格の取得をはじめ、専門知識の習得に向けた支援の充実を図るほか、引き続きキャリアアッププランの<u>実施を進めます。</u></p> <p>○ とりわけ、医師については、医学生や初期臨床研修医、専攻医の研修受入機関となるなど、医育大学等と連携して指導体制の充実に努めます。</p> <p>○ 職員採用の募集活動に当たっては、研修費用の支援や他の職場からの応援体制によるキャリア形成に向けた支援の内容について積極的な周知に努めます。</p> <p>○ 道立病院局育児休業代替任期付職員制度や交代制勤務の選択制を活用するほか、職員満足度調査等を活用し、<u>タスクシフト/シェアを推進するなど、国の働き方改革の動向も見据えながら、勤務環境の改善に努めます。</u> (※交代制勤務の選択制：2交代または3交代の選択が可能。)</p> <p>(プランP32 IV 医療従事者等の確保対策【負担軽減と離職防止】)</p> <p>○ <u>医師等医療従事者の負担軽減や業務の効率化に向けて、医師事務作業補助者など業務支援を行う職員の配置等を検討するなど、タスクシフト/シェアの取組を推進</u></p> <p>(プランP32 IV 医療従事者等の確保対策【魅力ある職場づくり】)</p> <p>○ <u>タスクシフト/シェアを推進するなど、国の働き方改革の動向も見据えながら、</u></p>	<p>・診療報酬制度の変化に対応する追加</p> <p>・現行内容の下線部分は、追加項目に移行 ★2</p> <p>・キャリアアッププランの改正による修正</p> <p>・事業実施による文言削除</p> <p>・現行内容の下線部分は、追加項目に移行 ★2</p> <p>・国のガイドラインに基づき項目を追加</p> <p>・記載内容を追加項目に移行し、文言を一部修正 ★2</p>

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
--------------	-------	----

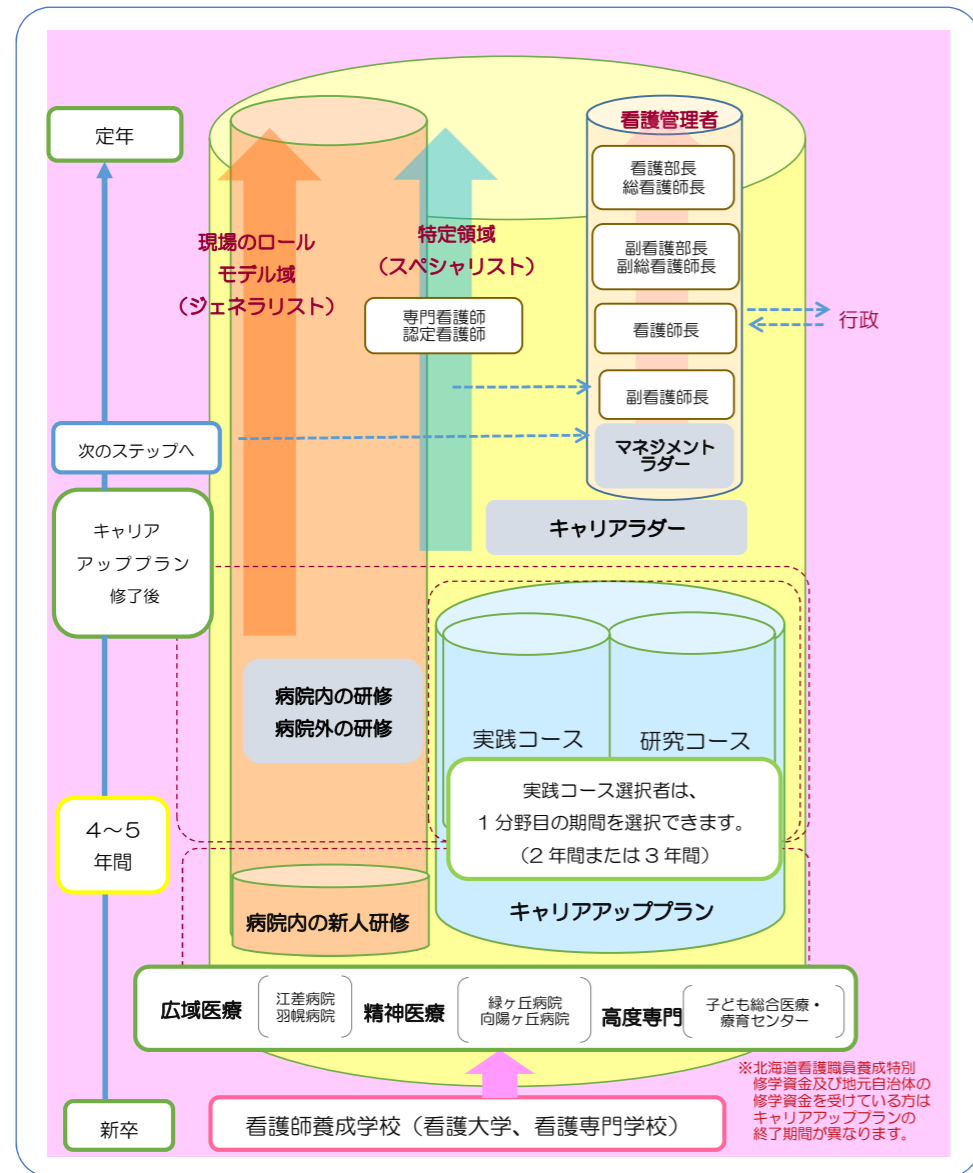
【医療環境の変化に柔軟に対応できる機動的かつ効率的な組織編成・人員配置】

- 医事担当職員等研修会の開催など、医事担当職員の質の向上を図るほか、診療情報管理士など、専門知識を有する人材等の配置について、引き続き検討を進めます。
- 患者サービスの向上に向けて、精神保健福祉士、社会福祉士などを配置している地域連携室を中心に、各関係機関との連携強化や入退院支援機能を十分に発揮できるよう取組を進めます。
- 自治体病院等との派遣・交流などを通じた病院経営に精通する職員の育成について検討を進めます。

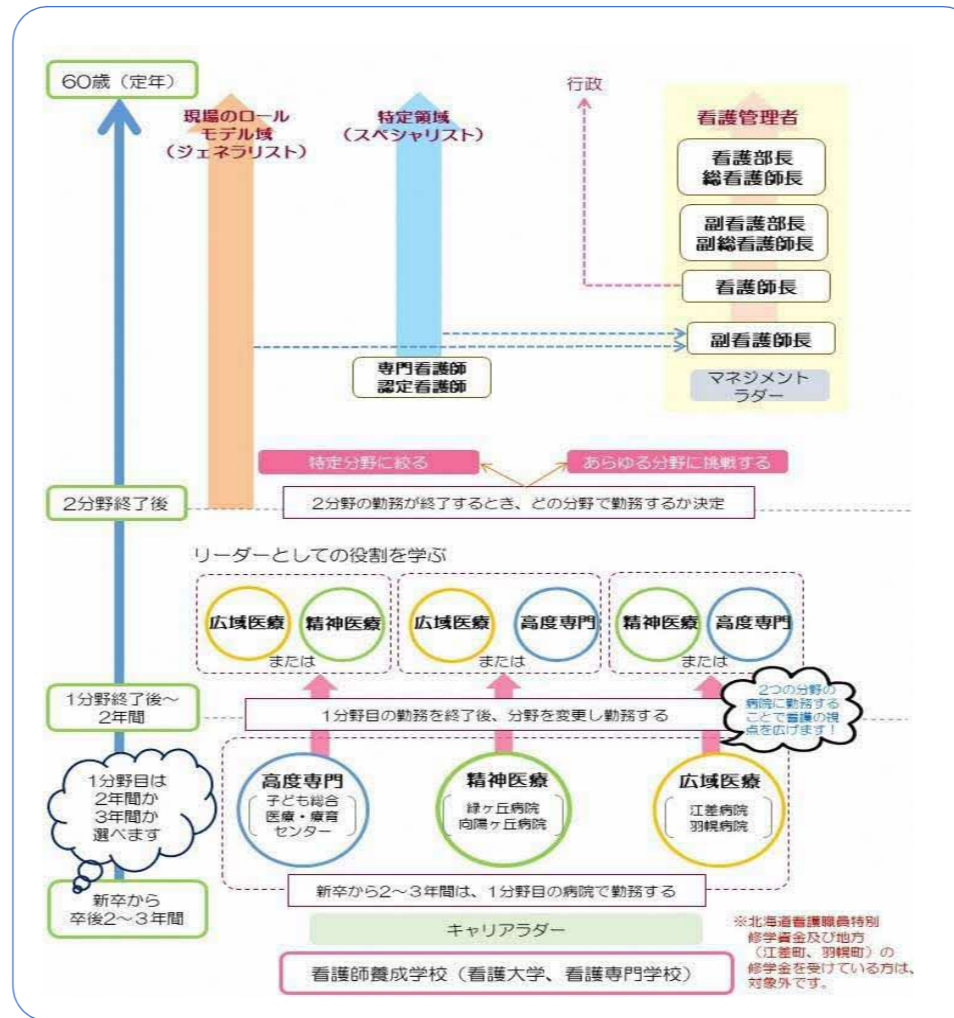
【医療環境の変化に柔軟に対応できる機動的かつ効率的な組織編成・人員配置】

- 医事担当職員等研修会の開催など、医事担当職員の質の向上を図るほか、診療情報管理士など、専門知識を有する人材等の配置について、引き続き検討を進めます。
- 患者サービスの向上に向けて、精神保健福祉士、社会福祉士などを配置している地域連携室を中心に、各関係機関との連携強化や入退院支援機能を十分に発揮できるよう取組を進めます。
- 自治体病院等との派遣・交流などを通じた病院経営に精通する職員の育成について検討を進めます。

道立病院新人看護師キャリアアッププラン及び看護職員教育プログラム



道立病院新人看護職員キャリアアッププランの概要



・キャリアアッププランの改正による修正

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>V 機能分化・連携強化</p> <p>1 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 南檜山圏域や留萌圏域では、圏域の医療機能を概ね公立病院で担っており、高度急性期患者への対応を南渡島や上川、札幌など他圏域に依存している状況にあります。 ○ 北見病院は、平成 30 年(2018 年)4 月から指定管理者制度を導入し、運営を委任するとともに、2 病院によるハートチーム委員会の設置、ハイブリッド手術室や精密呼吸機能検査機器の共同利用など、北見赤十字病院との連携の強化、一体的運営を推進しています。 <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療構想の実現と地域包括ケアシステムの構築に向けて、限られた医療資源を効果的かつ効率的に活用していく必要があります。 ○ 江差病院の精神医療については、二次医療圏で唯一の入院医療を提供している中、病床利用率が低下している状況にあります。 ○ 精神科病院においては、国が進める「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けた取組を進める必要があります。 <p>3 今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 江差病院においては、地域医療構想の実現と地域包括ケアシステムの構築に向けて、<u>地域医療連携推進法人南檜山メディカルネットワークにおける取組を通じて、医療機関や介護サービス事業者などとの機能分化及び連携強化を推進します。</u> ○ 江差病院の精神医療については、二次医療圏で唯一の入院医療を提供している中、病床利用率が低下していることから、地域の医療ニーズを把握しながら、今後の方向性を検討します。 ○ 羽幌病院においては、地域センター病院として、同一圏域の地域センター病院である留萌市立病院との役割分担及び連携を図りながら、総合診療を中心とした体制により、留萌中北部地域のかかりつけ医、救急医療機関としての役割を担っていきます。 ○ <u>羽幌病院において、地域包括ケアシステムの構築に向けて、関係機関と連携しながら、退院後の患者・家族に対する支援のより一層の充実を図ります。</u> ○ 江差病院及び羽幌病院においては、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 許可病床数と運用病床数の適正化に努めるとともに、今後とも空き病床の有効活用を進めます。 ・ ICT を活用した診療情報の共有や離島への診療支援を行うとともに、地域医療 	<p>V 再編・ネットワーク化</p> <p>1 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 南檜山圏域や留萌圏域では、圏域の医療機能を概ね公立病院で担っており、高度急性期患者への対応を南渡島や上川、札幌など他圏域に依存している状況にあります。 ○ 北見病院は、平成 30 年(2018 年)4 月から指定管理者制度を導入し、運営を委任するとともに、2 病院によるハートチーム委員会の設置、ハイブリッド手術室や精密呼吸機能検査機器の共同利用など、北見赤十字病院との連携の強化、一体的運営を推進しています。 <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療構想の実現と地域包括ケアシステムの構築に向けて、限られた医療資源を効果的かつ効率的に活用していく必要があります。 ○ 江差病院の精神医療については、二次医療圏で唯一の入院医療を提供している中、病床利用率が低下している状況にあります。 ○ 精神科病院においては、国が進める「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けた取組を進める必要があります。 <p>3 今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 江差病院においては、地域医療構想の実現と地域包括ケアシステムの構築に向けて、「<u>地域医療連携推進法人</u>」制度を活用し、<u>医療機関や介護サービス事業者などの機能分担及び業務の連携を進めます。</u> ○ 江差病院の精神医療については、二次医療圏で唯一の入院医療を提供している中、病床利用率が低下していることから、地域の医療ニーズを把握しながら、今後の方向性を検討します。 ○ 羽幌病院においては、地域センター病院として、同一圏域の地域センター病院である留萌市立病院との役割分担及び連携を図りながら、総合診療を中心とした体制により、留萌中北部地域のかかりつけ医、救急医療機関としての役割を担っていきます。 ○ 江差病院及び羽幌病院においては、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 許可病床数と稼働病床数の適正化に努めるとともに、今後とも空き病床の有効活用を進めます。 ・ ICT を活用した診療情報の共有や離島への診療支援を行うとともに、地域医療 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国のガイドラインに基づき章名を修正 ・ 現状の対応状況を踏まえた時点修正 ・ 章名修正により、記載を必要とする内容を追記 ・ 文言修正

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備 考
<p>構想調整会議の活用を図るなどして、地域の関係機関や他圏域の急性期病院との連携を一層進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に必要な医療を提供できるよう、医師等医療従事者の確保に努めるとともに、専門医等が不在の診療科などについては、医育大学や専門医のいる医療機関との遠隔医療システムの導入を促進します。 <p>○ 緑ヶ丘病院及び向陽ヶ丘病院においては、<u>許可病床数と運用病床数の適正化に努めるとともに、「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」</u>の構築に向けて、<u>地域連携室</u>を中心に関係機関と連携しながら、退院後の患者・家族に対する支援のより一層の充実を図ります。</p> <p>○ 子ども総合医療・療育センターについては、高度・専門医療機能を十分に発揮しながら、道内の医療機関からの患者の受入など、医療連携に貢献します。</p> <p>○ 北見病院においては、今後とも隣接する北見赤十字病院との一体的な運営により、オホーツク第三次医療圏における循環器・呼吸器疾患に対する高度・専門医療提供体制のより一層の充実を図ります。</p>	<p>構想調整会議の活用を図るなどして、地域の関係機関や他圏域の急性期病院との連携を一層進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に必要な医療を提供できるよう、医師等医療従事者の確保に努めるとともに、専門医等が不在の診療科などについては、医育大学や専門医のいる医療機関との遠隔医療システムの導入を促進します。 <p>○ 緑ヶ丘病院及び向陽ヶ丘病院においては、「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて、地域連携室を中心に関係機関と連携しながら、退院後の患者・家族に対する支援のより一層の充実を図ります。</p> <p>○ 子ども総合医療・療育センターについては、高度・専門医療機能を十分に発揮しながら、道内の医療機関からの患者の受入など、医療連携に貢献します。</p> <p>○ 北見病院においては、今後とも隣接する北見赤十字病院との一体的な運営により、オホーツク第三次医療圏における循環器・呼吸器疾患に対する高度・専門医療提供体制のより一層の充実を図ります。</p>	<p>・ 現状の対応を踏まえた追記</p>

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

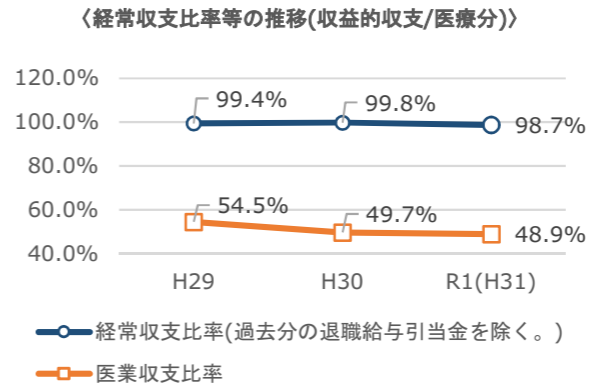
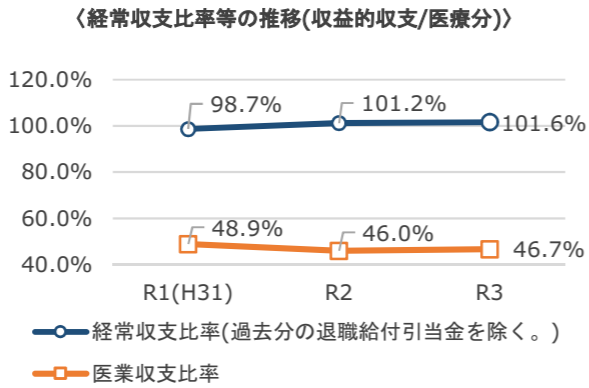
プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>VI 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組</p> <p>道立病院では、新型コロナウイルス感染症への対応として、陽性患者の受入れをはじめ、市町村が実施するワクチン接種会場への医療従事者の派遣などを行っています。</p> <p>今般の新型コロナウイルス感染症対応を踏まえ、平時から新興感染症の感染拡大時等に備えた取組を推進していきます。</p> <p>1 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>新型コロナウイルス感染症への対応にあたっては、</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>保健所との連携の下、新興感染症発生状況に応じた入院医療を確保しています。</u> ・ <u>自治体におけるワクチン接種について、医師等を派遣しています。</u> ・ <u>地域の医療機関や宿泊療養施設、集団感染が発生した施設へ感染管理認定看護師を派遣しています。</u> ・ <u>発熱者等への電話による診療やオンラインによる患者家族の面会など、院内感染防止対策に向けた取組を進めています。</u> ○ <u>「院内感染対策マニュアル」を整備し感染防止に努めているほか、院内に感染対策チームを設置し、定期的な院内巡回により点検と改善を行っています。</u> ○ <u>専門人材の確保・育成にあたり、感染管理認定看護師研修の受講や院内感染対策等の研修会を定期的に開催しています。</u> ○ <u>役割や機能に応じて、検査機器や簡易陰圧装置などを整備するとともに、感染防護具等の感染対策に必要な消耗品の整備を行っています。</u> ○ <u>江差病院では、南檜山圏域における唯一の第二種感染症指定医療機関として医療の提供に努めています。</u> <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>感染拡大防止対策を実施しながら、他の医療機関や関係機関と連携し、地域に必要な医療の提供を継続していく必要があります。</u> ○ <u>感染管理に精通する職員の配置や感染防止に向けた研修の開催など、院内全体で感染症に対応する体制を充実することが必要です。</u> ○ <u>感染症患者に対する医療の提供や、疑い患者に対する検査を実施する体制を確保する必要があります。</u> <p>3 今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>新興感染症への対応にあたっては、これまでの新型コロナウイルス感染症への対応状況やその時々国の動向を踏まえつつ、関係機関等と連携し、各病院の役割や機能に応じて、地域に必要な診療体制の確保に努めます。</u> 	<p>(プランP37 VI 経営の効率化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>感染管理に精通する職員の配置や感染防止に向けた研修の開催など、院内体制を強化することが必要です。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国のガイドラインに基づき章名を追加 ・ 他の章と同様に、現状、課題、今後の取組による項目を設定 ・ 記載内容を移行し、文言を一部修正 ★ 3

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>江差病院</u> 第二種感染症指定医療機関として、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関と連携し、感染症病床での患者の受入れなど、地域の感染症対策の中心的な役割を担います。 ・ <u>羽幌病院</u> 感染拡大時には、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関と連携し、入院医療に対応するなど、必要な診療体制の構築に努めます。 ・ <u>緑ヶ丘病院・向陽ヶ丘病院</u> 院内において感染症患者が発生した際には、保健所と連携し、院内感染対策を講じた上で入院医療体制の確保を図るとともに、重症患者の発生など院内での対応が困難な場合にあっては、保健所等の調整により転院させるなど道が定める取扱いに基づいて対応します。 ・ <u>子ども総合医療・療育センター</u> 感染拡大時には、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関と連携し、入院医療に対応するなど、必要な診療体制の構築に努めます。 ・ <u>北見病院</u> 感染拡大時には、保健所をはじめ、北見赤十字病院など他の医療機関や関係機関と連携し、入院医療に対応するなど、必要な診療体制の構築に努めます。 ○ <u>感染管理認定看護師など感染管理に精通する職員の配置や感染防止に向けた院内外の研修の実施、平時からの健康管理や標準予防策などの感染予防策の徹底、感染対策に必要な施設・設備の点検・整備、院内感染発生時の対応方針の共有など、日頃から必要な体制整備に努めながら安全・安心な医療の確保を図ります。</u> ○ <u>日頃から、各病院においてマスクやフェイスガード等の必要な感染防護具を備蓄するとともに、感染拡大時の流通状況によっては本庁において卸業者から一括して購入し各病院に配付するなど、必要量の確保に努めます。</u> 	<p>(プランP9 Ⅲ 1 江差病院(5)今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関との連携の上、感染症病床での患者の受入れなど、第二種感染症指医療機関として、地域の感染症対策の中心的な役割を担います。</u> <p>(プランP13 Ⅲ 2 羽幌病院(5)今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関との連携の上、入院医療に対応するなど、必要な診療体制の構築に努めます。</u> <p>(プランP16、P19 Ⅲ 3 緑ヶ丘病院 及び 4 向陽ヶ丘病院(5)今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、患者が発生した際には、保健所との連携の下、発生状況に応じた入院医療の確保を図ります。</u> <p>(プランP24 Ⅲ 5 子ども総合医療・療育センター(5)今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関との連携の上、疑似症患者の検体の採取など、必要な診療体制の構築に努めます。</u> <p>(プランP28 Ⅲ 6 北見病院(5)今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関との連携の上、入院医療に対応するなど、必要な診療体制の構築に努めます。</u> <p>(プランP40 VI 経営の効率化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>感染管理認定看護師など感染管理に精通する職員の配置や感染防止に向けた研修の実施、感染予防策の徹底など、院内の体制強化に努めながら危機管理に取り組みます。</u> <p>(プランP40 VI 経営の効率化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>各病院においてマスクやフェイスガード等の感染防護具の備蓄を進めるとともに、本庁においても卸業者から一括購入し各病院へ配付するなど、必要な感染防護具の確保に努めます。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各病院の記載内容を移行・集約するとともに、文言を一部修正 ・ 第2回検討部会による意見を踏まえ追加 ・ 記載内容を移行し、文言を一部修正 ★4 ・ 記載内容を移行し、文言を一部修正 ★5

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>Ⅶ 経営の効率化</p> <p>今後とも、道立病院が地域で良質な医療を継続的に提供し続けるためにも、経営の効率化を図り、持続可能な病院経営を実現していかねばなりません。</p> <p>経営の効率化に向けて、他の自治体病院の状況も参考にしながら、収益や費用等病院の経営に関連する経営指標と、各病院の役割・機能に関する機能指標について、必要な数値目標を設定し、本プランの計画期間中の達成を目指します。</p> <p>1 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 経常収支比率は、<u>新型コロナウイルス感染症関連補助金の影響があり、令和3年度(2021年度)で101.6%となっています。</u>また、<u>医業収支比率については、患者数の減などに伴う収益の減少などにより、低下傾向にあります。</u> ○ 診療報酬の外部点検や院内に設置した診療報酬適正化委員会等による施設基準・加算取得の見直しなどにより、患者1人当たり収益は、年々増加している傾向にあります。 ○ 病院事業独自の勤務条件の設定や採用機会の拡大などにより、医師、看護師等医療従事者の確保に取り組んでいます。 ○ 精神保健福祉士等の職種の新たな設置や多様な職種の柔軟な採用・配置により診療報酬の加算取得が可能となるなど、収益確保や経営改善に向けた取組を進めています。 ○ <u>電子カルテや医療情報システムを活用し、他の医療機関とのネットワーク化など情報の共有化に取り組むほか、<u>医育大学とのオンライン診療を進めています。</u></u> ○ <u>マイナンバーカードによるオンライン資格確認システムを導入し、運用を開始するとともに、<u>医療情報システムのバックアップやウイルス対策ソフトの導入など、セキュリティ対策に取り組んでいます。</u></u> <p>2 課題</p> <p>【患者数の確保、新規患者の掘り起こし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域連携室を中心に地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の支援を行う必要があります。 ○ 健康診断や人間ドックの受託の働きかけに継続して取り組む必要があります。 	<p>Ⅵ 経営の効率化</p> <p>今後とも、道立病院が地域で良質な医療を継続的に提供し続けるためにも、経営の効率化を図り、持続可能な病院経営を実現していかねばなりません。</p> <p>経営の効率化に向けて、他の自治体病院の状況も参考にしながら、収益や費用等病院の経営に関連する経営指標と、各病院の役割・機能に関する機能指標について、必要な数値目標を設定し、本プランの計画期間中の達成を目指します。</p> <p>1 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 経常収支比率は、<u>人口減少による患者数の減などにより、収益が減少しており、令和元年度(2019年度)で98.7%となっています。</u>また、<u>一般会計負担金についても、平成29年度(2017年度)から年々増加し、令和元年度(2019年度)には6,444百万円となっています。</u> ○ <u>医業収支比率についても、患者数の減などに伴う収益の減少などにより、<u>年々悪化している傾向</u>にあります。</u> ○ 診療報酬の外部点検や院内に設置した診療報酬適正化委員会等による施設基準・加算取得の見直しなどにより、患者1人当たり収益は、<u>各病院において、年々増加している傾向</u>にあります。 ○ 病院事業独自の勤務条件の設定や採用機会の拡大などにより、医師、看護師等医療従事者の確保に取り組んでいます。 ○ 精神保健福祉士等の職種の新たな設置や多様な職種の柔軟な採用・配置により診療報酬の加算取得が可能となるなど、収益確保や経営改善に向けた取組を進めています。 <p>2 課題</p> <p>【患者数の確保、新規患者の掘り起こし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域連携室を中心に地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の支援を行う必要があります。 ○ 健康診断や人間ドックの受託の働きかけに継続して取り組む必要があります。 	<p>・章の追加による繰り下げ</p> <p>※グラフ中の令和3年度数値は、決算見込</p> <p>・直近の状況による修正</p> <p>・直近の状況による修正</p> <p>・第2回検討部会による意見を踏まえ追加</p> <p>・国のガイドラインに基づき項目を追加</p>



「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>○ 各病院で受けられる医療サービスや活動内容等について、住民にとって入手しやすく、かつ、わかりやすい情報を発信することにより、情報を利用しやすい環境を構築する必要があります。</p> <p>○ 地域に根ざした病院となるため、病院への理解促進に努めるとともに、健康への関心を高め、病気の早期発見につなげることができるよう、住民の意識の醸成を図る必要があります。</p> <p>【病院が有する機能の有効活用】</p> <p>○ 今後も設備投資に見合った効果を発揮するため、新規患者の掘り起こしや圏域での共同利用の推進を図る必要があります。</p> <p>○ 道立病院の管理栄養士や理学療法士などの医療従事者を有効活用する観点から、多職種連携の協議や地元自治体の保健活動に積極的に参加するなど、地域の連携活動を通じた取組が必要です。</p> <p>【適切な診療報酬の獲得】</p> <p>○ 各病院において取得済みの施設基準を適切に管理するとともに、新たな基準や加算の取得、診療報酬改定に対応するため、医事部門の専門性の向上を図る必要があります。</p> <p>【道立病院の利用促進】</p> <p>○ 患者満足度調査等を通じ、患者サービス・療育環境の向上に取り組んでいく必要があります。</p> <p>○ 地域ニーズを把握し、道立病院を利用しやすい環境となるよう検討する必要があります。</p> <p>【費用の縮減】</p> <p>○ 患者負担の軽減や費用の縮減を図るため、治療に影響のない範囲で後発医薬品の採用拡大を進める必要があります。</p> <p>【経営基盤の強化】</p> <p>○ 医療提供を支える人材を確保する取組の継続や将来にわたり病院運営の中核を担う人材の育成が必要です。</p> <p>○ 病院事業管理者が迅速かつ適切な経営判断により、リーダーシップを最大限発揮できるよう、引き続き業務執行体制を整備する必要があります。</p>	<p>○ 各病院で受けられる医療サービスや活動内容等について、住民にとって入手しやすく、かつ、わかりやすい情報を発信することにより、情報を利用しやすい環境を構築する必要があります。</p> <p>○ 地域に根ざした病院となるため、病院への理解促進に努めるとともに、健康への関心を高め、病気の早期発見につなげることができるよう、住民の意識の醸成を図る必要があります。</p> <p>【病院が有する機能の有効活用】</p> <p>○ 今後も設備投資に見合った効果を発揮するため、新規患者の掘り起こしや圏域での共同利用の推進を図る必要があります。</p> <p>○ 道立病院の管理栄養士や理学療法士などの医療従事者を有効活用する観点から、多職種連携の協議や地元自治体の保健活動に積極的に参加するなど、地域の連携活動を通じた取組が必要です。</p> <p>【適切な診療報酬の獲得】</p> <p>○ 各病院において取得済みの施設基準を適切に管理するとともに、新たな基準や加算の取得、診療報酬改定に対応するため、医事部門の専門性の向上を図る必要があります。</p> <p>【道立病院の利用促進】</p> <p>○ 患者満足度調査等を通じ、患者サービス・療育環境の向上に取り組んでいく必要があります。</p> <p>○ 地域ニーズを把握し、道立病院を利用しやすい環境となるよう検討する必要があります。</p> <p>【費用の縮減】</p> <p>○ 患者負担の軽減や費用の縮減を図るため、治療に影響のない範囲で後発医薬品の採用拡大を進める必要があります。</p> <p>【経営基盤の強化】</p> <p>○ 医療提供を支える人材を確保する取組の継続や将来にわたり病院運営の中核を担う人材の育成が必要です。</p> <p><u>○ 感染管理に精通する職員の配置や感染防止に向けた研修の開催など、院内体制を強化することが必要です。</u></p> <p>○ 病院事業管理者が迅速かつ適切な経営判断により、リーダーシップを最大限発揮できるよう、引き続き業務執行体制を整備する必要があります。</p>	<p>・ 現行の下線部分は「VI 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」に移行 ★ 3</p>

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>【デジタル化への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>へき地医療や離島診療支援、医療従事者の負担軽減に向け、ICTの活用による医療の質の向上や効率化が必要です。</u> ○ <u>外部からの接続に対応するため、医療情報システムのセキュリティ対策など安全管理を進める必要があります。</u> <p>【職員の経営改革意識の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療の質を上げるとともに、患者サービスの向上を図ることができるよう、職員のモチベーションを高める取組を進めることが必要です。 <p>3 設定する指標及び数値目標</p> <p>経営改善を進めるための経営指標と各病院の医療機能に関する機能指標に区分して設定します。</p> <p>なお、各病院の数値目標は、「Ⅷ 収支計画及び数値目標」に掲載します。</p> <p>（1）経営指標及び数値目標</p> <p>① 収支状況に関する指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経常収支比率 病院の医業活動と医業外活動に伴う収益（他会計負担金を含む）と費用の割合を示す指標です。 ・ 医業収支比率 病院の医業活動に伴う収益と費用の割合を示す指標です。 <p>② 収益確保に関する指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床利用率（一般・精神） 病床がどのくらいの割合で利用されているかを示す指標であり、本プランでは運用病床数に対する割合としています。 ・ 1日平均患者数（入院・外来） 地域の人口が減少する中においても、患者数の確保を目指します。 ・ 患者1人1日当たり収益（入院・外来） 診療の収益性を示す指標であり、診療報酬制度の変化に迅速かつ柔軟に対応し、診療単価の増加を目指します。 <p>③ 経費縮減に関する指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬材料費対医業収益比率 医業費用の縮減に向けて、医薬材料の廉価購入の取組に努め、病院ごとに改善を目指します。 ・ 後発医薬品使用割合 後発医薬品の採用数量の割合を高めることで、医薬材料費の縮減につなげていきます。 <p>（2）機能指標及び数値目標</p> <p>各病院の有する機能が発揮できているかを点検・検証する観点から、病院ごとに次の指標を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手術件数（子ども総合医療・療育センター、北見病院） 	<p>【職員の経営改革意識の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療の質を上げるとともに、患者サービスの向上を図ることができるよう、職員のモチベーションを高める取組を進めることが必要です。 <p>3 設定する指標及び数値目標</p> <p>経営改善を進めるための経営指標と各病院の医療機能に関する機能指標に区分して設定します。</p> <p>なお、各病院の数値目標は、「Ⅷ 収支計画及び数値目標」に掲載します。</p> <p>（1）経営指標及び数値目標</p> <p>① 収支状況に関する指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経常収支比率 病院の医業活動と医業外活動に伴う収益（他会計負担金を含む）と費用の割合を示す指標です。 ・ 医業収支比率 病院の医業活動に伴う収益と費用の割合を示す指標です。 <p>② 収益確保に関する指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床利用率（一般・精神） 病床がどのくらいの割合で利用されているかを示す指標であり、本プランでは稼働病床数に対する割合としています。 ・ 1日平均患者数（入院・外来） 地域の人口が減少する中においても、患者数の確保を目指します。 ・ 患者1人1日当たり収益（入院・外来） 診療の収益性を示す指標であり、診療報酬制度の変化に迅速かつ柔軟に対応し、診療単価の増加を目指します。 <p>③ 経費縮減に関する指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬材料費対医業収益比率 医業費用の縮減に向けて、医薬材料の廉価購入の取組に努め、病院ごとに改善を目指します。 ・ 後発医薬品使用割合 後発医薬品の採用数量の割合を高めることで、医薬材料費の縮減につなげていきます。 <p>（2）機能指標及び数値目標</p> <p>各病院の有する機能が発揮できているかを点検・検証する観点から、病院ごとに次の指標を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手術件数（子ども総合医療・療育センター、北見病院） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回検討部会による意見を踏まえ追加 ・ 国のガイドラインに基づき項目を追加 ・ 文言修正

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・紹介患者件数（江差病院、羽幌病院） ・地域包括ケア病床利用率（江差病院、羽幌病院） ・訪問看護件数、デイケア件数（緑ヶ丘病院、向陽ヶ丘病院） ・精神科救急急性期医療入院料病床利用率（緑ヶ丘病院） ・認知症疾患医療センター新規患者数（向陽ヶ丘病院） ・新生児特定集中治療室における他の周産期母子医療センターからの受入率（子ども総合医療・療育センター） <p>4 経営改善に向けた取組</p> <p>本プランに基づく経営改善の着実な推進及び各種指標の目標達成に向けて、収益の確保、費用の縮減、経営基盤の強化、職員の経営改革意識の向上を柱に、具体的な取組を進めます。</p> <p>（1）収益の確保</p> <p>① 患者数の確保、新規患者の掘り起こし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域連携室を中心に他の医療機関や介護サービス事業者等と一層の連携強化を図ります。 ・地域連携室の活動などを通じて、健康診断や人間ドックの受託促進に取り組みます。 ・市民講座や研修会の開催、地域のイベントへの参画などを通じ、住民が健康への関心を高め、病気の早期発見につなげることができるよう、住民の意識の醸成を図ります。 ・ホームページや広報誌等の各種媒体を有効に活用し、病院広報の充実を図ります。 <p>② 病院が有する機能の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高額医療機器の利用増や周辺医療機関との共同利用を推進します。 ・地域の連携活動を通じて、道立病院の医療従事者の有効活用に努めます。 <p>③ 適切な診療報酬の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬に関する外部点検や請求事務委託業者との連携の強化による請求漏れの改善及び診療報酬改定、病院の機能見直し等に対応した新たな施設基準・加算取得の検討を進めます。 ・新たな施設基準・加算の取得に向けて、院内の関係部門が連携しながら、研修会の開催など、医事部門の専門性の向上を図ります。 <p>④ 道立病院の利用促進に向けた取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者満足度調査等を通じて、病院が提供しているサービスに対する利用者の評価を把握し、患者サービス、療養環境の向上を図ります。 ・各病院における関係機関との連携活動や受療動向のデータ分析を通じて把握した地域ニーズを病院運営に反映し、患者や家族にとって利用しやすい環境となるよう検討を進め、患者の確保を図ります。 ・ホームページや広報誌等の各種媒体を有効に活用し、病院広報の一層の充実を図り、各病院の機能や役割に関する住民理解を促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介患者件数（江差病院、羽幌病院） ・地域包括ケア病床利用率（江差病院、羽幌病院） ・訪問看護件数、デイケア件数（緑ヶ丘病院、向陽ヶ丘病院） ・精神科救急入院料病床利用率（緑ヶ丘病院） ・認知症疾患医療センター新規患者数（向陽ヶ丘病院） ・新生児特定集中治療室における他の周産期母子医療センターからの受入率（子ども総合医療・療育センター） <p>4 経営改善に向けた取組</p> <p>本プランに基づく経営改善の着実な推進及び各種指標の目標達成に向けて、収益の確保、費用の縮減、経営基盤の強化、職員の経営改革意識の向上を柱に、具体的な取組を進めます。</p> <p>（1）収益の確保</p> <p>① 患者数の確保、新規患者の掘り起こし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域連携室を中心に他の医療機関や介護サービス事業者等と一層の連携強化を図ります。 ・地域連携室の活動などを通じて、健康診断や人間ドックの受託促進に取り組みます。 ・市民講座や研修会の開催、地域のイベントへの参画などを通じ、住民が健康への関心を高め、病気の早期発見につなげることができるよう、住民の意識の醸成を図ります。 ・ホームページや広報誌等の各種媒体を有効に活用し、病院広報の充実を図ります。 <p>② 病院が有する機能の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高額医療機器の利用増や周辺医療機関との共同利用を推進します。 ・地域の連携活動を通じて、道立病院の医療従事者の有効活用に努めます。 <p>③ 適切な診療報酬の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬に関する外部点検や請求事務委託業者との連携の強化による請求漏れの改善及び診療報酬改定、病院の機能見直し等に対応した新たな施設基準・加算取得の検討を進めます。 ・新たな施設基準・加算の取得に向けて、院内の関係部門が連携しながら、研修会の開催など、医事部門の専門性の向上を図ります。 <p>④ 道立病院の利用促進に向けた取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者満足度調査等を通じて、病院が提供しているサービスに対する利用者の評価を把握し、患者サービス、療養環境の向上を図ります。 ・各病院における関係機関との連携活動や受療動向のデータ分析を通じて把握した地域ニーズを病院運営に反映し、患者や家族にとって利用しやすい環境となるよう検討を進め、患者の確保を図ります。 ・ホームページや広報誌等の各種媒体を有効に活用し、病院広報の一層の充実を図り、各病院の機能や役割に関する住民理解を促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文言修正

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備 考
<p>(2) 費用の縮減</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 無駄のない適正な管理経費の執行による医業費用の節減を図ります。 ○ 費用対効果や必要性、機器導入後の保守も見据え、医療機器等を整備します。 ○ 患者負担の軽減、費用の縮減に結びつく後発医薬品の採用拡大に努めます。 <p>(3) 経営基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療機能維持に必要な医師等医療従事者の確保に努めます。 ○ 自治体病院等との派遣・交流などを通じた病院経営に精通する職員の育成について検討します。 <p>○ 病院事業管理者が医療環境への変化に即した的確な経営判断とリーダーシップを発揮し、経営改革を推進することができるよう、引き続き業務執行体制の整備に努めます。</p> <p>(4) デジタル化への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>ICTによるへき地医療や離島診療支援を行うとともに、道内医育大学・基幹病院等とネットワークを繋ぎ、症例検討や学生実習等教育に取り組むなど、ICTを活用した医療の質の向上に努めます。</u> ○ <u>新興感染症への対応のため、感染の発生状況等に応じた電話診療やオンライン面会を実施します。</u> ○ <u>国の動向を踏まえた電子カルテ情報等の標準化への対応や各種情報システム等の活用による他医療機関との診療情報の共有を進めるとともに、医師をはじめとする医療従事者の負担軽減に向けたICTの導入を検討するなど、働き方改革と病院経営の効率化を推進します。</u> ○ <u>マイナンバーカードの健康保険証利用について、院内掲示等により普及啓発に努めます。</u> ○ <u>国が作成した「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」等を踏まえるとともに、医療情報システムの保守業者との連携を図るなど、セキュリティ対策に取り組みます。</u> <p>(5) 職員の経営改革意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病院事業管理者による経営方針の徹底と職員への経営情報の共有を図ります。 ○ 病院事業の運営向上に向けて、他病院の好事例の共有化を図るとともに、職員表彰の実施など、職員のモチベーションを高める取組を実施します。 <p>5 経営形態の移行</p> <p>病院事業は、地方公営企業法の財務規定の一部適用により運営していましたが、平成29年(2017年)4月より経営形態の見直しを行い、地方公営企業法の全部適用へ移行しました。</p>	<p>(2) 費用の縮減</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 無駄のない適正な管理経費の執行による医業費用の節減を図ります。 ○ 費用対効果や必要性、機器導入後の保守も見据え、医療機器等を整備します。 ○ 患者負担の軽減、費用の縮減に結びつく後発医薬品の採用拡大に努めます。 <p>(3) 経営基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療機能維持に必要な医師等医療従事者の確保に努めます。 ○ 自治体病院等との派遣・交流などを通じた病院経営に精通する職員の育成について検討します。 ○ <u>感染管理認定看護師など感染管理に精通する職員の配置や感染防止に向けた研修の実施、感染予防策の徹底など、院内の体制強化に努めながら危機管理に取り組みます。</u> ○ <u>各病院においてマスクやフェイスガード等の感染防護具の備蓄を進めるとともに、本庁においても卸業者から一括購入し各病院へ配付するなど、必要な感染防護具の確保に努めます。</u> ○ 病院事業管理者が医療環境への変化に即した的確な経営判断とリーダーシップを発揮し、経営改革を推進することができるよう、引き続き業務執行体制の整備に努めます。 <p>(4) 職員の経営改革意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 管理者による経営方針の徹底と職員への経営情報の共有を図ります。 ○ 病院事業の運営向上に向けて、他病院の好事例の共有化を図るとともに、職員表彰の実施など、職員のモチベーションを高める取組を実施します。 <p>5 経営形態の移行</p> <p>病院事業は、地方公営企業法の財務規定の一部適用により運営していましたが、平成29年(2017年)4月より経営形態の見直しを行い、地方公営企業法の全部適用へ移行しました。</p>	<p>・ 現行の下線部分は「VI 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」に移行★4</p> <p>・ 現行の下線部分は「VI 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」に移行★5</p> <p>・ 第2回検討部会による意見を踏まえ追加</p> <p>・ 国のガイドラインに基づき項目を追加</p> <p>・ 項目の追加による繰り下げ</p> <p>・ 文言追加</p>

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考																																						
<p>地方公営企業法の全部適用への移行により、独自に人材を採用することや業務内容に応じた手当の創設などが可能になったことを受けて、地域の医療ニーズに応じた職種間の定数の柔軟な見直しに加え、専門医を目指す専攻医の指導に当たる医師を確保するための「指導医手当」を創設したほか、診療報酬の新たな加算取得が可能となるよう、精神保健福祉士などの職種の配置を進めるなど、経営改善に取り組んできました。</p> <p>病院事業は厳しい経営状況にありますが、引き続き現行の全部適用のメリットを最大限活用しながら経営改善に向けた取組を推進していきます。</p>	<p>地方公営企業法の全部適用への移行により、独自に人材を採用することや業務内容に応じた手当の創設などが可能になったことを受けて、地域の医療ニーズに応じた職種間の定数の柔軟な見直しに加え、専門医を目指す専攻医の指導に当たる医師を確保するための「指導医手当」を創設したほか、診療報酬の新たな加算取得が可能となるよう、精神保健福祉士などの職種の配置を進めるなど、経営改善に取り組んできました。</p> <p>病院事業は厳しい経営状況にありますが、引き続き現行の全部適用のメリットを最大限活用しながら経営改善に向けた取組を推進していきます。</p>																																							
<p>VIII 一般会計負担金の算定の考え方</p> <p>※一般会計における費用負担の範囲の考え方、繰出基準は、案策定時に提示します。</p>	<p>VII 一般会計負担金の算定の考え方</p> <p>地方公営企業法において、病院事業に要する経費のうち、経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費や能率的な経営を行ってもなおその経営に伴う収入をもって充てることが客観的に困難であると認められる経費については、一般会計等において負担することとされています。</p> <p>本プランにおいては、一般会計から繰り入れる負担金を次のとおり区分します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr style="background-color: #0056b3; color: white;"> <th style="width: 15%;">区 分</th> <th style="width: 85%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">国基準</td> <td>国が示す繰出基準（地方財政計画積算例）に基づいて算定した経費</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">基準外</td> <td>①道として特に政策的に行う医療機能等の確保に要する経費 ②特殊な経費や臨時的に発生する経費 ③経営改善により計画的に解消を図る経費</td> </tr> </tbody> </table> <p>【国基準】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #0056b3; color: white;"> <th style="width: 45%;">区 分</th> <th style="width: 55%;">繰出基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建設改良に要する経費</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">企業債元利償還金</td> <td>1/2(ただし、平成 14 年度までに着手した事業に係るものは 2/3)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建設改良費</td> <td>特定財源控除後の 1/2</td> </tr> <tr> <td>へき地医療の確保に要する経費</td> <td>巡回診療、へき地診療所等への応援医師又は代診医師の派遣及び訪問看護に要する経費等のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額</td> </tr> <tr> <td>不採算地区病院の運営に要する経費</td> <td>運営に要する経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額</td> </tr> <tr> <td>不採算地区に所在する中核的な病院の機能の維持に要する経費</td> <td>その機能を維持するために特に必要となる経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額</td> </tr> <tr> <td>精神医療に要する経費</td> <td>精神病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額</td> </tr> <tr> <td>感染症医療に要する経費</td> <td>感染症病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション医療に要する経費</td> <td>医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額</td> </tr> <tr> <td>周産期医療に要する経費</td> <td>周産期医療の用に供する病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額</td> </tr> <tr> <td>小児医療に要する経費</td> <td>小児医療（小児救急医療を除く）の用に供する病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額</td> </tr> <tr> <td>救急医療の確保に要する経費</td> <td>救急告示病院における医師等の待機及び空床の確保等救急医療の確保に必要な経費に相当する額</td> </tr> <tr> <td>高度医療に要する経費</td> <td>医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額</td> </tr> <tr> <td>院内保育所の運営に要する経費</td> <td>運営に要する経費のうち、その運営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額</td> </tr> <tr> <td>保健衛生行政事務に要する経費</td> <td>集団検診、医療相談等に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	内 容	国基準	国が示す繰出基準（地方財政計画積算例）に基づいて算定した経費	基準外	①道として特に政策的に行う医療機能等の確保に要する経費 ②特殊な経費や臨時的に発生する経費 ③経営改善により計画的に解消を図る経費	区 分	繰出基準	建設改良に要する経費		企業債元利償還金	1/2(ただし、平成 14 年度までに着手した事業に係るものは 2/3)	建設改良費	特定財源控除後の 1/2	へき地医療の確保に要する経費	巡回診療、へき地診療所等への応援医師又は代診医師の派遣及び訪問看護に要する経費等のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	不採算地区病院の運営に要する経費	運営に要する経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	不採算地区に所在する中核的な病院の機能の維持に要する経費	その機能を維持するために特に必要となる経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	精神医療に要する経費	精神病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	感染症医療に要する経費	感染症病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	リハビリテーション医療に要する経費	医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	周産期医療に要する経費	周産期医療の用に供する病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	小児医療に要する経費	小児医療（小児救急医療を除く）の用に供する病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	救急医療の確保に要する経費	救急告示病院における医師等の待機及び空床の確保等救急医療の確保に必要な経費に相当する額	高度医療に要する経費	医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	院内保育所の運営に要する経費	運営に要する経費のうち、その運営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	保健衛生行政事務に要する経費	集団検診、医療相談等に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	
区 分	内 容																																							
国基準	国が示す繰出基準（地方財政計画積算例）に基づいて算定した経費																																							
基準外	①道として特に政策的に行う医療機能等の確保に要する経費 ②特殊な経費や臨時的に発生する経費 ③経営改善により計画的に解消を図る経費																																							
区 分	繰出基準																																							
建設改良に要する経費																																								
企業債元利償還金	1/2(ただし、平成 14 年度までに着手した事業に係るものは 2/3)																																							
建設改良費	特定財源控除後の 1/2																																							
へき地医療の確保に要する経費	巡回診療、へき地診療所等への応援医師又は代診医師の派遣及び訪問看護に要する経費等のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額																																							
不採算地区病院の運営に要する経費	運営に要する経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額																																							
不採算地区に所在する中核的な病院の機能の維持に要する経費	その機能を維持するために特に必要となる経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額																																							
精神医療に要する経費	精神病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額																																							
感染症医療に要する経費	感染症病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額																																							
リハビリテーション医療に要する経費	医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額																																							
周産期医療に要する経費	周産期医療の用に供する病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額																																							
小児医療に要する経費	小児医療（小児救急医療を除く）の用に供する病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額																																							
救急医療の確保に要する経費	救急告示病院における医師等の待機及び空床の確保等救急医療の確保に必要な経費に相当する額																																							
高度医療に要する経費	医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額																																							
院内保育所の運営に要する経費	運営に要する経費のうち、その運営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額																																							
保健衛生行政事務に要する経費	集団検診、医療相談等に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額																																							

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考																																						
	<p>経営基盤強化対策に要する経費</p> <table border="1"> <tr> <td>医師及び看護師等の研究研修に要する経費</td> <td>研究研修に要する経費の1/2</td> </tr> <tr> <td>病院事業の経営研修に要する経費</td> <td>経営研修に要する経費の1/2</td> </tr> <tr> <td>共済追加費用の負担に要する経費</td> <td>共済追加費用の負担額の一部</td> </tr> <tr> <td>医師確保対策に要する経費</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 医師の勤務環境の改善</td> <td>改善に要する経費のうち、経営に伴う収入をもって充てることが客観的に困難であると認められるものに相当する額</td> </tr> <tr> <td> 医師の派遣</td> <td>医師の派遣を受けることに要する経費</td> </tr> </table> <p>基礎年金拠出金に係る公的負担に要する経費 職員に係る基礎年金拠出金に係る公的負担額</p> <p>児童手当に要する経費 児童手当の給付に要する経費の一部</p> <p>新型コロナウイルス感染症に係る減収対策のために発行する資金手当債の利子負担の軽減に要する経費 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための取組に伴う利用者の減少等により発行した特別減収対策企業債の償還利子の1/2</p> <p>【基準外】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>繰出基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">政策的経費</td> </tr> <tr> <td>周産期医療に要する経費</td> <td>子ども総合医療・療育センターにおける周産期医療の用に供する病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額</td> </tr> <tr> <td>高度医療に要する経費</td> <td>子ども総合医療・療育センターにおける高度医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額</td> </tr> <tr> <td>保健衛生行政事務に要する経費</td> <td>子ども総合医療・療育センターにおける療育の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額</td> </tr> <tr> <td>地域センター病院の不採算医療に要する経費</td> <td>地域センター病院に設置することとされている診療科の運営に要する経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額</td> </tr> <tr> <td colspan="2">特殊・臨時的経費</td> </tr> <tr> <td>本庁運営に要する経費</td> <td>本庁経費から収入及び他の繰出金を控除した額</td> </tr> <tr> <td>臨時的経費</td> <td>臨時に必要な経費に相当する額</td> </tr> <tr> <td colspan="2">経営改善により計画的に解消を図る経費</td> </tr> <tr> <td>精神医療に要する経費</td> <td>精神病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額</td> </tr> <tr> <td>高度医療に要する経費</td> <td>北見病院における高度医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額</td> </tr> <tr> <td>地域センター病院の不採算医療に要する経費</td> <td>地域センター病院の運営に要する経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から「国基準」及び「政策的経費」に係る繰出金を控除した額</td> </tr> </tbody> </table>	医師及び看護師等の研究研修に要する経費	研究研修に要する経費の1/2	病院事業の経営研修に要する経費	経営研修に要する経費の1/2	共済追加費用の負担に要する経費	共済追加費用の負担額の一部	医師確保対策に要する経費		医師の勤務環境の改善	改善に要する経費のうち、経営に伴う収入をもって充てることが客観的に困難であると認められるものに相当する額	医師の派遣	医師の派遣を受けることに要する経費	区分	繰出基準	政策的経費		周産期医療に要する経費	子ども総合医療・療育センターにおける周産期医療の用に供する病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額	高度医療に要する経費	子ども総合医療・療育センターにおける高度医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額	保健衛生行政事務に要する経費	子ども総合医療・療育センターにおける療育の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額	地域センター病院の不採算医療に要する経費	地域センター病院に設置することとされている診療科の運営に要する経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額	特殊・臨時的経費		本庁運営に要する経費	本庁経費から収入及び他の繰出金を控除した額	臨時的経費	臨時に必要な経費に相当する額	経営改善により計画的に解消を図る経費		精神医療に要する経費	精神病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額	高度医療に要する経費	北見病院における高度医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額	地域センター病院の不採算医療に要する経費	地域センター病院の運営に要する経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から「国基準」及び「政策的経費」に係る繰出金を控除した額	
医師及び看護師等の研究研修に要する経費	研究研修に要する経費の1/2																																							
病院事業の経営研修に要する経費	経営研修に要する経費の1/2																																							
共済追加費用の負担に要する経費	共済追加費用の負担額の一部																																							
医師確保対策に要する経費																																								
医師の勤務環境の改善	改善に要する経費のうち、経営に伴う収入をもって充てることが客観的に困難であると認められるものに相当する額																																							
医師の派遣	医師の派遣を受けることに要する経費																																							
区分	繰出基準																																							
政策的経費																																								
周産期医療に要する経費	子ども総合医療・療育センターにおける周産期医療の用に供する病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額																																							
高度医療に要する経費	子ども総合医療・療育センターにおける高度医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額																																							
保健衛生行政事務に要する経費	子ども総合医療・療育センターにおける療育の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額																																							
地域センター病院の不採算医療に要する経費	地域センター病院に設置することとされている診療科の運営に要する経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額																																							
特殊・臨時的経費																																								
本庁運営に要する経費	本庁経費から収入及び他の繰出金を控除した額																																							
臨時的経費	臨時に必要な経費に相当する額																																							
経営改善により計画的に解消を図る経費																																								
精神医療に要する経費	精神病床の確保に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額																																							
高度医療に要する経費	北見病院における高度医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から他の繰出金を控除した額																																							
地域センター病院の不採算医療に要する経費	地域センター病院の運営に要する経費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額から「国基準」及び「政策的経費」に係る繰出金を控除した額																																							

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考																																																																
<p>IX 収支計画及び数値目標</p> <p>※収支計画及び数値目標は、案策定時に提示します。</p>	<p>VIII 収支計画及び数値目標</p> <p>現在運営している6つの道立病院は、地域において必要な医療を提供しており、引き続き、現行機能を維持していくこととしています。</p> <p>地域における人口は大きく減少し、医療従事者の確保はますます厳しさを増していく中、患者数の増加を前提とした収益を見込むことは困難な状況にあります。</p> <p>6つの道立病院を引き続き運営していく中で、本プランでは、子ども総合医療・療育センターの療育部門については、肢体不自由児や発達障がい児を対象としたリハビリテーション等を提供する福祉施設であり、医療部門と同じ視点で経営改革を行うことは難しいため、医療部門合計の収支計画及び数値目標からは区分して実績把握を行っていきます。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響等による患者数や収益の減など、今後とも厳しい経営状況が見込まれる中、複数年の収支を見通すことが非常に難しい状況にあることから、「収支計画及び数値目標」は、プラン初年度となる令和3年度の単年度分とし、令和4年度以降については、新型コロナウイルス感染症の流行状況などを踏まえながら、引き続き検討することとします。</p> <p style="text-align: center;">医療部門合計</p> <p>〈 収益的収支 〉 (単位：百万円)</p> <table border="1" data-bbox="1249 993 1798 1276"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収 益 A</td> <td>8,300</td> </tr> <tr> <td>費 用 B</td> <td>15,292</td> </tr> <tr> <td>収 支 差 C=A-B</td> <td>▲ 6,992</td> </tr> <tr> <td>他会計負担金 D</td> <td>5,876</td> </tr> <tr> <td>損 益 E=C+D</td> <td>▲ 1,116</td> </tr> <tr> <td>経常損益(退職給付引当金除き)</td> <td>▲ 732</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈 資本的収支 〉 (単位：百万円)</p> <table border="1" data-bbox="1852 993 2294 1192"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資本的収入 F</td> <td>769</td> </tr> <tr> <td>資本的支出 G</td> <td>2,120</td> </tr> <tr> <td>収 支 差 H=F-G</td> <td>▲ 1,351</td> </tr> <tr> <td>他会計負担金</td> <td>897</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈 経営指標等数値目標 〉</p> <table border="1" data-bbox="1249 1360 1798 1791"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>55.4</td> </tr> <tr> <td> 一般 (%)</td> <td>57.0</td> </tr> <tr> <td> 精神 (%)</td> <td>54.7</td> </tr> <tr> <td>経常収支比率 (%)</td> <td>98.8</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率 (%)</td> <td>46.3</td> </tr> <tr> <td>医薬材料費対医業収益比率 (%)</td> <td>20.4</td> </tr> <tr> <td>1日平均入院患者数(合計) (人)</td> <td>306.8</td> </tr> <tr> <td> 一般 (人)</td> <td>185.3</td> </tr> <tr> <td> 精神 (人)</td> <td>121.5</td> </tr> <tr> <td>1日平均外来患者数 (人)</td> <td>930.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈 他会計負担金 〉 (単位：百万円)</p> <table border="1" data-bbox="1852 1360 2294 1717"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益的収支分</td> <td>5,876</td> </tr> <tr> <td> 国基準</td> <td>2,975</td> </tr> <tr> <td> 道基準</td> <td>2,901</td> </tr> <tr> <td> 政策的経費</td> <td>1,235</td> </tr> <tr> <td> 特殊・臨時的経費</td> <td>570</td> </tr> <tr> <td> 計画的解消経費</td> <td>1,096</td> </tr> <tr> <td>資本的収支分(国基準)</td> <td>897</td> </tr> <tr> <td>他会計負担金計</td> <td>6,773</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 100万円単位で四捨五入しているため、各病院の金額の内訳と合計が合わない場合があります。 ※2 金額は収益的収支も含め、全て税込みとなっています。 ※3 経常収支比率は、過去分の退職給付引当金を除いて算出しています。 ※4 病床利用率は、稼働病床ベース（感染症病床を除く）で算出しています。 ※5 医業収支比率及び医薬材料費対医業収益比率は、北見病院を除いて算出しています。</p>	区 分	R3年度	収 益 A	8,300	費 用 B	15,292	収 支 差 C=A-B	▲ 6,992	他会計負担金 D	5,876	損 益 E=C+D	▲ 1,116	経常損益(退職給付引当金除き)	▲ 732	区 分	R3年度	資本的収入 F	769	資本的支出 G	2,120	収 支 差 H=F-G	▲ 1,351	他会計負担金	897	区 分	R3年度	病床利用率 (%)	55.4	一般 (%)	57.0	精神 (%)	54.7	経常収支比率 (%)	98.8	医業収支比率 (%)	46.3	医薬材料費対医業収益比率 (%)	20.4	1日平均入院患者数(合計) (人)	306.8	一般 (人)	185.3	精神 (人)	121.5	1日平均外来患者数 (人)	930.2	区 分	R3年度	収益的収支分	5,876	国基準	2,975	道基準	2,901	政策的経費	1,235	特殊・臨時的経費	570	計画的解消経費	1,096	資本的収支分(国基準)	897	他会計負担金計	6,773	
区 分	R3年度																																																																	
収 益 A	8,300																																																																	
費 用 B	15,292																																																																	
収 支 差 C=A-B	▲ 6,992																																																																	
他会計負担金 D	5,876																																																																	
損 益 E=C+D	▲ 1,116																																																																	
経常損益(退職給付引当金除き)	▲ 732																																																																	
区 分	R3年度																																																																	
資本的収入 F	769																																																																	
資本的支出 G	2,120																																																																	
収 支 差 H=F-G	▲ 1,351																																																																	
他会計負担金	897																																																																	
区 分	R3年度																																																																	
病床利用率 (%)	55.4																																																																	
一般 (%)	57.0																																																																	
精神 (%)	54.7																																																																	
経常収支比率 (%)	98.8																																																																	
医業収支比率 (%)	46.3																																																																	
医薬材料費対医業収益比率 (%)	20.4																																																																	
1日平均入院患者数(合計) (人)	306.8																																																																	
一般 (人)	185.3																																																																	
精神 (人)	121.5																																																																	
1日平均外来患者数 (人)	930.2																																																																	
区 分	R3年度																																																																	
収益的収支分	5,876																																																																	
国基準	2,975																																																																	
道基準	2,901																																																																	
政策的経費	1,235																																																																	
特殊・臨時的経費	570																																																																	
計画的解消経費	1,096																																																																	
資本的収支分(国基準)	897																																																																	
他会計負担金計	6,773																																																																	

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考																																																																																																
	<p data-bbox="1240 279 1537 310">江差病院</p> <p data-bbox="1240 327 1656 359">〈収益的収支〉 (単位：百万円)</p> <table border="1" data-bbox="1249 365 1673 499"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益 A</td> <td>2,134</td> </tr> <tr> <td>費用 B</td> <td>3,181</td> </tr> <tr> <td>収支差 C=A-B</td> <td>▲ 1,047</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1715 327 2110 359">〈経営指標・機能指標の数値目標〉</p> <table border="1" data-bbox="1724 365 2297 789"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>34.0</td> </tr> <tr> <td> 一般 (%)</td> <td>41.7</td> </tr> <tr> <td> 精神 (%)</td> <td>13.2</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率 (%)</td> <td>50.3</td> </tr> <tr> <td>医薬材料費対医業収益比率 (%)</td> <td>26.0</td> </tr> <tr> <td>後発医薬品使用割合 (%)</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>紹介患者件数 (件)</td> <td>1,344</td> </tr> <tr> <td>地域包括ケア病床利用率 (%)</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>入院 1日平均患者数 (人)</td> <td>50.3</td> </tr> <tr> <td>院内 患者1人1日当たり収益 (円)</td> <td>38,318</td> </tr> <tr> <td>外来 1日平均患者数 (人)</td> <td>285.7</td> </tr> <tr> <td>来 患者1人1日当たり収益 (円)</td> <td>11,340</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1240 852 1537 884">羽幌病院</p> <p data-bbox="1240 900 1656 932">〈収益的収支〉 (単位：百万円)</p> <table border="1" data-bbox="1249 938 1644 1073"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益 A</td> <td>928</td> </tr> <tr> <td>費用 B</td> <td>1,802</td> </tr> <tr> <td>収支差 C=A-B</td> <td>▲ 874</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1694 900 2089 932">〈経営指標・機能指標の数値目標〉</p> <table border="1" data-bbox="1703 938 2297 1299"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>51.8</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率 (%)</td> <td>46.8</td> </tr> <tr> <td>医薬材料費対医業収益比率 (%)</td> <td>22.9</td> </tr> <tr> <td>後発医薬品使用割合 (%)</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>紹介患者件数 (件)</td> <td>660</td> </tr> <tr> <td>地域包括ケア病床利用率 (%)</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>入院 1日平均患者数 (人)</td> <td>23.3</td> </tr> <tr> <td>院内 患者1人1日当たり収益 (円)</td> <td>35,520</td> </tr> <tr> <td>外来 1日平均患者数 (人)</td> <td>161.5</td> </tr> <tr> <td>来 患者1人1日当たり収益 (円)</td> <td>11,844</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1240 1367 1537 1398">緑ヶ丘病院</p> <p data-bbox="1240 1415 1656 1446">〈収益的収支〉 (単位：百万円)</p> <table border="1" data-bbox="1249 1453 1644 1587"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益 A</td> <td>935</td> </tr> <tr> <td>費用 B</td> <td>1,948</td> </tr> <tr> <td>収支差 C=A-B</td> <td>▲ 1,013</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1694 1415 2089 1446">〈経営指標・機能指標の数値目標〉</p> <table border="1" data-bbox="1703 1453 2297 1845"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>72.7</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率 (%)</td> <td>43.1</td> </tr> <tr> <td>医薬材料費対医業収益比率 (%)</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>後発医薬品使用割合 (%)</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>精神科救急入院料棟病床利用率 (%)</td> <td>87.6</td> </tr> <tr> <td>訪問看護件数 (件)</td> <td>6,556</td> </tr> <tr> <td>デイケア件数 (件)</td> <td>2,940</td> </tr> <tr> <td>入院 1日平均患者数 (人)</td> <td>56.0</td> </tr> <tr> <td>院内 患者1人1日当たり収益 (円)</td> <td>25,455</td> </tr> <tr> <td>外来 1日平均患者数 (人)</td> <td>139.1</td> </tr> <tr> <td>来 患者1人1日当たり収益 (円)</td> <td>8,390</td> </tr> </tbody> </table>	区分	R3年度	収益 A	2,134	費用 B	3,181	収支差 C=A-B	▲ 1,047	区分	R3年度	病床利用率 (%)	34.0	一般 (%)	41.7	精神 (%)	13.2	医業収支比率 (%)	50.3	医薬材料費対医業収益比率 (%)	26.0	後発医薬品使用割合 (%)	85.0	紹介患者件数 (件)	1,344	地域包括ケア病床利用率 (%)	90.0	入院 1日平均患者数 (人)	50.3	院内 患者1人1日当たり収益 (円)	38,318	外来 1日平均患者数 (人)	285.7	来 患者1人1日当たり収益 (円)	11,340	区分	R3年度	収益 A	928	費用 B	1,802	収支差 C=A-B	▲ 874	区分	R3年度	病床利用率 (%)	51.8	医業収支比率 (%)	46.8	医薬材料費対医業収益比率 (%)	22.9	後発医薬品使用割合 (%)	85.0	紹介患者件数 (件)	660	地域包括ケア病床利用率 (%)	70.0	入院 1日平均患者数 (人)	23.3	院内 患者1人1日当たり収益 (円)	35,520	外来 1日平均患者数 (人)	161.5	来 患者1人1日当たり収益 (円)	11,844	区分	R3年度	収益 A	935	費用 B	1,948	収支差 C=A-B	▲ 1,013	区分	R3年度	病床利用率 (%)	72.7	医業収支比率 (%)	43.1	医薬材料費対医業収益比率 (%)	8.0	後発医薬品使用割合 (%)	80.0	精神科救急入院料棟病床利用率 (%)	87.6	訪問看護件数 (件)	6,556	デイケア件数 (件)	2,940	入院 1日平均患者数 (人)	56.0	院内 患者1人1日当たり収益 (円)	25,455	外来 1日平均患者数 (人)	139.1	来 患者1人1日当たり収益 (円)	8,390	
区分	R3年度																																																																																																	
収益 A	2,134																																																																																																	
費用 B	3,181																																																																																																	
収支差 C=A-B	▲ 1,047																																																																																																	
区分	R3年度																																																																																																	
病床利用率 (%)	34.0																																																																																																	
一般 (%)	41.7																																																																																																	
精神 (%)	13.2																																																																																																	
医業収支比率 (%)	50.3																																																																																																	
医薬材料費対医業収益比率 (%)	26.0																																																																																																	
後発医薬品使用割合 (%)	85.0																																																																																																	
紹介患者件数 (件)	1,344																																																																																																	
地域包括ケア病床利用率 (%)	90.0																																																																																																	
入院 1日平均患者数 (人)	50.3																																																																																																	
院内 患者1人1日当たり収益 (円)	38,318																																																																																																	
外来 1日平均患者数 (人)	285.7																																																																																																	
来 患者1人1日当たり収益 (円)	11,340																																																																																																	
区分	R3年度																																																																																																	
収益 A	928																																																																																																	
費用 B	1,802																																																																																																	
収支差 C=A-B	▲ 874																																																																																																	
区分	R3年度																																																																																																	
病床利用率 (%)	51.8																																																																																																	
医業収支比率 (%)	46.8																																																																																																	
医薬材料費対医業収益比率 (%)	22.9																																																																																																	
後発医薬品使用割合 (%)	85.0																																																																																																	
紹介患者件数 (件)	660																																																																																																	
地域包括ケア病床利用率 (%)	70.0																																																																																																	
入院 1日平均患者数 (人)	23.3																																																																																																	
院内 患者1人1日当たり収益 (円)	35,520																																																																																																	
外来 1日平均患者数 (人)	161.5																																																																																																	
来 患者1人1日当たり収益 (円)	11,844																																																																																																	
区分	R3年度																																																																																																	
収益 A	935																																																																																																	
費用 B	1,948																																																																																																	
収支差 C=A-B	▲ 1,013																																																																																																	
区分	R3年度																																																																																																	
病床利用率 (%)	72.7																																																																																																	
医業収支比率 (%)	43.1																																																																																																	
医薬材料費対医業収益比率 (%)	8.0																																																																																																	
後発医薬品使用割合 (%)	80.0																																																																																																	
精神科救急入院料棟病床利用率 (%)	87.6																																																																																																	
訪問看護件数 (件)	6,556																																																																																																	
デイケア件数 (件)	2,940																																																																																																	
入院 1日平均患者数 (人)	56.0																																																																																																	
院内 患者1人1日当たり収益 (円)	25,455																																																																																																	
外来 1日平均患者数 (人)	139.1																																																																																																	
来 患者1人1日当たり収益 (円)	8,390																																																																																																	

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考																																																																																								
	<p data-bbox="1240 279 1531 310">向陽ヶ丘病院</p> <p data-bbox="1240 327 1626 359">〈収益的収支〉（単位：百万円）</p> <table border="1" data-bbox="1249 369 1644 499"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益 A</td> <td>740</td> </tr> <tr> <td>費用 B</td> <td>1,701</td> </tr> <tr> <td>収支差 C=A-B</td> <td>▲ 961</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1673 327 2089 359">〈経営指標・機能指標の数値目標〉</p> <table border="1" data-bbox="1694 369 2294 758"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>57.4</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率 (%)</td> <td>36.5</td> </tr> <tr> <td>医薬材料費対医業収益比率 (%)</td> <td>14.9</td> </tr> <tr> <td>後発医薬品使用割合 (%)</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>認知症疾患医療センター新規患者数 (件)</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>訪問看護件数 (件)</td> <td>2,900</td> </tr> <tr> <td>デイケア件数 (件)</td> <td>6,000</td> </tr> <tr> <td>入院患者 1日平均患者数 (人)</td> <td>60.3</td> </tr> <tr> <td>入院患者 1人1日当たり収益 (円)</td> <td>16,247</td> </tr> <tr> <td>外来患者 1日平均患者数 (人)</td> <td>103.1</td> </tr> <tr> <td>外来患者 1人1日当たり収益 (円)</td> <td>9,335</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1240 821 1843 852">子ども総合医療・療育センター（医療部門）</p> <p data-bbox="1240 869 1626 900">〈収益的収支〉（単位：百万円）</p> <table border="1" data-bbox="1249 911 1644 1041"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益 A</td> <td>3,123</td> </tr> <tr> <td>費用 B</td> <td>4,863</td> </tr> <tr> <td>収支差 C=A-B</td> <td>▲ 1,740</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1673 869 2089 900">〈経営指標・機能指標の数値目標〉</p> <table border="1" data-bbox="1694 911 2294 1299"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>70.5</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率 (%)</td> <td>60.4</td> </tr> <tr> <td>医薬材料費対医業収益比率 (%)</td> <td>21.4</td> </tr> <tr> <td>後発医薬品使用割合 (%)</td> <td>75.0</td> </tr> <tr> <td>手術件数 (件)</td> <td>730</td> </tr> <tr> <td>新生児特定集中治療室における他の周産期母子医療センターからの受入率</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>入院患者 1日平均患者数 (人)</td> <td>71.9</td> </tr> <tr> <td>入院患者 1人1日当たり収益 (円)</td> <td>85,883</td> </tr> <tr> <td>外来患者 1日平均患者数 (人)</td> <td>171.7</td> </tr> <tr> <td>外来患者 1人1日当たり収益 (円)</td> <td>13,668</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1240 1367 1531 1398">北見病院</p> <p data-bbox="1240 1415 1626 1446">〈収益的収支〉（単位：百万円）</p> <table border="1" data-bbox="1249 1457 1644 1587"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益 A</td> <td>437</td> </tr> <tr> <td>費用 B</td> <td>1,207</td> </tr> <tr> <td>収支差 C=A-B</td> <td>▲ 770</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1673 1415 2089 1446">〈経営指標・機能指標の数値目標〉</p> <table border="1" data-bbox="1694 1457 2294 1619"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>64.2</td> </tr> <tr> <td>手術件数 (件)</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>(入院) 1日平均患者数 (人)</td> <td>45.0</td> </tr> <tr> <td>(外来) 1日平均患者数 (人)</td> <td>69.1</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1240 1686 1531 1717">本庁</p> <p data-bbox="1240 1734 1626 1766">〈収益的収支〉（単位：百万円）</p> <table border="1" data-bbox="1249 1776 1644 1906"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益 A</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>費用 B</td> <td>590</td> </tr> <tr> <td>収支差 C=A-B</td> <td>▲ 588</td> </tr> </tbody> </table>	区分	R3年度	収益 A	740	費用 B	1,701	収支差 C=A-B	▲ 961	区分	R3年度	病床利用率 (%)	57.4	医業収支比率 (%)	36.5	医薬材料費対医業収益比率 (%)	14.9	後発医薬品使用割合 (%)	85.0	認知症疾患医療センター新規患者数 (件)	190	訪問看護件数 (件)	2,900	デイケア件数 (件)	6,000	入院患者 1日平均患者数 (人)	60.3	入院患者 1人1日当たり収益 (円)	16,247	外来患者 1日平均患者数 (人)	103.1	外来患者 1人1日当たり収益 (円)	9,335	区分	R3年度	収益 A	3,123	費用 B	4,863	収支差 C=A-B	▲ 1,740	区分	R3年度	病床利用率 (%)	70.5	医業収支比率 (%)	60.4	医薬材料費対医業収益比率 (%)	21.4	後発医薬品使用割合 (%)	75.0	手術件数 (件)	730	新生児特定集中治療室における他の周産期母子医療センターからの受入率	70.0	入院患者 1日平均患者数 (人)	71.9	入院患者 1人1日当たり収益 (円)	85,883	外来患者 1日平均患者数 (人)	171.7	外来患者 1人1日当たり収益 (円)	13,668	区分	R3年度	収益 A	437	費用 B	1,207	収支差 C=A-B	▲ 770	区分	R3年度	病床利用率 (%)	64.2	手術件数 (件)	200	(入院) 1日平均患者数 (人)	45.0	(外来) 1日平均患者数 (人)	69.1	区分	R3年度	収益 A	2	費用 B	590	収支差 C=A-B	▲ 588	
区分	R3年度																																																																																									
収益 A	740																																																																																									
費用 B	1,701																																																																																									
収支差 C=A-B	▲ 961																																																																																									
区分	R3年度																																																																																									
病床利用率 (%)	57.4																																																																																									
医業収支比率 (%)	36.5																																																																																									
医薬材料費対医業収益比率 (%)	14.9																																																																																									
後発医薬品使用割合 (%)	85.0																																																																																									
認知症疾患医療センター新規患者数 (件)	190																																																																																									
訪問看護件数 (件)	2,900																																																																																									
デイケア件数 (件)	6,000																																																																																									
入院患者 1日平均患者数 (人)	60.3																																																																																									
入院患者 1人1日当たり収益 (円)	16,247																																																																																									
外来患者 1日平均患者数 (人)	103.1																																																																																									
外来患者 1人1日当たり収益 (円)	9,335																																																																																									
区分	R3年度																																																																																									
収益 A	3,123																																																																																									
費用 B	4,863																																																																																									
収支差 C=A-B	▲ 1,740																																																																																									
区分	R3年度																																																																																									
病床利用率 (%)	70.5																																																																																									
医業収支比率 (%)	60.4																																																																																									
医薬材料費対医業収益比率 (%)	21.4																																																																																									
後発医薬品使用割合 (%)	75.0																																																																																									
手術件数 (件)	730																																																																																									
新生児特定集中治療室における他の周産期母子医療センターからの受入率	70.0																																																																																									
入院患者 1日平均患者数 (人)	71.9																																																																																									
入院患者 1人1日当たり収益 (円)	85,883																																																																																									
外来患者 1日平均患者数 (人)	171.7																																																																																									
外来患者 1人1日当たり収益 (円)	13,668																																																																																									
区分	R3年度																																																																																									
収益 A	437																																																																																									
費用 B	1,207																																																																																									
収支差 C=A-B	▲ 770																																																																																									
区分	R3年度																																																																																									
病床利用率 (%)	64.2																																																																																									
手術件数 (件)	200																																																																																									
(入院) 1日平均患者数 (人)	45.0																																																																																									
(外来) 1日平均患者数 (人)	69.1																																																																																									
区分	R3年度																																																																																									
収益 A	2																																																																																									
費用 B	590																																																																																									
収支差 C=A-B	▲ 588																																																																																									

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考																																																												
	<p style="text-align: center;">子ども総合医療・療育センター（療育部門）</p> <p>〈 収益的収支 〉 (単位：百万円) 〈 入所者数 〉</p> <table border="1" data-bbox="1249 365 1644 499"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収 益 A</td> <td>960</td> </tr> <tr> <td>費 用 B</td> <td>1,984</td> </tr> <tr> <td>収支差 C=A-B</td> <td>▲ 1,024</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1700 365 2294 432"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1日平均入所者数 (人)</td> <td>52.5</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">病院事業合計</p> <p>〈 収益的収支 〉 (単位：百万円) 〈 資本的収支 〉 (単位：百万円)</p> <table border="1" data-bbox="1249 722 1762 953"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収 益 A</td> <td>9,260</td> </tr> <tr> <td>費 用 B</td> <td>17,276</td> </tr> <tr> <td>収 支 差 C=A-B</td> <td>▲ 8,016</td> </tr> <tr> <td>他会計負担金 D</td> <td>6,900</td> </tr> <tr> <td>損 益 E=C+D</td> <td>▲ 1,116</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1813 722 2294 915"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資本的収入 F</td> <td>769</td> </tr> <tr> <td>資本的支出 G</td> <td>2,261</td> </tr> <tr> <td>収 支 差 H=F-G</td> <td>▲ 1,492</td> </tr> <tr> <td>他会計負担金</td> <td>991</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈 患者数等 〉</p> <table border="1" data-bbox="1249 1041 1762 1192"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率 (%)</td> <td>99.3</td> </tr> <tr> <td>入院患者数（1日平均）(人)</td> <td>359.3</td> </tr> <tr> <td>外来患者数（1日平均）(人)</td> <td>930.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈 他会計負担金 〉 (単位：百万円)</p> <table border="1" data-bbox="1813 1041 2294 1381"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益的収支分</td> <td>6,900</td> </tr> <tr> <td> 国基準</td> <td>3,086</td> </tr> <tr> <td> 道基準</td> <td>3,814</td> </tr> <tr> <td> 政策的経費</td> <td>2,148</td> </tr> <tr> <td> 特殊・臨時的経費</td> <td>570</td> </tr> <tr> <td> 計画的解消経費</td> <td>1,096</td> </tr> <tr> <td>資本的収支分（国基準）</td> <td>991</td> </tr> <tr> <td>他会計負担金計</td> <td>7,891</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	R3年度	収 益 A	960	費 用 B	1,984	収支差 C=A-B	▲ 1,024	区 分	R3年度	1日平均入所者数 (人)	52.5	区 分	R3年度	収 益 A	9,260	費 用 B	17,276	収 支 差 C=A-B	▲ 8,016	他会計負担金 D	6,900	損 益 E=C+D	▲ 1,116	区 分	R3年度	資本的収入 F	769	資本的支出 G	2,261	収 支 差 H=F-G	▲ 1,492	他会計負担金	991	区 分	R3年度	経常収支比率 (%)	99.3	入院患者数（1日平均）(人)	359.3	外来患者数（1日平均）(人)	930.2	区 分	R3年度	収益的収支分	6,900	国基準	3,086	道基準	3,814	政策的経費	2,148	特殊・臨時的経費	570	計画的解消経費	1,096	資本的収支分（国基準）	991	他会計負担金計	7,891	
区 分	R3年度																																																													
収 益 A	960																																																													
費 用 B	1,984																																																													
収支差 C=A-B	▲ 1,024																																																													
区 分	R3年度																																																													
1日平均入所者数 (人)	52.5																																																													
区 分	R3年度																																																													
収 益 A	9,260																																																													
費 用 B	17,276																																																													
収 支 差 C=A-B	▲ 8,016																																																													
他会計負担金 D	6,900																																																													
損 益 E=C+D	▲ 1,116																																																													
区 分	R3年度																																																													
資本的収入 F	769																																																													
資本的支出 G	2,261																																																													
収 支 差 H=F-G	▲ 1,492																																																													
他会計負担金	991																																																													
区 分	R3年度																																																													
経常収支比率 (%)	99.3																																																													
入院患者数（1日平均）(人)	359.3																																																													
外来患者数（1日平均）(人)	930.2																																																													
区 分	R3年度																																																													
収益的収支分	6,900																																																													
国基準	3,086																																																													
道基準	3,814																																																													
政策的経費	2,148																																																													
特殊・臨時的経費	570																																																													
計画的解消経費	1,096																																																													
資本的収支分（国基準）	991																																																													
他会計負担金計	7,891																																																													

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考
<p>X プランの点検・評価、公表等</p> <p>1 北海道病院事業推進委員会の設置 定期的に事業実績の点検・評価を行うため、北海道病院事業条例（昭和 42 年北海道条例第 45 号）に基づき、外部有識者で構成する北海道病院事業推進委員会（以下「委員会」という。）を設置しています。</p> <p>（1）委員会の所掌事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 病院事業の経営状況に係る点検及び評価を行うこと。 ② 病院事業の経営の改善に関する指導及び助言を行うこと。 ③ 管理者の諮問に応じ、病院事業の経営に関する重要事項を調査審議すること。 <p>（2）委員会の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 委員 5 人以内で組織する。また、特別の事項を調査審議する場合など、必要があるときは、特別委員を置くことができます。 ② 委員及び特別委員は、医療に関する知見を有する者、企業の経営に関する知見を有する者及び管理者が適当と認める者を管理者が任命します。 ③ 委員の任期は、2 年とします。 <p>2 委員会点検・評価の公表 委員会は原則公開で開催し、点検・評価結果は道立病院局ホームページで公表します。開催状況については、会議終了後、議事要旨及び議事録を公開します。</p>	<p>IX プランの点検・評価、公表等</p> <p>1 北海道病院事業推進委員会の設置 定期的に事業実績の点検・評価を行うため、北海道病院事業条例（昭和 42 年北海道条例第 45 号）に基づき、外部有識者で構成する北海道病院事業推進委員会（以下「委員会」という。）を設置しています。</p> <p>（1）委員会の所掌事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 病院事業の経営状況に係る点検及び評価を行うこと。 ② 病院事業の経営の改善に関する指導及び助言を行うこと。 ③ 管理者の諮問に応じ、病院事業の経営に関する重要事項を調査審議すること。 <p>（2）委員会の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 委員 5 人以内で組織する。また、特別の事項を調査審議する場合など、必要があるときは、特別委員を置くことができます。 ② 委員及び特別委員は、医療に関する知見を有する者、企業の経営に関する知見を有する者及び管理者が適当と認める者を管理者が任命します。 ③ 委員の任期は、2 年とします。 <p>2 委員会点検・評価の公表 委員会は原則公開で開催し、点検・評価結果は道立病院局ホームページで公表します。開催状況については、会議終了後、議事要旨及び議事録を公開します。</p>	<p>・章の追加による繰り下げ</p>

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考																				
<p>巻末資料</p> <p>1 プランの策定経過 ※本プラン策定の経過は、案策定時に提示します。</p>	<p>巻末資料</p> <p>1 プランの策定経過</p> <table border="1" data-bbox="1249 384 2279 1352"> <thead> <tr> <th data-bbox="1249 384 1484 420">時期</th> <th data-bbox="1484 384 2279 420">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1249 420 1484 537">令和2年4月</td> <td data-bbox="1484 420 2279 537">○第1回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・策定の趣旨等 ・策定スケジュール</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1249 537 1484 655">令和2年6月</td> <td data-bbox="1484 537 2279 655">○第2回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・各病院の役割・機能 (緑ヶ丘病院、向陽ヶ丘病院、北見病院)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1249 655 1484 772">令和2年7月</td> <td data-bbox="1484 655 2279 772">○第3回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・各病院の役割・機能 (江差病院、羽幌病院、子ども総合医療・療育センター)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1249 772 1484 961">令和2年9月</td> <td data-bbox="1484 772 2279 961">○第4回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・医療従事者の確保 ・経営形態の見直し ・経営の効率化 ・再編・ネットワーク化 ・新型コロナウイルスなどの感染症への対応</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1249 961 1484 1041">令和2年10月</td> <td data-bbox="1484 961 2279 1041">○第5回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・北海道病院事業改革推進プラン素案（案）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1249 1041 1484 1121">令和2年11月</td> <td data-bbox="1484 1041 2279 1121">○道民意見募集（パブリックコメント） [期間]令和2年11月27日～令和2年12月28日</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1249 1121 1484 1201">令和2年12月</td> <td data-bbox="1484 1121 2279 1201">○第3回北海道病院事業推進委員会 ・北海道病院事業改革推進プラン素案</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1249 1201 1484 1281">令和3年2月</td> <td data-bbox="1484 1201 2279 1281">○第6回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・北海道病院事業改革推進プラン（案）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1249 1281 1484 1352">令和3年3月</td> <td data-bbox="1484 1281 2279 1352">○第4回北海道病院事業推進委員会 ・北海道病院事業改革推進プラン</td> </tr> </tbody> </table>	時期	内容	令和2年4月	○第1回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・策定の趣旨等 ・策定スケジュール	令和2年6月	○第2回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・各病院の役割・機能 (緑ヶ丘病院、向陽ヶ丘病院、北見病院)	令和2年7月	○第3回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・各病院の役割・機能 (江差病院、羽幌病院、子ども総合医療・療育センター)	令和2年9月	○第4回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・医療従事者の確保 ・経営形態の見直し ・経営の効率化 ・再編・ネットワーク化 ・新型コロナウイルスなどの感染症への対応	令和2年10月	○第5回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・北海道病院事業改革推進プラン素案（案）	令和2年11月	○道民意見募集（パブリックコメント） [期間]令和2年11月27日～令和2年12月28日	令和2年12月	○第3回北海道病院事業推進委員会 ・北海道病院事業改革推進プラン素案	令和3年2月	○第6回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・北海道病院事業改革推進プラン（案）	令和3年3月	○第4回北海道病院事業推進委員会 ・北海道病院事業改革推進プラン	
時期	内容																					
令和2年4月	○第1回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・策定の趣旨等 ・策定スケジュール																					
令和2年6月	○第2回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・各病院の役割・機能 (緑ヶ丘病院、向陽ヶ丘病院、北見病院)																					
令和2年7月	○第3回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・各病院の役割・機能 (江差病院、羽幌病院、子ども総合医療・療育センター)																					
令和2年9月	○第4回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・医療従事者の確保 ・経営形態の見直し ・経営の効率化 ・再編・ネットワーク化 ・新型コロナウイルスなどの感染症への対応																					
令和2年10月	○第5回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・北海道病院事業改革推進プラン素案（案）																					
令和2年11月	○道民意見募集（パブリックコメント） [期間]令和2年11月27日～令和2年12月28日																					
令和2年12月	○第3回北海道病院事業推進委員会 ・北海道病院事業改革推進プラン素案																					
令和3年2月	○第6回北海道病院事業推進委員会 改革推進プラン検討部会 ・北海道病院事業改革推進プラン（案）																					
令和3年3月	○第4回北海道病院事業推進委員会 ・北海道病院事業改革推進プラン																					

「北海道病院事業改革推進プラン【改訂版】素案（案）」新旧対照表

プラン【改訂版】（素案）	現行プラン	備考																																																																
<p>2 関係委員名簿</p> <p>※ 北海道病院事業推進委員会及び改革推進プラン検討部会委員名簿は、案策定時に提示します。</p>	<p>2 関係委員名簿</p> <p>○北海道病院事業推進委員会 (令和3年3月現在(五十音順・敬称略))</p> <table border="1" data-bbox="1249 331 2258 642"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>所属</th> <th>役職</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小熊 豊</td> <td>砂川市立病院</td> <td>名誉院長</td> <td>委員長</td> </tr> <tr> <td>奥村 利勝</td> <td>旭川医科大学</td> <td>副学長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土橋 和文</td> <td>札幌医科大学附属病院</td> <td>病院長</td> <td>兼務</td> </tr> <tr> <td>寺田 昌人</td> <td>寺田公認会計士事務所</td> <td>代表</td> <td></td> </tr> <tr> <td>松原 良次</td> <td>特定医療法人社団慶愛会 札幌花園病院</td> <td>院長</td> <td>兼務</td> </tr> </tbody> </table> <p>○北海道病院事業推進委員会改革推進プラン検討部会 (令和3年3月現在(五十音順・敬称略))</p> <table border="1" data-bbox="1249 764 2258 1335"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>所属</th> <th>役職</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岡村 弘重</td> <td>名寄市立総合病院</td> <td>事務部長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>佐古 和廣</td> <td>(一社)北海道医師会</td> <td>副会長</td> <td>部会長</td> </tr> <tr> <td>土橋 和文</td> <td>札幌医科大学附属病院</td> <td>病院長</td> <td>兼務</td> </tr> <tr> <td>堤 裕幸</td> <td>社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会西小樽病院みどりの里</td> <td>施設長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>椿 勇喜</td> <td>全国自治体病院協議会北海道支部</td> <td>事務局長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平野 聡</td> <td>北海道大学医学研究院</td> <td>教授</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平田 哲</td> <td>旭川医科大学</td> <td>理事・副学長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平林 高之</td> <td>砂川市立病院</td> <td>事業管理者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>松原 良次</td> <td>特定医療法人社団慶愛会 札幌花園病院</td> <td>院長</td> <td>兼務</td> </tr> </tbody> </table>	氏名	所属	役職	摘要	小熊 豊	砂川市立病院	名誉院長	委員長	奥村 利勝	旭川医科大学	副学長		土橋 和文	札幌医科大学附属病院	病院長	兼務	寺田 昌人	寺田公認会計士事務所	代表		松原 良次	特定医療法人社団慶愛会 札幌花園病院	院長	兼務	氏名	所属	役職	摘要	岡村 弘重	名寄市立総合病院	事務部長		佐古 和廣	(一社)北海道医師会	副会長	部会長	土橋 和文	札幌医科大学附属病院	病院長	兼務	堤 裕幸	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会西小樽病院みどりの里	施設長		椿 勇喜	全国自治体病院協議会北海道支部	事務局長		平野 聡	北海道大学医学研究院	教授		平田 哲	旭川医科大学	理事・副学長		平林 高之	砂川市立病院	事業管理者		松原 良次	特定医療法人社団慶愛会 札幌花園病院	院長	兼務	
氏名	所属	役職	摘要																																																															
小熊 豊	砂川市立病院	名誉院長	委員長																																																															
奥村 利勝	旭川医科大学	副学長																																																																
土橋 和文	札幌医科大学附属病院	病院長	兼務																																																															
寺田 昌人	寺田公認会計士事務所	代表																																																																
松原 良次	特定医療法人社団慶愛会 札幌花園病院	院長	兼務																																																															
氏名	所属	役職	摘要																																																															
岡村 弘重	名寄市立総合病院	事務部長																																																																
佐古 和廣	(一社)北海道医師会	副会長	部会長																																																															
土橋 和文	札幌医科大学附属病院	病院長	兼務																																																															
堤 裕幸	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会西小樽病院みどりの里	施設長																																																																
椿 勇喜	全国自治体病院協議会北海道支部	事務局長																																																																
平野 聡	北海道大学医学研究院	教授																																																																
平田 哲	旭川医科大学	理事・副学長																																																																
平林 高之	砂川市立病院	事業管理者																																																																
松原 良次	特定医療法人社団慶愛会 札幌花園病院	院長	兼務																																																															